

教育文化の殿堂

◎女子教育について

横柄の内天人——長衣女性を新教育に導く努力——女子教育の變遷狀況

◎半島教學の躍進

教育制度の進歩發達——普通教育——中等教育——實業及師範教育——補習教育の進展ぶり——教育の地方化と民俗化

◎朝鮮婦人服美はしく優れり

教育は人格第一也——超板の乙女——膚を見せぬ女——和服と洋装の欠陥——朝鮮服の改良服は世界——朝鮮婦人服讚美の心は内鮮融和だ

教育文化の殿堂

女子教育について

Hさんは役所が忙しそでもあり、又私も一人で見物する方が、ややこしい乍ら趣味が多いので教へられたまま單獨で京城の市内電車に飛び乗った。各停留所では、朝鮮人の車掌さんが國語(日本語)と朝鮮語の二通りで停留所の名を聲高に呼んで呉れるのも成程此處は朝鮮だわいと一寸變に感じもした。それもその筈お客さんが内鮮人二種類だから、其時或る横柄の内地人が、朝鮮人車掌に無理な理屈をつけて威張つて居つたので、私はつかつかと歩み寄り、

△『もしもし、内地のお方ですか、まあお静かにお願ひします。ヨボだけは止めて下さい。内地人全體の體面ですから。』

今日私は午前中は〇〇高等普通學校(中學程度)と京城帝國大學、午後は又女子高等普通學校(女學校)まるで教育視察デーだ。漸く探し出した〇〇學校、赤煉瓦造りのハイカラな二階建、刺を通じ

ないからと電話があつたんだそう。私は最初先づ教授の實地を見學し、特に朝鮮民族の特性の片鱗でも發見したいといふ熱心から、その成績品は勿論、廊下の掃除ぶり、携帶品の吊るし工合、靴箱の整頓、運動場の隅々迄仔細に點検するので〇〇さん目をぱちくりして居る。其處には又内地の女學生とは違つた幾多の美點が發見され、半島處女さんの物靜かなる情操と審美觀等々、朝鮮のお嬢さんは感心です……』と私は早速鉛筆に走り書き、數々の徳目を列擧して引例を附し、東京〇〇女學校長のBさんへ何よりのお土産が出来た譯だ。

何しろ此女學校は、内地の所謂女子學習院にも匹敵す可き格式をもつ由緒高い私立であるが華族女學校風があつて、その歴史も一番古い。舊韓國時代に高貴のお姫さま方へ始めて、日本語や新時代の女大學を御進講申し上げた一日本の老女史は、三十餘年後の今日なほその學校の副校長として溫容をもつて私を座敷へ招じてくれた。新校舎の裏にある溫突式私宅である。主事のY氏が私と恰も同郷同村の出身とて意外の邂逅合ひを喜び、神仙爐を鋤焼に應用しての漫談會だ。

こちらの學校長は朝鮮貴族のさる御女性の方にあらるのである。實に朝鮮婦人が、儒教二千年の舊式の型から、この新時代の女子教育となる迄は、急轉直下の變遷をしたもので、殊に上流家庭程窮屈極まる家族制度に引きしはられ、婦人の社會的地位は、頗る下位に置かれてあつた。しかも長

衣で顔を掩ひ道路で遙かに男性の來るをみれば、忽ち背を後にして路の端に立ちとどまり、相手の通過する迄待つ程の舊陋習であつた。或は内房といふ深窓に閉ぢ籠つて一生涯他人の男性に絶對顔を見せじといふかたくななる婦人社會が、一躍白晝公然と女學校に通ふ事となつた當時は、誠に劃時代的の事件であつたのである。内地ですら女に教育は不必要だ。女子の學問は生意氣になるばかりで、以ての外だといふたのはつひ先年迄の愚かなる世評ではなかつたか。しかるに日本の平安朝時代の服裝そののままの冠と木履を穿つ朝鮮社會に、長衣女性、内房女性をば街頭に連れ出して新時代の學校教育を施した事は、往年にありては革命的の女性解放運動の斷行であつて、この副校長の老女史の如き殆んど全生涯をば朝鮮女性の育英事業に精進せられた先覺者のあつたおかけではなかつたか。

抑々舊韓國時代の學校教育は、所謂經學の研究を主とし、官吏登用試験を受けることが唯一の目的であつた。それが日清役前後から日本の諸制度を模倣し、更に明治三十七年八月日韓協約締結の折、日本人顧問が教育行政に當り、明治三十九年統監府が設置されてから、教育機關の完備をはかり、更に明治四十一年には女子教育機關の高等女學校令が發布されたのは朝鮮教育界に於ける一新紀元をつくつたのであつた。明治四十三年以來滿二十年後の今日朝鮮に於ける教育文化の發達は實にめざましいのである。

「みめぐみの露に濡れてぞ咲きまさる鶏の林の姫百合の花」

○女子高等普通學校

公立	六校	生徒數	一、四一四人
私立	九校	同	二、三四七人

○高等女學校

公立	二十三校	生徒數	七、三一四人
----	------	-----	--------

女高普の方は明治四十三年の一年に對し十五校であるから十五倍生徒は明治四十三年の一五一人に比して二十五倍弱に増加し、高女の方は明治四十三年の三校に比し約八倍、生徒は三九二人に對し約十五倍に増加した。(昭和三年末現在)

半島教學の躍進

一般の朝鮮に於ける教育狀況は、その教育の本旨については内鮮人の區別なく、教育勅語を奉體して、忠良なる國民を育成することが目的であるのは論をまつまでもないことだ。

半島の教育は、明治大帝の御聖訓と大正天皇の御垂教とによつて日韓併合から、更にその翌年たる明治四十四年八月(勅令第二百二十九號)を以て發布されたかの朝鮮教育令は教育制度確立の基

礎を示し、今上陛下は又殊の他教學振興の事に御軫念遊ばされ、御即位の大典の折も文部大臣に對して、御沙汰書を下し賜つた。朝鮮半島二千萬の赤子は、又教育に對してこの御聖旨を拜し内鮮融和協心戮力専ら國體の精華を發揚する事に務めねばならぬのだ。朝鮮の教育制度はこの御稜威を仰いで其後大正十一年二月四日(勅令第十九號)改正朝鮮教育令が公布され根本的なる進展をみた。即ちこの新教育令は、一視同仁の御聖旨によつて、内地と同程度の教育を施すにあつて、半島の開發に従ひ内鮮人に對する教育上の差別觀念を撤廢し、内地と全く同一の教育制度と改まつたのである。

普通教育、實業教育、師範教育、專門教育、大學教育の五種が大體に於て内地と同様の制度に定まる迄にその秩序の大系がととのつてきた。しかし乍らその精神は内鮮共通であるがその民度、風俗、言語等が全く趣を異にするから、朝鮮に於ける特種的事情として、國語を常用とする者と、然らざる者との教育には當然差異があらねばならぬ。殊に普通教育はこの兩者に對して別種の學校を以て教育することに定められて居る。

國語を常用とするものは即ち小學校、中學校、又は高等女學校に、然らざるものは普通學校を経て高等普通學校又は女子高等普通學校に入學させることが原則であつてしかしこれも家庭や修學又は其他特別の事情ある者は兩者相互に入學し得る融通の制度がつくられてもある。

實業教育、專門教育、大學教育これは全く内地と同一であつて、師範教育も内鮮人共通しかも最近普通學校の増加と時世の進運に伴ひ、各道立の師範を廢止して、全部總督府の官立師範とし平壤と大邱は昭和四年の六月一日(勅令第八十二號)から新制度の師範教育が開始された譯である。

官立學校	一	學級數	一六	生徒數	一五一
公立	一三	同	五一	同	一、七六二

(昭和三年末)

國語を常用とするもの、然らざるものの區別も國語(日本語)と朝鮮語の差があるのみで、教育的本質には兩者何の差別がない。學校の名稱が異なる程内容に變化はないのだ。朝鮮と内地諸學校との入學、轉學の連絡、内地の上級學校入學資格に關しても正式に文部省は承認し、その連絡も全く自由であり、文官任用令等の特權も内地と共通の取扱を受けるのは勿論のことである。

普通學校の如きは、大正八年から三面一校計畫を主張して大いに教育文化の普及をはかつたが、今日は優に二面一校を突破し、今や一面一校設置主義と急速のテンポを綴つて伸びてゆくのは頼もしい限りだ。けれどもこれを全半島の面總數と比べてみれば、猶普通學校をもたぬ面がその半數であるし又普通學校在學者は、學齡兒童相當者の二割にも及ばぬ。これを更に普通學校類似の初等學校及舊式書堂に在學する者を加へても其總學齡兒童の約三割所である。私は少くとも一面一校の普通學校の普

及は年次計畫を繰り上げて國家財政の許す限りの急施設として實行して欲しいと思ふ。

○普通學校

年次	官立	公立	私立	學校數	學級數	兒童數
明治四十三年	立	立	立	四八〇	四八五	一〇、九二〇
大正八年	立	立	立	四八二	四八二	一〇、六三〇
昭和三年	立	立	立	一、四二〇	一、八七三	八四、四六一
昭和三年	立	立	立	八〇三	七、八〇七	四四、五二一
昭和三年	立	立	立	一、四二二	四三〇	四四、〇二六
昭和三年	立	立	立	八〇三	四三〇	二一、九一七
明治四十三年	居留民團立			一〇〇	三一八	一一、六三四
大正八年	公立			三七九	一、〇八二	四二、六八八

○小學校

即ち併合初期に比して學校數は十一倍強となり生徒數は三十倍強に増加したことになる。

昭和三年 官立 四六一 一、五七〇 六一、五八四 五四六

小學校はその數が合併當時の約五倍、生徒數も大凡五倍の増加を示して居る。

公立普通學校は府、郡、島の學校費の經營にかかり、小學校、高等女學校は内地人學校組合の經營である。猶中學校、高等普通學校、女子高等普通學校は、從來殆んど官立であつたのだが、大正十四年からこれを各道の地方費に移管されたらしい。

○高等普通學校

年次	官立	公立	私立	學校數	學級數	生徒數
明治四十三年	立	立		二二		二六九
大正八年	立	立		七五	四四	一、七〇五
昭和三年	立	立		一五	三一	一、四四九
昭和三年	立	立		九	一五八	六、八一三
昭和三年	立	立		九	八六	四、七八六

○中學校

年次	學校數	學級數	生徒數
昭和三年	九	八六	四、七八六

明治四十三年 居留民團立 一 一五四
 大正八年 官立 五 一、七五三
 昭和三年 公立 一一 五、五九二

高等普通學校數は十二倍を増加し、生徒數は約五十倍と云ふ著しい變り方、中學校は學校數十一倍、生徒數三十六倍強の増加、僅か二十年半島統治の實績はこの教育文化の一點からみても面白い現象ではあるまいか。

○實業學校

年	官立	公立	私立	居留民團立	學校數	學級數	生徒數
明治四十三年	立	立	立	立	一一	一一二六	一、七五三
大正八年	立	立	立	立	五	四一	一、七五三
昭和三年	立	立	立	立	一一	一一二六	五、五九二

年	官立	公立	私立	居留民團立	學校數	學級數	生徒數
明治四十三年	立	立	立	立	一一	一一二六	一、七五三
大正八年	立	立	立	立	五	四一	一、七五三
昭和三年	立	立	立	立	一一	一一二六	五、五九二

○實業補習學校

年	官立	公立	私立	學校數	學級數	生徒數
明治四十四年	立	立	立	四	一〇〇	一、五一四
大正八年	立	立	立	七三	一〇〇	一、五一四
昭和三年	立	立	立	六二	一一七	三、二八三

明治四十三年の八校に比し五十校であるから六倍強となり生徒は二十七倍強に増した。

昭和四年六月廿日の總督府令をみると、教育の地方化——即ち讀書教育の弊害や、都會文化中心に陥りやすい半島の教育を地方文化に適合するようとして勤勞好愛の精神を涵養するについて、小學規程及普通學校規程の改正を試みて居つた。要は職業教育的に、地方の民度に合する如く教育方針を定め度いと云ふ意向と受けとれる。朝鮮人は古來實業を卑み勤勞を厭ふ弊風あるは誰しも知る所、今勤儉力行と今日になつて始めてそんな事柄に氣がついたのかと不思議な位であるが、改善は一日も早くてよろしいわけだから私も素より賛成者の一人だ。

從來の朝鮮普通教育は、或は其制度の樹立、其形式の完備にのみ焦り過ぎ、その功を急ぐ内地人の

性急性を暴露したかの傾がある。そして又朝鮮奥地に於ける地方民の實狀を知悉せざる中央官吏のめくらが多かつたらしい。

葺屋根ばかりの、泥でかためた燕の巢ばかりの貧弱な朝鮮部落に、赤煉瓦の近代的三層樓の普通學校が建てられた。丁度軒の低い泥屋根と巍然たる三層樓が氣分に於て相副はぬように、内地人を手こずらしたその高踏的形式教育を又もや半島にもちこんで、朝鮮人の民俗と家庭と可憐なる兒童の實生活とは全くかけ離れたる教育法も多かつたように聞き及ぶしふしもあつた。今漸くこの種の發令をみて、凡て地方文化の實際に立脚すると云ふことは當を得た處置であり、且女子には普通學校に於ても、家事科を必須科目にしてあるなどもよい思ひつきだ。それにしても併合以來その教育文化の促進は全く半島をして別世界の如く眼醒めしめた。朝鮮民衆の心の眼を開かしめた。

朝鮮婦人服美はしく優れり

私は或る朝鮮の女學校の校庭に於て、テニス、バスケットボールに活潑な生徒さんや、板飛びやブランコに春の小鳥のさえするように嬉々たるその有様をば老女史のお座敷から眺めた。
『あちらが寄宿舎であります。』

校庭を隔てて指さされる方向には、朝鮮御殿風の建物が見える。この座敷も、向ふの寄宿舎も又新築前の校舎も皆舊御殿の一部を下附して戴いたものなそうな。老女史は内鮮融和のために、生涯清き獨身生活を守り、金儲けと賣名のための女學校經營や或は敢て穩田の神様に近づく底の内地偽教育者のような噂はたたぬ。その高潔なる道德的人格生活をもつて、範を新附同胞の子女に垂れたのであつた。眞の國民教育者と云ふものは、常に人の子のため、世の子のために、自ら一切私情を棄てた尊き犠牲的精神の發露のみが、眞に人を次の時代に殖えてゆくことが出来るのであるまいか。この意味に於て私は眞の教育家らしき教育者の至誠のみが、被教育者の心に徹するのではあるまいか。この意味に於て私は眞の教育家らしい人格者は小學校教員に最も多く發見することが出来る。それに反して中學となり、高等専門學校から大學と進むに従つて、漸次その教師は自己の教育者たる本質を没却し、學生生徒を人格的に感化誘導し得る程の人物が上級學校程少くなつてゆく。最高學府とやらの教員は其道義的低劣、てんでなつて居らぬ者が多い。それは器械的、蓄音機的、暗記的又は翻譯技能的の人間は多いが、さてその人達のどの點の人格を尊敬してよいかわからぬ連中が甚だ多い。何たる皮肉であらうが。國家風教上宜しくない者が多い。日本の教育者は『明々徳親民止於至善』の觀念『格物致知誠意正心修身』の意義位心得て貰ひたいものだと思ふ。それだけ私は國民教育者に期待する所が多いのである。國民の魂

に尊い人格をぶちこんでくれる所の内鮮人の小學教育者に一層の敬意を拂ふので、日本國民の魂を次の時代のためにつくつてやる國民教育者の涙ぐましい感激の至情には心から感謝するのだ。老女史しかも朝鮮子女のためにその身を捧けて黙々と誇らざる教育者の心情に泣かされた。

見るその校庭の賑々しさは、放課後満員の屋外運動場の光景だ。楚々たる白衣の上衣に黒色のスカート、それらの妙齡の處女達が超板(イタトビ)やブランコやバスケットに合戦と白熱の練習は勇ましい。どうしてどうして朝鮮の女學生は長衣所の話しぢやない。スポーツガールであり、よい意味のモダンガールである。私は善良を意味するお跳さんは、凡ての若き日本女性のほうがかなる誇りであつて、それは實に望んで欲しい快活さであると思ふ。そして又清淨無垢の乙女達が、青天白日の下にスポーツで喜び、さんざめき跳ねつ返る事こそ深く嬉しいのであつて、あの眞ッ黒く日焼けした顔と丈夫そうな隆々たる均整のとれた筋骨と汗と泥にまみれたる若きスポーツ乙女の甲斐甲斐しい姿こそ天女の精であり、現代的日本女性美でもあると思ふ。白粉と香水に嬌態をかくし、毒々しい脂粉の媚を異性に賣らんがために生きて居るような一般女性の弱々しいみじめな姿、そのしやなりしやなりする形こそ男性の奴隷を甘受する思想であり、娼婦型であり、賣春婦性である。日向に出てはすぐに萎れてしまふ日蔭に伸びたひよる長い青草と同様だ。

ふところ考へた私は、内地に居るこの乙女等と同じ年頃の妹や姪達が、泥まみれのバレーやバスケットの選手として、又ぞろ姫御前のあられもない野趣満々の競技に出場して居る事を聯想した。親兄妹や肉身のつながりと云ふ間柄は、旅に出ると始めて深く感じさせられるので、何れも一度淋しい長旅でもしてから眞に骨肉を慕ふ思ひ切々たるものが胸に轟くを知るであらう。故里の山河をなつかしむ心も、遠く海を越へて人情、風俗の異なつた土地を踏んでから、その實感が湧いてくるのであらう。戦場でも踏み込んで明日の生命が知れない時など猶更ぢや。これが所謂旅心でもあり人の心の至情なんだ。

私と内鮮人女學校の先生四五人、話題は女子のスポーツから必然的にその服装の可否に及んだ。

△『朝鮮服は確に進歩して居りますなあ。』

Q『朝鮮婦人服の便利は、本當に洋服以上でございます。』

△『私は周衣が好きでしてね、内地に居りまして、冬など簡単に洋服の上でも羽織れますから、重寶がつて居ります。併し婦人服では上衣が頗る短く乳房など出した女がよくあるぢやありませんか。』

P『上衣の短いのは舊式なんです。あれは田舎者か労働者の下層の女だけです。新らしい少くとも普通學校を終へた人達は、決して乳房など出したりしません。』

D「朝鮮の男子が袴のづり落ちたために、臍まで出して歩くのを見ますが、あれはだらしのないものですね、それでも内地人が浴衣一枚で尻まくりして歩くよりはましです。」

△「そうそう、内地でも邊鄙な漁師町では、夏の夕涼みや、近所の買物から水汲みはもとより、男は禪一つ女は腰のもの一枚の裸體で平氣ですからなあ、田舎の村々でもそうですよ。此方も夏の頃旅をしましたが内地の紀州の漁村や新和歌浦附近、淡路などあれだけ大阪、神戸等に近い田舎でも、それが都會なら大變な風俗壞亂になるいでたちで男女とも素ッ裸でしたからなあ。それでも敢て村々の秩序が破れるわけでもなく、平氣の社會通念なんですからね。又東北地方の漁村や、山に近い村の盆踊りに狂ふ若者の姿なども一寸都會地では見られぬ異風がありました。」

けれども私は朝鮮の田舎ではまだ一人も素ッ裸の男を見ませんし、女が全く肩から胸全部を露出して居る姿にはぶつつかりません。支那の女もそうですわ、支那の女はお湯に入るにも靴下をぬがぬ程皮膚をかくします。」

D「そうしますと日本人が一番無遠慮に皮膚を出すんですね。とにかく婦人は皮膚をみせぬのが原則ですね。」

R「そうですね、日本婦人はあまり開放主義ですわ。」

△「婦人服装はどの國が一番よいでせうか。」

「朝鮮の女装は、上衣と下衣にわかれて居りますが、まづ下着の肌着は内襦衣を着け、その上には裳で纏ふわけで中々下體は嚴重です。上着は又内赤疹といふ肌着、その上に襦をつけてこれでまあ一通りの女装が出来あがるんです。」

△「中々むづかしいですなあ、そうすると結局何枚宛着ることになるんです。」

R「普通女装では上着が肌着とも二枚重ね、下着は肌着とも四枚です。」

△「全く日本の婦人服には困りますね、昨年も私が北京に滞在して居りました時外交團の婦人方といつしよに萬里の長城を見物に參つたんですよ。その時最初にどんどん、石階を駆け昇つてゆくのは活潑なる西洋婦人、その次が支那婦人、びりが内股の日本婦人でした。日本服は國粹保存のためにも、又日本人の趣味、生活、環境、傳統などからみましても必要ですが、あれは家庭向でしてお座敷着、屋内向に申し分がありませんが屋外で活動するには不向ですなあ。振り袖の裾模様なんか、友禪の長襦袢でも日本人の禪的滋味に合致し、優美で藝術的ですから、屋外ぢやから駄目です。」

D「あなたは婦人服ではどの國のものが一番好きでいらつしやいますか、生活改善といふ方から申しまして。」

△「私はいつもそう云ふんですよ。支那服と朝鮮服との美點長所を研究し、それを改良折衷して日本趣味を豊かにした昭和新时代的日本婦人服の獨創的なものを、あなた方が一つ考案して下さいよ。と思つて居りますよ。」

R「ホホ……わたしどもにそんなむづかしいことをおつしやつても駄目ですわ……」

D「朝鮮服は御覽の通り娘さん達があのように、超板では體が四五尺も跳ねあがりますし、鞭轆は綱が水平になる程ですが、そして風を孕みますので和服なら無體裁なんですけど、朝鮮服は洋装よりも反つて堅固ですからその點は大丈夫です。」

△「しかし日本人はいくら朝鮮服が天下第一品だとわかりましても、朝鮮に對する誤つた優越感を抱いたり、又洋化の事大思想をもつて居りますから、中々朝鮮服は着はしません。支那服や朝鮮服を着たら自分の對面でも傷つけられたように思ふ者が多いのですからね。」

D「そうですとも、内地人が威張つたつて、妾どもの朝鮮半島や支那大陸の方がうんと文化的には大先輩なんですから、日本文化なんて威張つても妾共の祖先から教へ傳へたものが多いんです。僅か五六十年西洋文化を早く輸入しただけぢやありませんか。」

B「一體に内地人のがわたしどもを一枚下手にみてゐるらつやるんですよ。今は同じ日本臣民です

わ。」

△「内地人が朝鮮に常識をもつて居らぬ所に誤解が生まれるのです。それとともに皆さまも、此上とも日本人の特性が、日本としての味ひがどこにあるのか見つけ出して下さい。」

B「大抵の内地人に聞いて御覽なさい。あなたは支那人をつくりです。朝鮮人をつくりです。なんていはうものなら眞赤になつて人を馬鹿にするなと怒ります。けれどもあなたのスタイルは西洋人の

ようですよとお世辭を使へば嬉しがるにきまつて居ります。ホツテントツトでもアングロサクソンでも、蒙古族でも天地創生の神からみれば平等公平なる可き人類であること、そして又自分が東洋人種であり黄色人種であることを忘れて居るのです。」

R「お互ひに内鮮人同志は兄妹であり、支那人とは親類であることを知らないんですよ。」

△「洋装は西洋人の骨格や皮膚の色、その生活様式、趣味情操又は天然自然の氣候、風土や歴史なり傳統などところんがらがつてああいふ服装と生活ぶりが生れたんですから、それは彼等には都合よく似あふものでせう。しかるに日本の婦人は、それを全く無批判に何でも舶來のものならよいと云ふので、あちらの形式をつくりぢやありませんか。何です。日本人の家庭でババさんママさんなんてまで流行し出して來ましたよ。それが如何にも文化生活らしく感ずるんでせう。そんな呼稱は私共日本人

の生活や感じにはびつたりきませんね。丁度日本のボーイスカウトの服装が、英米のスカウトそつくりで、日本人にはうまくそりがあつて居りません。そのことと同じですね。それが又婦人服にしても、私は東洋の婦人服で最も手近にこんなよい朝鮮服があるのですから、これに若干の支那趣味、蒙古趣味も加味して、且つ日本固有のしづみや模様と色彩のやさしみ、禪や能楽や茶の湯等のあの優雅なる藝術味も混じて、直線的の朝鮮服に曲線的の和服氣分を與へ、白色や三原色の色彩的單純さに對して複雑にして趣と變化に富む日本の地色を副へて眞に新世界のモダン日本婦人服を創造して欲しいのですよ。男子の洋服でもやがては日本式の新なるものが創造されなければなりません。』

R『そうですね、内鮮融和なんて叫ぶんなら、内地の御婦人は洋装をお召しになるよりも先づ堂々と朝鮮服を着て下さればよいのですわ。』

D『日本人の皮膚の色、骨組みは誰がみても西洋人よりは東洋的でありまして、支那人、朝鮮人、蒙古人の骨格とは五十歩、百歩ちやありませんか。朝鮮服は内地の方が着られてる洋装よりどれ程着心地と氣分もよく、且つお似合ひ遊ばすのはむしろ當然なんですわ。血は水よりも濃しといふぢやありませんか。黄色い皮膚同志は、やつぱり東洋的服装がいいんですわ。』

△『全くです。私もそう思つて居ります。東京や大阪附近の都會女性は斷髪が流行して居ります。私

は生活を改善して簡易にすると云ふ趣旨なら職業婦人など斷髪も一つの理由がありませう。それがただ有閑階級の遊戯的新らしがりから、しかも西洋婦人が髪を剪るから妾どもも剪りますといふ浮萍のよりに文化的根底のない流行を追ふと云ふ人眞似ですからね、甚だしいのになると折角の黒髪を赤く染めて縮らかして居りますよ。少しでも西洋人にあやかればいいんですとさ。しかし眼の色と皮膚の色だけは人工的にはだめですわね。御存知の通り西洋人は一般に髪が悪いでせう。日本女性美の緑りなす漆のような黒髪は、昔から美人の必須條件として七難をかくす時まで尊重されたもんぢやありませんか。日本女性の皮膚の光澤、面相にふさはしく生れて居るんぢやありませんか。毛髪が短かくて帽子をかむりそして顔の輪廓を誤魔化す西洋人とは違ふんですよ。斷髪はあなた歐洲戦争の折、國家總動員で女性の出勤により、髪の手入不足のため寄生蟲よけに髪を剪り出してから一層流行となつたんですよ。最近アメリカのフラツパーは足の筋まで切つて足の美を腦み出しましたが、日本婦人の大根足はどう切るのですかねアハ、。何事も歐米人の眞似をする日本女性は、痴呆性變態的、狂躁症患者ですね。東京の銀座街頭などは、ジャズ、キネマ、カクテル等のアメリカニズムの横行、心は日本人にあらず形は又西洋人でもない連中の百鬼が群りますぜ。内地人が朝鮮や支那を侮るのは、即ち歐米を飽迄も心酔してその形にかぶれる。即ち器械文明と物質文化に憧憬して東洋の精神文化を省み

ぬと云ふ一つの反動思想ですね。天に唾する自己侮辱の卑屈さから来たのですよ。』
D「先生は男子の方でよくお裁縫まで存じて居られますこと。服装殊に着物のことに大分気がつかれます。たしかにその民族の特性は、服装が一番早くわかりますね、朝鮮服は男子のものは大して香しくありませんが婦人服はあなたも無條件御賛成下さいませぬい。』

R「そらあそうですね、朝鮮の婦人服は、四肢全部を筒形の袖袴に包むのですから、和服のように風が吹きましても裾がまくれる心配は絶対にありません。』

△「そうですね。私は朝鮮婦人服禮論者の一人ですハ、ハ、ハ。婦人の和服は、風になぶられて、脛は勿論、ともすると一氣にお腹まで外氣に撫でられますから見て居る方でもハラ／＼しますね。確に女の和服を非藝術的なる東北地方のモンベエに代用するわけにも参りますまいから、さしあたり朝鮮婦人服採用に限りませぬよ。私は朝鮮へ旅する毎に、何かクリエーションの気分のある文化を發見したいと焦るのです。朝鮮人の優秀なる文化をみつけないのです。それが何時も落膽に終るなんて申したらあなたの方に叱られませうが、とに角次の二つだけは代表的だと思ひますよ。その一つは諺文ですねあれは言語學上からみても偉大なる文化であつて、日本の假名書きなどからみますと、大層權威ある價值があるんですね。そして過去に於いて優越なる文化を創造する力をもつて居つた民族だと云ふこ

とが、諺文だけでも想像されますね、その二つが即ちこの婦人服装の完備です。これのみは朝鮮風俗の特質として、何時迄も残して置きたいものですね、今少し現代的に改良して、朝鮮女子の文化的結晶として、世界に誇る可きものですよ。風俗史上からみても實に面白いですね。』

事實、朝鮮服は、顔と手先のほか皮膚を外部にあらはさぬ事は甚だ慎しまやかでよろしい。又朝鮮の婦人は、室内では蹲んでお尻を床に落して仕事をしてくせがある。又立膝が普通の座り方で、日本の如くお尻を兩足を組んだ上に乗せて座ることなど決してしない。

又この朝鮮服なら、洗濯をするときでも、又はスポーツであられもなく駆け廻つても、又どんな立居振る舞ひがあつても、婦人としての姿態に不體裁な事の起らぬ裁縫の仕組みだ。

又腰や腹を温めるようにできて居るのも婦人向きだ。それに經濟的で、洋服や和服よりはうんと安い。普通の女ものなら肌着から上着まで一揃十二三圓で二三圓も出せば、白襟紋付裾模様と云ふ程度に禮装一組、麻や木綿なら四、五圓程度で女裝としての襦、袴、裳まで一切できるわけ、白色は朝鮮人の好む所で自ら白衣の民族と稱するが、これは洗濯と一回毎の解きほどきと縫ひ仕立てに大層な時間を費すから、色物友禪式模様を應用すれば、その缺陷も補はれてしまふ譯だ。

そして又男女の朝鮮服は面白いことに、上流貴賢の禪裝でも、チゲを負ふ自由労働者の働き着物で

も、その服装自身には變りない。裁縫のしかたは寸變りがなく、ただその着地が絹物であるか、木綿ものであるか、或は汚れて居るか、清潔であるかの問題に過ぎない。内地では野良の仕事着や、書齋の平常着と又羽織や袴や儀式様と各區別があるのとは違つて至極平民的だ。デモクラチックだ。それに純白の上着に、左襟と前身頃の胸に長い幅廣の紐がつけてあつて、右の胸脇で結んでその端をさらしと垂らしておくのも可愛らしい。男子服に於ては私共が利用しては、その袴(單衣は袴衣)が一番便宜だ。洋服のズボンにあたるので、非常に寛濶で座るによく、椅子に腰かけてもよく、又洋服のように折目がまるく崩れる心配も無用だから、室内着には殊に重寶だ。そこい周衣でもひつかけて居つたらガウンの代りに又バヂヤマの代りにももつて來いの便利服だ。

私共が今更内鮮融和を叫ぶ程でもあるまいが、その彼岸に達する理想の前には、幾多の誤解と感情のいきさつが涌くのは止むを得ない。それは對岸までの小波だ。波のうねりだ。小さいうねりに挫折して兩民族の幸福のために定められた内鮮融和の目標を見失ふような間抜け者ぢや困る。男も女も老人も若者もお互ひが内鮮相互の生活に親しみ、愛情と尊敬を以て、ただ明るい希望に對する寛容の態度を示して抱擁力を大きくしてゆくことだ。敢て單なる一つの朝鮮婦人服物語とは申さぬ。要すれば日常の一茶事から、先づ自分等の心もちと足もとから相互に理解が一層深められねば兩民族が一體と

なる人類福祉の理想は、到底求められぬであらう。私は旅の道すがらどうして二十萬人の新附同胞が着用して居る朝鮮服、殊に一千萬人の朝鮮婦人が着て居るこの優れるそして美しい婦人服、近來うんと改良されて洋装と支那服の美點のみ採用せられたかの觀ある東洋趣味濃厚なる朝鮮婦人服が、内地の和製フラツパーやモガ連中が着服しないかが不思議であつた。人種的に似てもつかぬ斷髪と洋装と謂ふ毛唐趣味に憧憬する前に、洋装の代りに朝鮮婦人眼を改良して、そこに日本婦人としての創造的氣分をふくめ、そして内鮮の長をとつた昭和新时代的婦人服が、從來の和服の短を補つて考究さるる雰圍氣を望んだのであつた。その氣持こそ一つの内鮮融和の心ではあるまいか。これが私の朝鮮婦人服禮讚の心である。

平壤鳥瞰

◎古朝鮮の柳京から近代工業都市へ

戦史的古城秘話——朝鮮人は舊蹟遺物に對してどんな氣をもつか——半島工業の大勢力——統計に内鮮の差別はいらぬ

◎大同江畔の朱殿玉樓

大同門——畫舫——乙密臺——玄武門——牡丹臺——浮碧樓——船橋里——江西の古墳——

平壤鳥瞰

古朝鮮の柳京から近代的工業都市へ

京城から西北へ百六十一哩餘、急行なら約七時間で平壤に着く。平壤は朝鮮最古の都會であるからこの舊史を偲べば恰も半島三千年の興亡の迹を述べるようなものだ。檀君の傳説がどこまで信をおけるかは疑問であるが、我が素蓋鳴尊が朝鮮の檀君であるなどは、面白い話ぢやないか。檀君傳説は今から約六百五十年前に高麗忠烈王の頃釋一然の三國遺事に最初紹介されたものらしい。これを別問題としても、周の武王の命令で、箕氏が五千餘騎をひき具してこの地に都し始めて朝鮮の國號をきめたと云ふことである。その後四十一世の子孫が相繼いで君臨したのであるが、かの漢の高祖の末頃燕の衛滿が朝鮮に渡來して箕氏の一族を南方に追つ拂ひ、更に又衛滿三代の子孫右渠の時、漢の武帝がそれを亡ぼして、平壤を占領した。これとて約二千年前の古い出來事だ。そして樂浪の文化で名高い漢の樂浪郡が置かれたり全く連續して大陸支那や北虜の屬領的、都であつたのである。其後朝鮮は、高句麗、百濟、新羅の三國が、五百年の争ひを演じたが、就中高句麗が斷續的であるが、それでも十

一代東川王から約四百五十年も都を此處に定めたので高句麗の平壤と謂ふわけだ。高麗時代には西京と稱し又西都、柳京或は平壤と改めたとして舊都には變りがない。時には又々支那大陸から唐軍が新羅と結託して高句麗を亡ぼしたこともあれば、更に高麗時代には蒙古軍が此地に來襲もし、李朝文祿の役には小西行長の平壤攻略も敗れて明軍の入城となつたり、日清戦役には我軍がこの都に屯する清軍を包圍して總攻撃を試み、清軍を壊滅せしめ、日露戦役には又この地に我守備隊が露軍を戦陣の血祭に撃破したなど、平壤の地は歴史的に、殊に戦史的に重要な關係と因縁をもつ西鮮隨一の都府だ。そして古戰場を包み複雑極まる半島の歴史的古城の秘密を背景に抱く西京だ。

けれども私どもが期待する程その割合に名所や舊蹟に乏しいのは、兵燹と易姓革命のため、相互に前時代の文物を破棄するためではあるまいか。概して半島の文物には、低回願望去るに不忍或は讚嘆惜く能はずといふような歴史的建築物に乏しいことは、旅人の誰しも感じて不服をとなへる點の一つだ。京城、慶州、水原、開城又は北鮮の咸興等にその歴史を偲ぶものが多いけれども内地に比して甚だ少ない。淋しい。又その遺跡から受ける感覺は極めて生温い刺激しかもたない。内地人が、日本の神社や佛閣の古蹟を訪ねて敬虔の氣もちをそゝられ、西行ならずとも何事の在はしますかに不抱自

然と忝なう感じて頭をたれるその心理と、朝鮮人が京城や平壤等で残存した宮殿、玉樓を眺める心地とは全く相異なつて居るのが不思議であつて、殊に李朝末期の建築物の豪快さをみる時は、民人は決してそれに歴史的、祖先の文化と云ふ親しみを感ぜず、これこそ我等を疲憊せしめ、國帑と民力を傾けてアラランの唄のみを唱ひ乍ら、自分等のみ榮華の夢をむさぼつたのだと謂ふ反抗心がむらむらと起りますとは或る朝鮮人學者が私に告げた僞らざる述懐でもあつた。今平壤の歴史を彼等が考へる時にも、そこに全朝鮮が統一したる獨立國家としての由來なく、別人別個の國々、それに北虜や漢民族の統御をも聯想し、南鮮、北鮮又各々異民族の歴史をもつ上から佛國寺の古塔も、慶會樓の偉容も或は牡丹臺と浮壁樓の眺めも悉く各々異りたる易姓革命の歴史的變遷を物語り、且つ自己とは血族的に著しい争鬭的差別のあつた人々の残した建築物であると云ふ。即ちその文物に對する民族的誇りが眞に自分等と同一祖先が残して呉れた傳統である。慕はしい文化であると直感しないのにも一因がある。朝鮮文化はその民族の獨創性に乏しい、それは支那文明を輸入し或は印度文明を學び乍ら、しかも似て非なる、更に低劣なる支那の模倣が多いと謂ふ學者の定説は決して半島人の誇りとはならない。誇る可き文化が少なくないといふのだ。

朝鮮に發掘された樂浪の文化は世界に誇る可しと喧傳されつつそれも實は漢民族が、北鮮地方一帯

の領土を占領したる時の地方的遺物ではないか。新らしい朝鮮の文化が生れでなければならぬ。朝鮮人特有の心性から、世界人の敬服し嘆美す可き大文學、大藝術を生み出さねばならぬのだ。それは若い半島の青年の責任だ。

平壤驛前の廣場には、高さ三丈、位もあらうか七重の石塔がある。高麗時代のもので其形が面白い。附近に箕子の井戸があるそうだが私はうっかりしてみつけもしなかつた。

出迎へてくれたUさんと私の乗つた自動車は、今驛前より古朝鮮から柳京時代を経て最近工業都市と變遷したる平壤府の電車通りに沿ふて走つて居るのだ。そして今は北鮮の重要な貨物集散地であり又石炭や鐵鑛其他の諸鑛物の豊富なる埋藏と水量多い大同江と相俟つて大工業地の將來を豫想せられ、その人口も十二萬七千〇三、内地人二萬五千五百五十九、朝鮮人十萬六百二十八、外國人九百十六）朝鮮第二の大都會だ。

△大分内地人の家らしいのがみえますね。』

八千代町、黄金町を突き抜け、大和町から泉町の方へ左側に折れて、そのひつこんだ奥が平安南道の道廳である。そのお隣りが平壤府廳、内地田舎の氣の利いた縣廳よりも建物は古かつた。木造のベンキが剥けかかつて居るようだ。

U「此處へも朝鮮人から爆弾を投げこまれた事がありました。」
 Uさんの指さす所を見れば、道廳舎警察部の一室らしい。ぐるぐる役所の中を一巡してから山手町のだらだら坂を上りつめ、丁度道廳の背後に突つたつて居る小丘——瑞氣山公園から市街を俯瞰すると云ふ段どりとなつた。丘上の日清戦役忠魂碑の前でUさんと二人並んだ所をWさんがシャッターをバチリ。

この公園そのものは誠にあつさり過ぎて、樹木も若い、それでも公園の東南麓からは、市街の大班が俯瞰出来る。例の半土窟のようなそして燕の巢の如き田舎の家根を京城からの車窓からみて居つた私は、朝鮮風蕨が聳えたつ木造建築の朝鮮人街を見下ろして前者との對照が不思議に思つた位、朝鮮半島の山河は、そして車窓からの感想の一つは、京城、平壤等の都邑だけに過去の朝鮮の一切の奢侈と光輝と貴族的趣味と文化的建築とが集中され、其他の沿道にはただ赭山と禿河と燕の巢の農民の荒廢と貧困の極致を眺められるのであつて、相當なる木造建築さへ田舎の部落には見えぬのが奇態である。兩班や貴族や其他の特權階級者のみが經濟的にも社會階級制度の上にも、その都市生活者と農村生活者とは劃然たる階級的差別的があつたことを考へさせられるのであつて、今平壤の町をみ、そして都會地に於てのみ人の住み得る程度の家屋が構比し、他の土地には内地人の中流階級と思しき家

屋すら兩班や土豪以外にも一戸も見つけられぬさまを發見して李朝時代が恰も十七世紀中葉のフランス社會の如くでもあつたのではないかと聯想させられた。
 此處から西北の原ツばに遙か見えるのが普通門だ。あれはその昔支那から來る外賓大官等の歡迎門であつて、高麗成宗の建造と云ふから約九百年前の昔のものだ。

△「やつぱり舊都の感じが涌きますね。」
 公園の山の下を下つて瑞氣山通りと云ふ靜かな所に鐵道ホテルや公會堂等があつたようだ。

△「Uさん、一體平壤は經濟的都市だとおつしやるがどんな理由からですね。」
 U「大同江の流域から農産物が澤山できますし、交通の便が鐵道と水運二つとも宜しうございませう。それで物資集散の中心地と云ふわけですね。けれども平壤の將來は工業地として有望なんですよ。最近陸海軍の工廠や、其他セメント、砂糖、製鐵事業等がこの附近にどしどし出來ますし、都市計畫では川向ふの船橋里ですね、あそこが工業地帯となつて居ります。」

△「だつて朝鮮は人口の八割一分が農民だつて云ふぢやありませんか、農業國の例外的都市が生れるわけですね。」
 U「朝鮮も段々農業ばかりぢややつてゆけますまいね、農業的生産物は全産業生産の約七割六分に當

つて居りまして、農産物及その加工品の輸移出額は、總輸移出額の約八割に當つて居るようです。しかし、半島の礦物資源が豊富でありますが、舊韓國時代は、その資力と技術と民智が備はらず、それに政治が亂れてましてね、全く振はぬのでした。李朝の末期には列國が半島の礦業權を獲得しようとして、漸く李朝もこれに自覺を促され明治三十九年韓國政府は日本の忠言を入れて、始めて礦業法や砂金採取法などの礦業制度が確定したのでした。大正五年には朝鮮礦業令の實施がありまして、歐洲大戰時代の異常な發展から其後の財界パニックを経て近頃漸く堅實な道程を辿つて來たようです。明治四十三年に於ける礦産額は六百六萬餘圓に過ぎぬのでした。昭和三年には二千六百三十六萬圓に上りまして逐次向上してきました。主なるものは銑鐵、金地金、石炭、鐵礦、特に金、鐵石炭、黒鉛を朝鮮の四大礦業と稱して居りますね。

△「はあ、それでもね旅行中、朝鮮にはあまり工場の煙突はさつぱり見えませんでしたかね。」

「いやいやどう致しまして、朝鮮の工業はそら内地とは比較出來ませんが、工産物價額の如きは、大正元年に於て千七百二十萬圓であつたものが、昭和三年には三億一千七百九十二萬圓に達しまして、十八倍の増加です。又工場も明治四十三年には百五十箇所、その資金が七百九十八萬圓、従業員が八千二百人、生産品價額九百二十二萬圓であつたんですが、昭和三年には工場數五千三百箇所、資

本金額は五億四千九百二十二萬圓、従業員數九萬九千五百人、生産品價額三億九千二百五十二萬圓です。すから、工場數は三十五億、資本金は六十八億、従業員十二倍、生産品價額四十二倍ですが、猶半島には御存じの通り工業原料も多く、未開發の富源もあり、殊に勞力過剩ときて居りますから、大いに内地資本家の進出を希望するんですね。」

△「はあ、それからね、あの朝鮮の高麗燒なんぞね、ああ云ふ陶磁器の方はどうなつて居るんですね。」

「窯業の方はよくわかりませんが、何でも近年はつまらない日用品だけしか出來ぬようです。しかし原料が特別に豊富だと云ふので、近頃は窯業熱がほつほつ出ました。」

△「私ばね、何か朝鮮人特有な技能でなければ出來ないと謂ふ世界的の美術工藝品があつてもよいと思ふんですがね、昔の高麗燒か何か。そして美術や工藝の朝鮮文化を機會ある毎に海外にも宣傳してやり度いと、心待ちして探し廻つて居ります。」

私はいつも朝鮮總督府の統計をみる時、産業や社會經濟事情に關する數字に於ても、一一御丁寧に内地人と朝鮮人とを區別してあるのを見受けるが、それは内譯として參考的のもの、けれども朝鮮半島全體としての産業の現勢を示すとき總督府が殊更に二項目に分類して發表する氣もちが不明であ

る。それは恰も在滿同胞二十萬他朝鮮人百廿萬などよく滿洲に於ける日本人の統計を示される滿鐵會社のリポートをみるが、これも何故在滿邦人として最初から百四十萬人と發表せぬのか、朝鮮人を區別するからいけない。滿洲の在留邦人と申せば、日本の國籍あるもの内鮮人悉くが同胞である。凡て物事の發表と云ふような一些事にしろ、半島人と内地人とを特別に分類して宣傳しようなどとは愚の至り。しかも惻口のように朝鮮人からみれば最初から在留同胞百四十萬の邦人と稱して貰つた方が大義明文からみても氣もちよくあつさりしてゐるではないか。法理的には勿論だ。

今私はUさんと半島の工業を物語りつつ何か機業の方面で朝鮮地方色濃厚な近代的圖案の織物でも出ないかしら、何かすばらしい朝鮮人の優秀なる藝術味、或は特有の技術を發揮した工業的の器械や器具などが發見されぬだらうかと質ねつつ總督府や滿鐵等が常に内鮮人を區別せぬでもよろしい所を特別に區別して統計を發表すると云ふその干愚と無禮さ加減を内鮮融和のために憤慨したのであつた。

大同江畔の朱殿玉樓

平壤の各所は、大同江をふくんで眺める所に味があり、京城は南山、北漢山の山々をバックにして

其景色の特徴があると考へられた。

平壤には大同門、普通門、七星門、玄武門等門の名所が多い。門と申しても其結構壯美は専門家には各々のみかたがあらうが、私共素人目には、その門に直面して仰ぎみた時の第一印象は、芝の増上寺や信州善光寺の山門を見た者としては驚嘆する程でもない。だから代表的大同門を一つみて置けばよからうと思ふ。京都西本願寺の唐門や日光陽明門の輪奐の美やその彫刻や裝飾に比べては甚だ物足りぬ貧弱さであるが、半島文化の一表現としてみる所に始めてこの門の見學的價値も生ずるわけだ。

驛からは三十町程もあらうか名だたる大同江畔の右側に巍然として屹立する三層樓門だ。これも平壤六門の一つ。京城方面へ通ずる唯一の要門であつて、五百年前李朝三代太宗の六年に創建され、其後中宗の年に兵火に遭ひ、宣祖十年、今から約三三三十年前に改築されたものだそうなる。そしてこの古樓門も春風秋雨のために大分時代じみて來た。

門のすぐ背後には洋々たる大同江が流れて居る。昔時大官連中が、龍頭の畫舫を浮べ美妓をのせて江を上下し乍ら、舞樂を奏したのであらう。今も俗惡な畫舫のペンキ塗が二隻淋しく岸につないであつたが、春の柳の若緑りが匂ふ頃、又夏の納涼に妓生を畫舫に乗せてこの川を上下する風流人もある。見物の道順とは違ふが門を紹介した序に錦繪に名を賣つた玄武門を思ひ出してみた。

さあ玄武門は驛から直行すれば一里あまりはあらうか。乙密臺下の松林に圍まれてある平壤最北の城門ちやつたので、何でいこんな門なら俺だつて乗り越せるわと云ふ位の手頃の門だ。けれども日清戦役當時は、清國軍がこの城門を中心にした丘陵の陣地から、そして今日は植林で松林が深くなつたがその頃は平坦開潤の水田と一つの隠掩に利用す可き地物さへもなかつたので、我立見少將の朔寧支隊は平壤總攻撃にこの方面を擔任した、三村中隊が決死の前進を試みるが敵は地の利を得て高地からつるべ撃ちを浴びせる。塙壁によち登つてはしきりと敵弾にうたれたそうだ。古戦場の戦況をば案内して呉れたG少尉から聴取したが、近代科學的新戦術や新兵器の豫備知識が、貧弱乍らへばりついで居る後備兵役の私には、中々當時の慘況を聯想するには困難であつた。それでも當時の作戦計畫や彼我兩軍の諸環境や士氣の差異など面白い印象を與へて貰つた。玄武門の樓閣をその當時のものとは違ふんだそうだが、圓形にくぐれる土臺の石門の内壁には、何々學校何某生徒、何年何月何日此所見學すなんて落書で見苦しい。獨りこの玄武門だけぢやなく全鮮の名所舊蹟や古建築物のある所、しかもその尊重す可き萬人の畏仰し觀賞する文化史的貴重物にも、遠慮なくナイフで姓名を彫刻したり、墨で署名したり、随分多かつた。旅順や青島の戦蹟や塹壕の内壁にも、又は支那の北京や萬壽山の大切な世界的遺跡にも日本學生の旅行者氏名が麗々しく記してある。自分では好記録でも残した

つもりなのであらうが、その没常識と不徳の汚名を海外にまで國辱的に曝して居るのを知らぬ輩で、殊に外國の名所見物で落書する連中の心理がどうしても私には讀めないのである。無分別なる傳單をば曲阜の孔子廟でも紫禁城の玉殿でも、公園の土塙でも所かまはずべたべた宣傳文を貼りつけるそしてその各所の氣分を壊し、建物を損して居る支那國民黨宣傳部の試みた没常識と同じ筆法だ。醜い落書など京城、慶州、平壤の古蹟や名所的建築物に大分見受けられたが、こんな事は適當の名所保存法を各土地の有志達が研究して旅人の不徳を未然に防ぎ且つとり返しのつかぬ、又建て直しの出来ぬ文化的價値深淵なる名勝を一層大切にして保護して貰ひたいとその時ふと痛感したのであつた。落書など随時建物の特質を損せぬように消してゆくこともできそうなものぢやないか。こんな所にも日本人の公徳心の少ない點が発見されて居るのではあるまいか。七星門から道はだらだら坂で五六町もあつたらうか。芝生の頂上に古風の建築物が一棟ある。これが四虛亭と云ふのだ。

『山際高臺瞻乙密。山巖來往渾無定。』

海中瑤島隔三神。笑謝塵寰車馬人。』

——明 朱之蕃

この一帯の小山が乙密臺。牡丹臺と相對し乍ら、平壤第一の眺望絶佳の場所とされて居る。玄武門や浮碧樓が翠綠の森からのぞかれ、溶々たる大同江は楊柳に埋もれた綾羅島を浮べ又平壤府民水道の水源池も手にとるように見える。この丘陵は文祿の役には小西軍が脅威された所であり又日清役には、我が立見、佐藤の兩軍が清の王昆の軍を撃破した所でも四虛亭にはその頃の彈痕が残つて居る。乙密臺を下りてその西北部一帯の松林が箕子陵である。箕子は朝鮮の開祖としての傳説上の人物であつて、この廟は高麗肅宗王の十年の創建。李朝も成宗の十二年には舊祠を増築して建碑もしたと云ふから今から約四百五十年位昔のものだらう。陵と申しても大した規模ではなく芝生の小山に石塔が一基、その石碑の文撰は李朝の李良と云ふ學者である。箕子の傳説は東國通鑑や、後漢書、又は司馬遷の史記にも記述されてあつて、朝鮮の開祖と謂ふも實は殷の紂王と云ふネロに比敵される暴君の臣、一族五千の民族的移住を此地に求めた漢人種である。何故支那人であるものを尊敬し出したかは、半島の形勝が常に大陸支那の脅威を避けなければならぬので、支那に媚びて支那人を祭つたとも思はれるふしが多い。それでも半島人が、漢民族以外の契丹や金に占領されるよりも、支那本部の中華文明の土に額づいた方が安心が出来たしその事大思想も満足し且つ外交政策上得策であつたのだ。その丹壁の殿堂の入口には汚い朝鮮人の番人と小僧がしきりと門錢を要求して居つた。内地式

の入場料の他に支那式の門錢迄徴収する所が中々大陸的だ。浮碧樓は千年の昔、永明寺南軒上人の建立にかかり平壤屈指の古建築物、牡丹臺上からその脚下には錦繡山を洗ふ大同江があり流れに浮ぶ美はしい綾羅島から更に水に煙る對岸を望むのも又よろしい。遙かに平野の背後には中和、祥源の諸峯が聳え又大院星の陸軍飛行場も手にとるようだ。約八百年の昔時、かの高麗の叡宗が、西巡の際此樓を中心として群臣を集めて宴を催し、李顔をして浮碧樓の名をつけさせたそうだし、金黃元のと云ふ詩人がこの絶勝を題詠するのに終日苦悶し漸く、『長城一面溶々水。大野東頭默々山。』の二句だけが推敲され後は痛哭するのであつたとも云ひ傳へられて居る。文祿二年の役に明の李如松の大軍に包圍された我宗義智を部將とする二千餘人が圍を突破して小西の本隊に合したり日清役にも立見少將や佐藤大佐の兩軍が奮戦した古戰場でもある。私はその欄に倚つてせめて東人詩話の金さんの心もちを偲び乍ら、半日位この山上から四邊を見廻し惚れほれする風致を眺めつつゆつくりと冥想してみたいと感じた。

題 浮 碧 樓

高麗 金 富 軾

「朝 退 離 宮 得 勝 遊。

無 窮 景 勝 赴 雙 眸。

雲 邊 列 岳 重 々 出。

城 下 寒 江 漫 々 流。

柳暗誰家沽酒店。

月明何處釣魚舟。

牧之會願爲閑客。

今我猶嫌子自由。

U 『お牧の茶屋も平壤名物の一つですよ。高濱虚子の「朝鮮」と云ふ小説で有名になつたんですね。』
日本式茶寮、その長い椽側に腰をかけて番茶をすすり乍ら私はUさんに極く小聲で、
△『お牧さんて云ふモデルはまだ生きて居るんですか、もう婆さんでせうな。』

この茶屋のお隣りが永明寺、高句麗十九代、廣開王の三年に創建され資格は禪宗の名刹なんだが、日清役で清軍がこれによつたため我軍のよい目標となつて兵燹にかかり今は小さい御堂が一つ、幾多の殿堂樓閣が烏有に歸したと謂ふ。非常に急の傾斜になつて石段を下りて道路に出た。

Uさんは役人であつたから、そのぐるぐる走らせた自動車をとある交番の前にとどめたが、お巡りさん直立不動で擧手の敬禮に私はどきまぎした。そして大同門と並んで大同江にのぞむその懸崖にある古建築の練光亭をみようと言ふのだ。その練光亭は歴代支那の使節を迎へたり、又地方大官の觀月や宴會場にあてられた場所、四百餘年前監司許祕の建てたもので練光亭の文字は車石峰の書。
明將沈惟敬と小西行長とが會見した場所として和睦の商議に油断して小西軍が大敗した愚劣さを考へ乍らその眺望の絶佳にうつとりと無言のまま佇立すること約十分間。

この對岸船橋里には日清役で大島旅團苦戦の地、この大同江鐵橋から半里下流の土城が約二千年前の漢の樂浪時代の都護府の址で、その附近には今や千百三十基の古墳が発見されたので、平南線(平壤—鎮南浦間)の岐陽、眞池洞邊が漢の武帝が四郡を置いたのとも謂ふ。當時の漢民族の偉大な文化に對しては、その多くの發掘物によつても世界の考古學者を驚かし、樂浪文化の遺物は本國の支那に於ても絶えて無い學界の貴重品が多いそうだ。殊に江西の古墳は岐陽から自動車で約三里、江西邑附近の三暮里面にあるので、土地の金さんが頻りに案内の勞をとつてやらうとも云ふしUさんも一般人には保存上解放せぬが、知事の紹介で見ろ、見ろとすすめて呉れたが日程の都合で遂に見逃してしまつた。

何しろその壁畫は二千年前、現存のものぢや東洋最古の藝術的繪畫として名高いので、古墳の石槨式壁面の蒼龍、白虎、朱雀、玄武の四神圖や天井に畫かれた日月に鳳凰をして、楣間の唐草模様などは技が神に迫りその風化作用を受けた漆喰も、又は雲や草花の曲線美や彩色の配合などは大したもののなんだそう。Uさんは中々自慢して居つた。この藝術が漢人でなくて純粹の朝鮮人の作であつて呉ればよいのにと私は思つた。

半島の民族は實際果して純粹の朝鮮民族と謂ふものがあるのか。その學問的に古來からの朝鮮民族

と云ふものが獨自的存在としてあつたのか。Uさんは、朝鮮人は種々の民族の混血種であつて、系統だつた民族の血液がななくみな濁つて居るのが一つの特質なんだと私に告げた。

朝鮮宿の窓から

◎ 朝鮮の社會衛生思念

古典的な笠——併合後はあばたづらがなくなつたわけ——
頑健な鮮人——醫者は内地の十分の一の割合

◎ 鎮南浦府の發瀝島にて

流水がなければ良港だ——貿易——平和花園——朝鮮旅行
は朝鮮人に限る——

◎ 温飯、漬物、ビンデエの三地方色

朝鮮宿の南京蟲——酒幕に温飯をすする——世界一の漬物
だ——ローカルカラーの三名物——

◎ 民族性觀察の一端

古き殻からぬけ出すことができぬ——エロとグロの無批判
的流行——當局の施政は民度に副はぬのがある——飽きつ
ほい人間だ——遊閑者の得意がる土地——するい内地人が
多かつた——創造力の少ない文化——

◎ 犯罪傾向の特質

女の亭主殺しが多いわけ——文化と犯罪の發生——火田民
——政治の違反——嚴罰主義——

朝鮮宿の窓から

朝鮮の社會衛生思念

△『朝鮮人のあの帽子ですね。古典的で私は好きですなあ。』
 M『それでも始めての方には可笑しいでせう。私共も随分時代離れのしたような變な氣がしたものでした。』

△『併し雨降りの時、あの帽子の上に小さい傘を戴せて歩くのは、子供が玩具をのつけたようで、實に不思議でした。しかもそれが小さい帽子だけの傘なんですから、雨だれが丁度肩の所に落ちてくるぢやないですか。よくあれで氣持が悪くないものかしらと思ひましたよ。とに角無格構なもんですね。』

M『あれは帽子と謂ふよりも冠なんです。昔は堂上官と堂下官と云ふ官吏の階級によつて、冠の制式が違つて居つたのですが、日韓併合後舊階級制度が廢止されましてから誰でもかぶるようになったんです。』

△『昔の役人ばかり冠るものを、今はお百姓の外出にも、商店の主人が帳場に座つても冠るつてわけですね。そうですつてね。併合直後などには、もとの兩班階級だけしか着用出来なかつた衣服や冠を、一般常民階級以下が争つて着用したものだそうですね。一種の反動的影響なんでせうか。それで沐猴冠を着け、従來の下賤階級に屬した者が、一躍立派な格式のあつた裝束をつけたんですね。併し朝鮮の男子は、皆偉風堂々、勞働者でも天神鬚をだらりと下げた所、どうみても我が平安朝時代のお公卿さんそつくりですぜ。』

M『あれは原名は笠と云ふんで男だけの冠です。それも貴方のような未婚者は、總角ですから幾つになつても朝鮮では成人の仲間入りはできないので、あの既婚者の笠はかぶれないんですアハ、ハ、ハ。』
 △『内地で封建時代に元服したのと、この朝鮮の笠を冠れる資格がついたと云ふのとは、大分その意味が違ふようですね。』

M『御覽の通りあの笠は、外出の時でも、室内でも、客と挨拶するときでも、常に正しく冠るのが禮儀なんです。神官の冠みたいなもんです。』

△『朝鮮人は着物が白衣だから、白笠がありそうなんですがめつかりませんね。あの笠の夏帽子と云ふのは何色ですか。』

M『色は普通黒色に限られて居りまして、夏冬兼帯です。馬の尾や竹を細く割いたものを編んでつくつて居ります。又は竹編の上に、紗、麻、布等を貼りつけて、その上に漆でピカピカ光澤をつけて居りますが……、それで昨夜はどちらの旅館にお泊りでしたか。』

△『漢城 旅館です。』

M『はあ……朝鮮宿ですか。あの宿は朝鮮旅館でもきたない所ですのによく泊られましたなあ……。』

△『いや何、かまひませんよ。私は折角朝鮮の視察にやつてきて、朝鮮人の生活状態を見學しなければ其甲斐が無いと思ひましてね、そしていつも朝鮮宿に泊ることを豫定して居るんですが、土地の方々が、勝手に日本旅舎を確定して置いて呉れられますもんですから、そちらの方の顔もたてやらねばなりません、しかし二泊目にはきつと朝鮮宿へ引越しますよ。又運よく宿の世話をして貰つてなければ早速朝鮮宿を定宿にします。平壤でも柳屋ホテルで自滿の鋤焼を食はせられて一泊しました、次の日からは○○旅館に變りました。今晚はどうでございませう。鎮南浦泊りですが、どこか朝鮮宿の適當な所をお世話して下さい。』

M『いや實はその方はさつぱり存じませんで……。』

△『あなたは朝鮮には随分長くお住まひぢやありませんか……。』

M『職業柄、内地人の患者ばかり診察して居りますから、内地人の定宿はきめて居りますが、何なら如何でございます。私と御いっしょよに。』

△『いや有難うございしますが、折角ですが朝鮮宿の方も見學させて貰ひませう……。』

M『ははあ……。』

△『一般的には朝鮮人は體格がいいですなあ、女だつて内地の女のように貧弱な瘦形は少ないぢやありませんか、私共は支那人や朝鮮人の群衆の中へでも混つて居りますと、全く肩身がせまいですね、何となく相手から、彼奴は、日本人つてい奴は體格が貧弱なもんだなあと思はれてるような氣がしてならないのです。』

△『朝鮮人の實生活に接してみますと、下層階級など随分營養不良になりそうな衣食住ですのにどうしてああ體格がいいんでせうか。』

M『それはね、自然淘汰されたんです。弱い奴は大抵餓鬼の中に死にますあ。』

△『そうしますと、朝鮮なども衛生諸施設や機關が發達すると、反つて國民が一般的に保健上貧弱になるもんですか。』

M『いやそうとも限りませんが、近代醫學や衛生思想が普及進歩に伴ひまして、虚弱な子供も生き延

びますね、又文化が向上してきますと、不自然な生活が多くなりますし、原始的の抵抗力も少なくなつて来ませう。けれども近來、その幼稚であつた半島の衛生思想が向上し、昔の巫女、賣卜等の迷信によつて醫療を避ける風習や、衛生状態の改善に伴つて人口増殖率がうんとほつてきました。それは日韓併合後半島の經濟生活が發達する環境に恵まれてきた事も重大原因ですが、併合による文化の向上が主因ですね。』

△『日本の徳川時代には何百年も人口數が停滞し、文明開化の維新後、急激に人口が増加してきたのと比較してみると面白いですなあ。衛生思想と醫療機關の發達は、路傍でもわかりますわ、併合後に生れたような朝鮮青年には、あばた面はみつかりませんが、三十歳以上から年老程男女ともこの輕石づらが多いようですね。半島では民衆が近年迄種痘法を信用しなかつたんだそうですね。天然痘の豫防のために、フェルムを通じて巡回講演をやるやら、そうそう朝鮮種痘令(大正十二年)まで出して徹底的に猖獗を極める痘瘡を防禦したんだそうですね。』

しかし何と申しても朝鮮人は内地人より頑丈に出来てる。體の造作ががっちりして居る。寒中でも四五歳の子供等が、短い上衣一枚で、しかも尻の所を切り開いた股引も一枚、素足で霜を踏み乍ら平氣で遊んで居る。田舎ほどこの野趣満々たる自然兒にぶつつかる。

△『昨晚もね、随分辛いものすくめの朝鮮料理を食はせられたが、大分開口しました。あれで朝鮮人は身體に差支ないものですかね。』

M『いや、それがね、朝鮮人の胃腸の丈夫なことは素的なんです。赤痢など仁丹ぐらいでけろりと治つてしまひます。又腸チブスにかかりますと、頭を冷して腸を熱くすると云ふ昔からの漢法式療法がありましてね、そしてチブスでも鮮人は輕症で済みますが、平壤附近に居住する内地人は、大抵一度は風土病的にきつとこの腸チブスにやられるようですが、それが内地人百人中九十人位迄はかかるようですね。』

△『刺戟性の食物をやつて居ると、マーゲンクレーブスになると云ふ話は聞いて居りますが、それで朝鮮人は癌種が多うございますか。』

M『いや、それが辛いものを食べますのも、何百何千年來半島の氣候、風土から來た習慣とみえまして、ニンニク、シヨウガ、唐辛子、鹽と随分日常生活は辛いものづくめでありますから、それが反つて胃腸を刺戟して上皮細胞が増殖します。そして抵抗力が強くなつて居るのでせうなあ。』

△『だが一般的には鮮人は不潔ですね、京城でも、平壤でも一步朝鮮人街の裏通りを入りますと、道路はせまし、糞尿は何處へでも垂れ流し、殊にあの霜解け頃の春先には、冬のたまつた汚物が道路に

流れ出して居りますなあ。夏など蠅が家屋内の天井一面に眞黒について居つても平氣ぢやないですか、氣の小さい内地人などは、盛夏の朝鮮人裏町は胸が悪くなつて通れますまいがアハ、支那の苦力なども白い饅頭に眞黒について居る蠅を追ひもせず平氣でむしやむしや、やりますからなあ。』

M『しかしそれはね、要するに内地人と朝鮮人との文化的の差異でせうか、その衛生思想の差ですか日本人はとに角世界一の潔癖性なんです。』

△『朝鮮ではあなた方の御職業の方はどれ位いらつしやるんですか。人口に比例したら内地よりほんとその数が少ないもんでせうね。』

M『そうです、醫者は確に少なうございます。半島の醫療機關と致しましては、官立醫院四（内一院は癩療養所）、道立醫院三十、其他公立病院十、私立病院七十九、計百二十四院でして、それらの醫師及び一般開業醫を合して現在（昭和三年末）一千五百十五名ですね。その他限地開業醫百五十六名を加へまして一千六百七十一名に過ぎません。之を總人口に比例してみますと、さあ醫師一人に對し人口一萬二千六百三十二人の割合でして、内地では人口一千三百五十三人に醫師一人ですから著しい差があります。その上朝鮮は内地と違つて交通が不便でせう、僻陬の土地に住むものなどこれには大分困つてゐるようです。』

朝鮮衛生行政の方からみまして最近では、昭初三年六月傳染病豫防令の大改正をやりましたが、逐次民度、風俗の諸事情によりまして、その豫防衛生方面の措置が考究されてきたようです。朝鮮人の死亡率は併合後うんと低下しましたし、その出生率の如きは異常の進展ですね。』

△『朝鮮にも阿片窟はありますか。』

M『阿片、モルヒネの取締と不正賣買や密輸入を嚴禁して居りますが、モルヒネの中毒者の救濟とその根絶も好成绩になつてゐるようです。何しろ陸接國境なもんですから、支那方面から密輸する者もあるでせう。鮮人は子供でも煙草を吸ひますから……。』

鎮南浦府の發瀝島にて

鎮南浦は平壤の西三十四哩餘平南線の終點だ。人口三萬三千三十一（内地人五千六百〇二、鮮人二萬）明治廿七年日清戦役の時我海軍の碇泊地となつたり、陸軍の兵站部が置かれて、淋しい鮮屋四五十の漁村が一躍して市街地となつた。そして又明治三十年七月から各國の開港場となつたのだが、漁村から都市にあかぬけする機會でもあつた。又日露戦役にも我御用船の陸揚場となり最近にはその貿易額も昭和三年度に於て六千七百八萬五千圓となり、大同江その延長三百九十七浬の流域は豊富なる

農産物の集散地である。一帯に灌漑の便もよろしい。

鎮南浦の灣内は、日露戦争の折同時に三千噸以上の大船四十隻と一萬噸以上の軍艦が四隻入港した。そうだが、何の不便も感じなかつたと申される程袋は廣いが、冬の三ヶ月間流水のため航行困難を招くのが惜いことだ。それでも築港工事を擴張し七十萬噸の荷役が出来る程度の良港になるのも近からう。河口は甚だ廣い。私は發濃島の燈臺附近からその對岸黃海道山々が、水煙遙かに丁度登氣樓のよりに浮んでみえるさま。氣味悪い氷と水の渦巻が滿潮時とて岸にどしどし押し寄せてくるさま。私は土地の穀物貿易商の鮮人宣君と共に、汪洋たるこの河口の光景を指しつつ、半島人の將來について深く語りつづけたのであつた。あの頃は二月の末とて外套の襟をたてても震へる程寒かつたぢやないか。鎮南浦は漁村が町になつただけ名所が一つもない。強ひて申せば三和花園であらうか。これは富田某氏の私園であるが、一般に公開されて居るので、そして花壇や農園もあり、丘陵の上だから海をのぞむ眺望はよろしい。宣さんから三和高麗燒の名物の菓子器を貰つたが、富田氏が古朝鮮の名高い高麗燒に模して、再び半島の名物を現代に盛り返さうと折角研究と製作に近來中々生産額も増してきたと謂ふ。朝鮮人である宣さんまで、朝鮮宿はあなたには不自由でせうとあまりすすめせぬし、内地人のMさんは勿論反對であつたがとにかく私は朝鮮宿に落ちつくことにした。

朝鮮の家屋には木造の平家建が多い。私の宿はそれでも普通の構造間取りで、外舎と内舎とは區別されてあつた。そして温突式の室が五ツ六ツ。障子戸を開けて入ればその一室の廣さは約四疊半。私はどつかりとそこに腰を下ろした。一泊食事附金七十錢也、しかし内地人の經營する宿屋の三圓に匹敵はしよう。すべて旅には奢侈は禁物、殊に朝鮮事情を見學すると云ふ心もちなら、贅澤をやつて居つたらその希望の三分の一も印象が涌くまい。朝鮮や滿洲のみと申さず、支那重要都市には日本人旅舎はあり又世界の主なる見物土地には日本人の案内人も宿も求めて得られよう。しかしこれぢや何のために視察にくるのかわけがわからぬ。滿鮮旅行は朝鮮人宿、支那客棧に泊るに限る。それは獨り經濟的であるばかりでは無く、その土地の人情、風俗、習慣を察知するには必ずこの方法に據るのが至極常識的だ。言葉の不自由や不安の心地など決して起きない。殊に朝鮮では、不馴れの旅人なら、停車場前の交番に何處か安心の出来る、そして適當な朝鮮宿を尋ねてもよろしい。日本の憲兵の居る驛もある。至極安心な朝鮮宿に泊りこんで、すつかり朝鮮氣分を味つてみれば、窮屈で横柄な内地人宿屋へは泊る氣にならぬ。不潔だ。食物が不便だ。そんな暢氣ぶりを發揮するなら大名旅行も又御自由さハ、ハ、ハ、言語は朝鮮なら完全に國語(日本語)一つ喋れば、宿屋の番頭に通せぬことはない。語學の心配は更に無用だ。何故か日本人の書く滿鮮案内記には決して朝鮮宿、支那宿を紹介して置かぬ。

不都合の話だ。旅行のプランを頼んでも朝鮮宿、支那宿一つ知らぬ程その土地の事情にくらい旅行案内業者が多い。東京の鐵道省案内所も、鮮満案内所も又ジャパン・ツーリスト・ビュローも朝鮮式の宿を一つも御存知なかつた。

全部この種の宿屋に泊れぬなら、せめて一泊宛だけでも實際に朝鮮人の生活、支那人の生活環境に親しんでみようと思ふ氣を起さねばなるまい。これは凡ての内地人旅行者に望み度いのである。しかし内地の宿屋とは違つて舊式の支那宿は蒲團は各人携行だ。朝鮮宿も蒲團は少ない。それでも冬は温突があり坑床式であるから特別に蒲團代を支拂つて薄いものを二枚も借用すればそれで結構。支那宿は朝鮮宿より更に安價で奉天驛前の悅來棧でも四五十錢で立派な室があつた。しかし私の今申す標準は學生旅行などに適當したる範圍を示したので、支那だつて北平の北京飯店、上海のアスターハウホテル等々大都會の一派ホテルは洋式の最高級があるのは勿論である。

温突の床は温かいから極寒でも敷布團一枚をのべるだけ、それで支那人も朝鮮人も寝る時には素ッ裸で平氣だ。朝鮮に於ける中流以下の家庭では、寢具は甚だ少ない。相當家庭でも客用に幾組の寢具を用意するなどは極めて珍らしいこと、下層社會や自家用寢具さへ用ひず、着のみ着のまま一夜を明かすは勿論のことだ。けれども實際私共が硬い温突の床上に直接寝るのは身體が痛いものだが、何

馴れてしまへば、又心がけ次第で朝鮮趣味になりきつてしまふ。それも敢て苦になる程ぢやないわい。私の定めた室の隣りには、朝鮮人で非常に國語のうまい男、内地の私立大學を中途まで済ましたとやら頻りと私に話をしかけて居る。そしてどうしてあなたのような内地の方が、こんな鮮人宿に泊られるのですかと不思議に思つて居る様子。いや私は内地の新聞記者ですよと軽く受け流して彼の怪しみに答へてやつた。

夕食には粟飯が眞鍮のどんぶりに山盛りされて、副食物は干鰯と漬物だけ、それでも空腹だからその盛り切りの一杯が不足な位美味であつて、なまじ歓迎宴など開いて貰ふよりどれ程氣樂だか知れない。隣室の鮮人、濁酒の匂をぶんぶんさせて土地の妓生の話など得意に披露して置つたつけ。

温飯、漬物、ピンデエの三地方色

ほかほかする油紙をはりつめた温突の室に足腰を心ゆくまで伸ばして、旅情の思ひ出でに耽つてみれば、身又鮮人宿に座すると云ふ感じすらない。枕を頼んだ所が、木箱の幅は三寸、長さ五寸位の黒塗、それに汚れて垢じみた白布が、黒光りして居るのを貸して呉れたが、私はそれを新聞紙に包んでから使用した。所が早速南京虫の襲來だ。幸ひ冬なので蚊軍と蠅群には困らぬが、この南京虫は夏で

も冬でも遠慮せずによつて来る。先程借りた枕を堅い床の上に、とんとんたたいてみると、ぞろぞろ五六匹這ひ出した。南京虫は、非常に惻い虫だから、こちらでも豫防線を張つて、蠅とり粉を蒲團の周圍にまき散らし、粉末の城壁さへ築いて居つたのであるが、それでも結局効果がない。丁度寝て居る天井から下へ落ちて来る。そして噛みつく。新聞紙位で顔を掩つても奏効せぬ。どんな小さい又狭い間隙からでも入つてくるから、そして周圍に豫防線の粉を撒いても人の匂ひで上から落つてくると云ふ藝當を試みる奴だから到底やり切れない。しかしこの南京虫は體質にもよるがすぐに慢性になると食はれてもさまで苦痛を感じぬ。二分平方位の痕跡を皮膚の上に二個宛並べて残してゆくだけだ。虫に負ける者は最初はこのように赤く腫れもする、三四日たてばけろり治つてしまふ、うづかゆいだけだ。そして南京虫に食はれたと気がついて、眼を醒まして四邊を搜索する時は、すでにその虫の姿は見えずと云ふ迅速さ。東京や大阪だつて、支那、朝鮮學生の下宿屋、支那人の家にはこの虫が鎮座するし、支那の汽車は満鐵線の一等でも上海南京間の特等車ですら、必ずこの虫が巣くんで御座る。日本内地の軍隊ではこれを寢臺虫と云ふが、それは兵營内の寢臺に巣くふて居る故だ。夏の暑い時、日光消毒で鐵製の寢臺を熱くし、これを少しく上にもち上げて落せば鐵部が日光に焼けて熱して居るから、その間隙に潜りこんで居る暑さに耐へ兼ねた寢臺虫は、皆その鐵部の裏側に這ひ出して逃れて

居るが、ゆり落されてばらばら地上に落下する。それを靴で踏みにぢれば、靴底が赤く血に染まる程この虫の猖獗には閉口した。それが又尋常一様の藥品消毒で死なぬ虫だから、殊に木造建築では板の隙間に入りこんで居るから根絶はむづかしく、毛布や服地の奥にもひそんで居るから容易な事では無い。東京の兵營では近年室内を目張りて密閉し、お手のものの毒瓦斯で兵隊さんの安眠出来るようにこの虫を一掃にしてほふつたが、何支那の毒虫、蟻とは違つて生命をとる恐ろしい虫でなし、私なんど平氣なもんだ。神戸や東京の下宿屋、合宿所、汽船内等にも現に澤山棲息して居る。京城の朝鮮宿泊つた時、私はその主人と聯詩に打ち興じたが、

『四海同胞皆兄弟。

萬里雲間一羽毛。』

と私がきり出せば、鮮老白鬚を抜き乍ら、

『皇島歸來餘劍氣。

眼前誰是大英豪。』

と答へた。そして座下(チワアハ)座下と私を閣下扱ひにして呉れた。

京城では昔からピンデエ(南京虫)の居らぬ家は、縁起が悪い。何か變事が起るのだと云ふ口傳があ

る程南京虫は何處の家にも居る。京城で南京虫は名物の一つで、虫の居らぬ家は珍らしい。これ位普及して居るわけだ。ペンデエに嚙まれて朝鮮宿に憩ふのも又一風ではないか。

さて私は折角の朝鮮気分をひたることでもあるからと、宣さんの案内に任せて宿から外出した。朝鮮式飲食店に温飯の味を知らうと云ふのだ。冬のことであつた。その湯気の濛々と白く立ちこむ薄暗い家の障子戸を開けて入れれば、油の焦けつくような匂がぶーんと鼻をつんざく勢だ。室の廣さは六疊二間位の所、その一部分が土間になつて居るが、その他は全部例の油紙を張りつめた温突式でほかほか尻があたたかい。その温突座敷には六尺腰かけのような、内地の納涼臺のような幅廣い、そして足の短かい卓子が二列縦隊に行儀よく並んで居る。そしてその卓子の兩側には、白衣の群が立膝をし乍らがぶがぶ音をたててすすつてる。ちよいとした酒幕だ。小料理屋だ。

大井は私の前にも運ばれてきた。内地そば屋の井の二倍はたしかにある。肉汁が波々と溢れそう、朝鮮米がその汁の底に沈んで居るし、うすい豚肉の四五片が又汁の中を泳いで居る。卓子の上には水が少し入つてよこれた筆立のような中に、眞鍮の匙がたつて居るが、その一本をとり出して、私はナプキンのつもりであらう。新聞紙を五六寸角にきつて澤山紐で通してぶら下げてあるその一枚で宣さんのやる通り眞鍮の匙を拭つた。何でも朝鮮人の食器は眞鍮づくめであるがその眞鍮のお椀の中へ

不格構な瀬戸物皿に盛られた食鹽をふりまいて、白衣人なみに私もがぶりがぶりの井が大きいので懸念したが、宣さんも私も穢い前垂をかけた小僧が、肉汁の補充を何度もやつて呉れるのを喜んだ。おいしいスープである。漬物は朝鮮人自慢のものだけに又よい。赤い唐辛子に染まつた、齒のしみるような冷たい漬物の風味は温飯の汁を吸ふ時に天下一品だ。

温飯は冬凍りつくような寒夜に、そして就寝前など熱いやつを一杯かつこむ味が又よいので、平壤の朝鮮そばと共に旅行者の一度は必ず味つてよい地方色の濃厚なるもの一つだ。そばは温飯と冷飯とあるが、通人の食べるのは夏冬とも冷飯なので、内地のそばと同様である。その冷飯も、大きな底の深い井で、その分量は内地の大盛りの三倍、それで十銭、十五銭が最高だから、内地より生産費は安く、材料が豊富だから一般人の生活費の低いことも察せられる。殊に純朝鮮式の温飯屋やそば屋の気分などは、異国情調と謂ふのか、とにかく變つた思ひがけぬ朝鮮趣味になつかしみを與へられるものの一つである。

朝鮮名物には有名なキミチがある。漬物のことだ。朝鮮では、漬物をば副食物中の最も主なるものとして居るから、そしてその漬物の時節は大抵十一月頃とされて居るので、どんな程度の生活階級でも少くとも一家族が、半年分位食つてゆけるように、セメント樽よりも大きな甕に二つ三つは漬ける

のが慣例で、兩班になれば十五六個から二十個もこの襖が庭に並べられて世間への自慢の一つの種になつて居る程だ。

漬物の材料は、白菜、又は大根が主であつて、これに蕃椒、人蔘、生薑、蒜、芹、栗や松の實、昆布、銀杏、梨、青角、鯢、明太魚、鮓、石首魚、牡蠣迄入れるのがあるそうだ。

漬物としては最も贅澤なものであつて、風味ときちや、最初は蕃椒や蒜の刺戟で閉口するが、少し食べなれたら到底この味を忘れることが出来ぬのである、内地の都會地では漬物屋もあり、自家で大きな漬物の準備はしないが、東北や北海道方面では、初冬の頃大根漬は主婦の主要なる年中行事の一つ、酒樽の大きな空樽に十數個つけて重い石を載せて置く。所謂雪國の冬營準備だ。冬は野菜ものが少ないので、又高價になるので半年位この大根漬を嚙るわけ、そして大根の葉は繩に編んで天日に曝らして、ほし菜として冬のあつい味噌汁の中に入れて賞美する習慣が多い。

朝鮮の漬物はこの内地東北地方の大根漬よりは、家庭的には重要なもので、魚も、肉も、銀杏も蕃椒も入れると云ふ贅澤極まるもの、朝鮮に移住した内地人も、忽ちその朝鮮生活になじんでしまつて、キミチ讚美黨となるのは必然である。そして毎年朝鮮人と同じくキミチの襖をならべて楽しむので、半島人の如きは、その時節になれば漬物準備のために、貯金も拂下ける、給料の前借りもやる程

の騒ぎだ。冬の温突に用ふる燃料と、この漬物の準備は、半島人の生活にはなくてはならぬものである。そして内地人が朝鮮生活、中最も早くその半島式生活様式を採用して嘆賞するものは、保温のための温突とこの漬物で、こればかりは敢て内鮮融和の説明を聞かぬものでも、たち所に賛成することは請け合ひだと思ふ。今一つ漬物の功德を述べて置かう。キミチの風味は酒飲みには殊によい。そのキミチは最初は辛くて喉がほかほか痛む程であるが、直ちにその一種獨特の味にひきつけられて、大口開いて頼張ることになる。又その漬物の汁が冷たく且つ酸っぱい。齒の髓に迄沁みこむようであるがそれがずつと食道を傳はつて胃に流れこむ心地のよさ……。キミチの眞の味ひは、矢張り冬の寒い朝、朝鮮宿に憩つて、朝の食膳に運ばれてくる氷のついた漬物が、口の中でその汁と氷がいつしよに解けるようなのが美味しい。京城の明月樓や食道樂で朝鮮料理を喫するのもよいが、寒い冬の深更に田舎の温飯屋でこのキミチと温飯をすすめる心地は又嬉しい。

私の所へわざわざ朝鮮から毎年このキミチを小包で送つてくれる金さん、朴さん等もあるが、どうも日數のたつためか、汁をしほつて送るためか東京で味つては原地の美はしい風味の半分もない。半島に旅する内地人の凡ては、このキミチと、ビンデエと、オンパンの三通りの各々相違せる氣分は味つてゆかねば、その旅甲斐が甚だ少ないと謂ふものだ。

民族性觀察の一端

いくら良いものでも、これが適當の順序を経ずに慌てふためく改良は必ず失敗すると相場はきまつて居る。良薬も分量を過ぎしちや中毒すると同じ事だ。この意味から觀察して、我が朝鮮總督府の施政には全く缺點がないとは申し悪い。半島に於ける家族制度が、急激なる日本文明の襲來を受けて、其崩壊過程を急いだ時、幾多の悲喜劇は、朝鮮人の家庭内にも起つたのは止むを得ぬ結果だつたらう。

この時、この社會風潮に善處す可き我が爲政者の態度は果してどんなであつたらうか。家族制度、これは朝鮮人が最も誇りとする民族の傳統である。その父老を極度に尊敬し、長幼序あるが如き、即ち戸主を中心として和睦ぶ共同生活であつて、近年は時代の進運に副はぬ缺點も多いが、その多くの美點を今日の朝鮮社會に現存せしめて居る點は、確に東洋の美風でもあらう。個人主義、手前勝手主義の一天張りに變つた日本内地人の社會が、今や殆んど祖先崇拜の信念を薄弱ならしめ、實父母、實兄妹の肉親間ですら、百割ナンセンスの個人主義の短所のみ、その環境と傳統が全く異なる日本社會に浸潤してしまつた。輕佻浮薄となりそして、祖先と子孫との間に一脈の血族的融合の尊敬と家族的の團結さをも失脚し終つて、年寄りはどうでもよい。何自分等若者夫婦の享樂生活は別問題とな

してきた。殊に經濟的には純然たる個人主義的思想を保有し、肉身路傍に斃るるも、我が生活とは没交渉也と云ふ薄情の氣分が濃厚になつてゆく内地人のアメリカかぶれに對し、我が半島人が、猶昔乍らの一家族共同和睦み、家長を中心として祖先を尊び、敬老思想が美はしく残つて居るのは、誠に羨やましい事の一つではないか。しかし乍ら靜にその朝鮮社會をみる時、そこには現代に通用せぬ弊害とすら認めらるる點も多く生れて來た。これは朝鮮人相互の改善に俟つ可き性質の問題だ。東洋倫理に於ては孝行は百行の基と云ふ、日本の道德は忠孝は一本と云ふ、親を大切にす程の男なれば、當然日本人としては忠良なる臣民としての第一條件を備へたに違ひはない。忠孝一本は日本の國體と國民にのみ通ずる最高道德であつて、國家生活の基準だ。國體の精華だ。けれども舊韓國の儒學偏重と儒學的形式本位の墮落、その精神を失つた儒教の形式は、半島人の共通の悩みでもあつた。如何にこれを取捨選擇し、これを新時代に適應するが如く改善して折角の半島の美風を永遠に助長せしむ可きや又、半島青年の覺悟次第だ。

朝鮮社會の實際事情は、凡ての習慣があまり形式にのみ墮して居る事ではあるまいか。今日でも親の前では煙草を吸ふ事が出來ず、素より酒など飲めるわけがない。甚だしいのになると、食事にしても親が食べ終つてから始めて子供が食膳に對する程の嚴格ぶり、親の前では足は伸ばすことも出來ず

道を歩くにも親の先へは一步も出ちやならぬ掟、それが又どんな下層社會でも、親から叱言を言はれて決して口を返さぬのが習慣だ。

それでこの親の權威ある地位を逆用したのが、舊韓國の地方官憲のやり口、賄賂を強要する時にはその本人よりも親父をひっぱり出して虐めつける。その親を悪罵し乍ら、しかも近隣にわざと知れ渡るように怒鳴りあげれば、親の悪口を他人から聞かされるのは不孝の最大なるものとされてるから、悪官憲の希望する袖の下をば、いち早く献上して事件の理非曲直は泣寝入り、親に對する悪罵だけは願ひ下けにと言ふ段どりだ。朝鮮を旅するものは、よく麻の喪服を着し、つばの馬鹿に廣い喪の笠を冠つた男が町を歩くのにぶつつかるであらう。これも親が死んでから三年の間天日を仰がず日蔭者として服喪するの謂であつて、私共が内地人風に考へてみれば、親に對する不遜の意味を含まぬなら煙草を吸つてもよいぢやないか。親の相手をして晩酌の盃をさしあけるのも又孝行の一つぢやないかと思ふ。親の死を悲しむ情切々たるは何人も同様だ。但しその期間活動力を痛く制肘され、その氣分の上に於ても、その服装や偉大なる深編笠を冠る不便を三年も續けると云ふことは、昔の暢氣な時代はいざ知らず、この節の生活は忙しいのに、服喪のために子孫が苦しむことは決して親の道ではない。親の死に對して敬悼の意を表明する方法は、敢てその喪服、喪笠の形式ではあるまい。敬老思想

は未知の者でも年長者は年若い者に對して絶對的の優越權をもつて居る。だから他人の子供でも、我子と同じく太郎や次郎やと呼び棄てだ。そのために内地人は朝鮮古老から高びしやに知られて度膽を抜かれるし、自分の子供を鮮人から呼びすてに呼ばれるのは面白くない。鮮人は無禮ぢやと考へてくる。これは相互の社會的習慣の異なる結果だ。老人を勞はるは人の至情、けれどもこのために朝鮮は幼者を侮る弊風があるのは如何なものか、改善すべきのはこの一點のみでなく、冠婚葬祭の萬事がこのとらはれたる儒教の形式中毒、どれ程民力の向上を阻害して居るか知れないと思ふ。しかし事實上半島にはこの道德的習慣は嚴として存在して居つた。其他の種々の社會的古風が民度と共に備はつて居つたのである。しかるに急激なる日本文化の模倣、それが全く東洋文明とは系統の異なる歐米の文化だ。その思想だ。しかもそれが淺薄なる萍の如き潮流として日本を毒した點が多かつた。日本の短所は無遠慮に半島をなめた。歐米の短所も忽ち内地を通して朝鮮を襲ふた。西歐文化と日本文化の長所は割合に顧みる違がなかつたわけだ。これを受け容れた朝鮮社會の驚は並大抵の事ではない。内地に於ける新教育、内地風に染まつて天晴れ故郷の山河を踏む朝鮮青年は、最早半島の社會を正視するには、餘りに急角度の思想的變化を及ぼして居る。又内地的生活に親しんだ人々にとつては文化の程度甚だ低い、そして昔乍らの温突生活、舊慣墨守の半島人的生活には到底耐へられぬことでもあ

らう。そのために朝鮮の美點、長所迄根こそぎに顛覆しかけて來た。優秀なる家族制度や敬老思想がただ従來の形式に弊害が多かつたと云ふ一事を以て凡てを新らしく改めようと試みたために、善いものまで棄て去らうとしたのが日韓併合後に於ける、朝鮮社會の事情でもあつた。この重大なる變化、朝鮮民族としては有史以來の變革にあたり、これを適宜に善導す可き地位に置かれたる、朝鮮總督府の官憲諸君が、果してどの程度迄如實にこの風潮によく棹さして呉れたかは私は充分に知らない。「日本の人は、私の悴を全く悪いものにしてしまひましたよ。なまじ内地へ勉強させるようにしむけたものですから、歸鮮してからはハイカラになりました、親を親とも思ひませんし、嫁は棄ててしまひます。田舎には落着いてくれませんし、全くとんでもない人間にしてくれましたぜ。」と長太息する鮮老も多し理由。朝鮮社會には、今や我が平安朝時代の如き風姿と民度をもつて、全く世界の動きから浮世離れた人情其儘の人々がうろつて居る、これは大多數の民衆であるし、他の一方には、内地の文化生活の最尖端を渡り歩いて居るような若者の一階級、エロとグロの無批判的な突拍子もない信仰者、こゝろ云ふ兩極端の人々が、雜然として半島にうごめきつつ、朝鮮固有の美風良俗も失ひかけて居る社會風潮に對しては、速に穩健中正の朝鮮青年が輩出して、この時代を指示しこの誤れる混沌たる半島人の赴く所を導かねばなるまい。爲政當局者は、この事態にかんがみつつ如何なる良策を以

てこれに處しつつかあるのか。私は田舎者である。そして私の育つた子供の頃最初村々には常設の人力車業者も居らぬ邊鄙な場所だ。私共は附近の町で始めて人力をみた。更に何年かの後、郡役所の所在地と云ふ可成りの市街地に於て自動車を發見した。長じた大都市に上り汽車や電車に乗ることが出來た。交通機關に對しても、私共は逐次文明的機關に接觸し、各年數を経てこれを利用することとなつて、丁度明治の末期から大正、昭和を経て飛行機にも旅客として乗れる時世を迎へた。しかるに、朝鮮の子弟は、丁髻姿で兩刀をたばさんだおさむらいが、突如として裝甲車や毒瓦斯等の新兵器に驚いて腰を抜かしたと同様なのであつた。何千年の長い半島人の眠りが、人力車も、自動車も、汽車も見たことのないのに、突然近代科學の粹をあつめた精銳なる飛行機がその怪體を村々に現はしたのと同じことだ。納屋の鶏が驚いて氣絶した程だ。忽ちにして、自動車が出現して原始的生活に世間を知らぬ鮮人部落を訪れたので、當時は村童は恐怖と驚嘆のため、遠くから自動車の驀進せるさまを認めれば、道を避けて水田に飛びこみ、耕作の牛馬も怪物の疾走に恐れて定り散るさま。これなどは單に交通機關の一例であつて、凡てに對して朝鮮の全く準備ない田園へ突然日本内地の優秀なる文明的施設と制度の普及をはかりたいと焦つたことは無かつたのか。私は朝鮮文化を向上せしむるためには、その人情風俗、傳統、

習慣を尊重し、その社會に適應する如く漸進的に指導してやらなければならぬ筈であつたと思ふ。半島の爲政者諸君は果してこの用意ある思慮を以て日韓併合前後の變革急激なる時代に、地方施設の改善と、産業經濟の開發にあたつたのであらうか。内地に良いものだと謂ふので順序も經ず、環境や民度も思はず、特に半島人の民族性を考究せずして内地式に施行したため、折角の半島人の良秩をも玉石混淆して放棄せしめた事はなかつたのかと問ひたい。

施政の初期に於ては、古來からの半島の制度や文物に對して、古老や老儒の所見を聴取し、各地方部落に於ける特別の慣習法や掟等を聞く餘裕がなかつたのか知れないが、個々の行政事務に於て又舊陋習の改革に際し、その改善の意志は朝鮮人の幸福のためであつたにしても、善意の惡政である結果をまぬかれなかつた諸點もないではない。

私は今度の旅行にも田舎の普通學校を參觀した。そしてその使用して居る教科書をひろけて見た時朝鮮の家庭生活、その低い民度と全く没交渉な教材が盛られてあつたのに驚かざるを得なかつた。山間の貧しい鮮人部落の小童達からは、到底想像を逞しうすることの出來ぬ事柄が、劃一教育の弊害を文字通りに示してしかもそれが内地人的文化程度の家庭を標準として構想された諸點にも驚いた。現今の内地の國定教科書の編纂方法に於ても、これと同様なるその民衆生活に縁遠い教材の採擇が

多い、又少數貴族階級の遊戯的生活の紹介や、豊富なる物質生活階級を營む者の子弟にわかりやすい所謂文化生活の誇張的資料が往々見受ける。國民教育と申すからには、大多數の下層國民の實生活を本據とする題材を選ぶ可きで、貧しい家庭の父兄が子弟の教育上甚だ迷惑するが如きアメリカニズムの高踏的文化生活の高調の如きは慎しみてこそ國定の編輯だ。

これと同様殊に朝鮮半島は日本の國內であるのは勿論であるが、内地とはその言語、風俗、習慣、經濟的環境等々に著しい差異を伴ふ現狀である。日常萬般の家庭の手廻り品、四季の行事から物事の考へ方が根本的に異なつて居る箇所も又甚だ多いのである。それをも考へずに、民風と没交渉の教材ばかりであつたならば教育の効果は決して擧がらない。文化の向上と云ふ目標に副はぬ事にもならうとしても、朝鮮固有の文化を尊重し、その長所と美點を一層助長せしむる所に、眞の朝鮮統治の理想が涌くので、内地其儘の形式を延長しては駄目だ。内地延長主義とは、内地人お互ひに對する人情美と好意とを半島人にも同様に示せばよいのであつて、内地の形式凡てをそのまま無理に半島に施かねばならぬと云ふ法文解釋的好意を指さすのではない。朝鮮の民族性は一朝一夕に涌いた水の泡ではない。深い何千年の民族特有の傳統であり思想である。これをその半島のよい文化のみと、内地のよい文化とを兩者融合せしめて、新日本の文化をつくる所に意義があるので、内地人はただ一日の長

ある兄とし半島人をして、益々その美點とその長所を發揮せしめ、われ又進んで半島人に學ぶ可き點を發見しなければならぬと思ふ。民族性を没却しては、爲政者としての資格はない。半島人の本質を握らずしてはその施政の運用も徒に勞のみ多くして干愚の結果を招くに過ぎぬであらう。私は朝鮮觀察がすべてこれを内地人式にみると云ふ獨斷を離れて、少しく大所高所から第三者として靜かなる氣分をもつて内鮮關係を考へ、時には朝鮮人の立場から朝鮮半島をみる準備も必要と思ふ。朝鮮を内地式にみるとする所に誤りも生れる。朝鮮半島をみるには、朝鮮半島をみる獨創的の思念が肝要であるまいか。民族の魂の底をみるとする心懸けこそその一端であると思ふ。

△「どうです、あなた方は内鮮人の店員を使つて居られて何か双方違つた性質でもおわかりですか。」
 K「いや朝鮮人はどうも物事に飽きつほくて、我慢に乏しうございますなあ。」
 F「甚だしいのになりますと、内地人の洋服屋に五十日位奉公しますとすぐに生意氣になりました、自分で一人前の職人を始め度くなるんですね、洋服屋の裁縫なんて、ミシンのかけ方だつて、てんで五日や六十日で一人前になれるもんぢやありません。内地人の職人なら三年から七年の年季を入れますがなあ。」

朝鮮に在る内地人の商店主は誰れも彼れも朝鮮人の小商店員や雇人を使つては全く張合ひが無いと謂

ふ。その理由としては小僧など店員に採用してからほつほつ内地語を教へ、算盤の弾き方客の取扱ひ方から自轉車の稽古をさせ、漸く一人前の小僧として使ひ得るようになれば、早速その世話になつた主人を棄て遠慮なく他の店に行く。そこに義理も恩義も人情もない平氣で甲店から乙店に代るので、小僧に對する一ヶ月の手當が僅か五十錢の差であつても、何年間の恩義や店務の都合を考へずに他の主人に仕へると云ふ話だ。一生懸命に苦勞してその商業のこつを飲み込み度い。又は長年世話になつた親方だから、店のためにも骨折つて働かうなど謂ふ氣が少なくと云ふのだ。これは確に鮮人らしい思想だ。

F「それに就いては、又内地人と變つた點もありますよ。まだ普通學校を出たばかりの、僅か十二三歳の鼻たれ小僧が、臆面も無く堂々と一人で就職の談判にやつて來ますからね。そして十五圓呉れ、二十圓呉れと云ふんですから、それが私共の町の通り相場より何割も高く吹きかけるんですから、圖々しいのにはあきれつちやいますよ。内地人の小學校卒業した許りの少年店員が、個人商店へ奉公しようと云ふとき、早速小遣は幾何呉れますかと自分から率直に切り出す度胸はありませんがね、それだけ人に對する遠慮と申しますか、禮儀と申すのですか、そこが内地人の小僧は初對面の主人をつかんで報酬の二十錢、半圓を争ふと云ふ鮮人子弟のような下品な點はありませんから可愛い所がありますよ。」

△『一ヶ月二十圓の給料と云ふのは食事つきですか。そうですつてね、理髮屋の小僧なども、それが内地人同様何年間勤務して立派な腕を磨くと云ふ者は一人も無く、少しバリカンが使へると、すぐにび出して自分一人で金をもうけようとするそうですね。』

K『勿論食事の他に二十圓呉れと十三歳の小僧が押しを太くしてやつてきます。そしてたとひその半額が通り相場であつても、高價の手當を壹ヶ月二十錢でも五十錢でも餘計にとりたいと云ふ心もちなんです。それがあなた、最初に店員に採用して貰ふときの請求ですぜ。』

△『朝鮮人は飽きつほくて、すぐに他店へ變つてしまふと云ふお話ですが、それでどうして鮮人を使ふのですか。』

F『いやそれでも内地人小店員を使ふよりは便利な點もありませんし、手當は安くつて済みますからね。しかし私共の方では漸く一人前の店員として役立つように仕上げました時、別に何ぞと云ふ理由もなく、突然報酬の一圓か二圓の差額を見つけて直ちに他店へ引移るのです。それで若し、今度變つた店が最初の店より仕事が辛いと、苦しいとかになりますと、又平氣でもとの古巢である私共の店へも戻つて來ますから、逆戻りして又あなたの店に使用して下さいと泣きを入れるのです。言葉上手に外交上手に頼みこまれちや遂に承諾しますが、内地人なら男の顔下げ、何の義理で自分から勝手に飛び出

し恩義ある主家へ又他店が待遇が面白くないから歸つて來ましたと申されませう。鮮人と内地人とは男の意地が違ふんですね。』

これはただ市井俗人の一つの噂に過ぎないのだが、一般的にみれば、朝鮮人の性質は、性急であり且つ我慢が足りぬとは共通したる性格に違ひない。しかも模倣は、日本人より更に巧者であるが、その模倣たるや似て非なるしかも形に阿ねてその内的生命の表現に拙劣なるやに思はれる。それは又朝鮮文化史をひもどく者の等しく感ずる所であつて、印度文明及支那文明が、日本より一足お先きに輸入され、傳授され普及された。しかもそれが日本にのみその民族的に陶冶せられ、固有の思想と傳統に淨化せられて日本の藝術となり、日本の宗教となり又日本の儒教ともなつた、朝鮮半島に於ては一つもその國土と民性に洗練されたる文化的所産をば、過去に於て生み出す氣力がなかつた。似て非なる模倣の他それも又衰頹してしまつた。すべてに於て落ち著きのない人間が多い。そして物事に忍耐力が少ない。根氣がない。最後の五分間のふん張りと言ふのがきかぬのが、朝鮮人の通有性、銀行會社の仕事など非常に繁忙な場合に、私共が内鮮人の執務ぶりをじつと眺めて居る場合、あともう一息と謂ふ時、即ち最後の五分間の踏み耐へ方が朝鮮人には少ないように思はれる時が屢々だ。

『世事琴三尺。生涯酒一杯。』

山高天下山。 水深地上水。 花有重開日。 人無更少年。

これは朝鮮の歌であるが、内地でも、若い時代は二度ないとして、親不孝ともが、年少氣銳の頃酒色に耽る馬鹿者があり、しかもそんな連中に限つて年老いてからも酒色を漁る癖が治まらず、「老人は先が短いから遊蕩せねばならぬ。」と謂ふ。即ち安價なる遊蕩興味が人生の全部と考へ、文字その通りの醉世夢死に一生を過す者が甚だ多い。朝鮮に於ては殊に勞働は下卑た者のする仕事とせられ、遊んで食ふのが一番の自慢になる國だ。勞働の忌避であり、遊閑階級の王國だ。私が京城や平壤等の、さる朝鮮人宅に滞在中なども、毎日のように若い學校出の働き盛りが、ぶらぶら遊びにやつて来る。こちららも行く。遊閑者同志の友達が毎日の訪問の交換と散歩に日を暮らす者が多い。内地にてもこの種の社會的寄生虫は夥しいけれども、若者が無職でのらりくらりして居る事は決して自慢にならぬが、朝鮮では、家庭の者も、一般社會もこれは尋常の茶飯事である。この活氣のない知識階級の朝鮮青年が一時的に興奮したつて何事が出来るものか。物に對する態度が遊戯的だ。遊閑階級の若老人のそして早老者の感激は、決して民族の文化を向上せしむる役に立つものか。何が「生涯酒一杯」だ。何が「人無更少年」ぢや。

内地に於ては、「英雄は酒と色を好む」と豪傑の短所ばかり真似して、英雄の長所を一點も學ばない。結局差引短所のみ模倣だ。日本の青年もそして學徒も、ただ驚馬のように、動物的本能の刹那的満足にのみ甘んじて、恰も蟬の拔殻の生活を續けて得意になつて居るものが多い。男も女もそうである。安逸と遊惰の心性は獨り朝鮮半島の有識、有産階級の子弟には限らない。と申しても朝鮮人の民族性の中に勤勉ならざる民族、安逸をむさぼる民性だと云ふことを取消す理由とはならない。私は旅の道すがら、ノザノザチヨルモノザの哀歌を耳にしつつ、妓生の奏する頽廢的な長鼓の響に接する時鮮人青年の心情に一種の寂寞を感じるのである。これに反し朝鮮人の無産勞働者は、半島の經濟事情が窮迫せるまま、唯内地にさへ渡航すれば金儲けが出来るとなし、着のみ着のままで漫然とやつてくるものが甚だ多い。しかし内地に來ても彼等の期待は裏切られ、無理解なる自暴自棄と破廉耻とが、内地人の朝鮮人觀を益々惡化せしむる原因となることが多い。少數の内地へ出稼ぎする鮮勞や苦學生と稱する者が、乞食をやつたり、内地人家庭に強請をして軒並みに嫌はれ、或は無作法なしかも異様の裝束そのままの勞働者集團が、所謂東京や大阪等に、不潔極まる喧嘩常なき朝鮮部落の特殊相を發揮し、内地人が、朝鮮人とは皆斯の如く劣等にして下層階級の無識人間也と速断する迄毛嫌ひの度を嵩めゆく事などは、爲政者の政策としても餘程慎重の考慮を

要する點ではあるまいか。ために鮮人の内地渡航者の数を増す毎に、内鮮人間の疏隔と感情の悪化を助長することが多いときは、あらゆる朝鮮人は悉く内地人の家へ物貰ひに来るような階級ばかりだと誤り傳へられるのだ。大多數の内地在住の朝鮮労働者のより多い移住者群が、全く朝鮮半島に常識の無い内地人をして、彼等のみが朝鮮人であり、朝鮮人の代表者であると云ふ侮蔑感をも湧起せしめつつゆくと云ふことも注意して考へ直さねばならぬ問題の一つだ。

朝鮮人の民性は、朝鮮人の氣品は、一部の日備人夫群や、書生輩には備はつて居らぬのであつて、眞の朝鮮紳士は半島に永住して居る。禮儀もあり、教養も深く儒學の美風に養はれた好紳士である。内地人が鮮勞のみすほらしき姿、原始的生活狀況のみをみて、二千萬人の半島人を批評することは早計である。

『朝鮮人つて汚いものね、乞食ばかりぢやないの、圖々しいつて、耻知らずつて、日本の乞食だつてあゝは出来ないわよ。』

と長屋のお主婦すら罵聲を張りあける事すらあるぢやないか。半島の原地を踏んでみれば、又半島に住む朝鮮紳士と交遊してみれば、どうして、どうしてお上品な朝鮮社會の種々相もおがめるわけだ。これと共に内地人の心性が少數の半島に移住したる内地人によつて、どれだけ半島人から誤解を受け

たか限り知れない點も多い。

『内地に居る日本人と、朝鮮に来て居る日本人とは人種が違ふのですか。』
と謂ふ奇問すら私は受ける。これは滿洲に住む日本人に對しても、同様に支那人から聞かれた言葉であつた。日本人に對する所の第一印象は、最初朝鮮半島や、滿洲方面に活躍した日本人によつて新しい日本及日本人觀が與へられたわけである。

その第一印象が必ずしも日本人に對する正しい認識を涌かす可き材料を提供して置かなかつたらしい。又現在必ずしもその支那人に對し、その朝鮮人に對する日本人乃至内地人の態度が、紳士的であり、日支親善的であり、内鮮融和的態度ではない點が餘りに多く發見されるため、内地に住む日本人に接觸して本當の日本人のやさしみを知つたと叫ぶ者も多い。

朝鮮半島に於ては、日清戦役前迄は、露、支兩國人は日本を目して自己よりは劣等の民族として取扱ひ、半島内では頗る虐遇を受けたものであつた。所が日清、日露の兩戦役には勝ち、更に朝鮮が日本の保護國となり、續いて日韓併合の運びとなつてからは、多數の内地人の中には歴年の鬱憤を晴らすつもりか、戦勝國民が恰も戦敗國民に對するが如き横暴な態度を以て弱い半島人を脅威した無智の内地人も多かつたのではないか。

明治三十年前後から明治四十年頃までは、如何に悪辣な内地人が、出稼人の泥棒根性をむき出して、半島の政情不安な混乱を利用し、又はその法律的不備につけこんで、全く法律的常識を知らない山出しの鮮老をあまくみて、悪徳行爲に及んだ内地人があつた事であらうか。それは三百代言的であり又高利貸的でもあつた。時には暴力團的行爲が、温和なる朝鮮人を恐怖せしめ、内地人の流浪漢連が放肆専縦、泥棒にも等しい横暴を逞しうして私慾を弄んだ事が屢々あつたのは事實とされて居る。悲しむ可き内地人もあつたものだ。

今日現に朝鮮半島に於て巨萬の富豪づらして居る内地人中には、往年の三百代言や高利貸が鮮人を欺き、法網をくぐり國威をかさに着て脅かしつけて成金となり、成功者となつた者もあらう。貨幣制度の不備に乗じたり、高價なる朝鮮人蔘畑を荒らしたりした者もあつたと謂ふ。土地所有權などには更に人を食つたやり方が、しかも合法的に計畫的行はれて鮮人の怨を受けた事は、甚しいものでもあつた。これが近年の財界不況の變動によつて、半島に於ける不徳内地人資産家で没落の運命を辿つた者が多いようであるが、此等の人々を中心として如何に日本人の半島に於ける第一印象を悪くしたかは筆舌のよく盡し得る所でない。

民心一般に、日本人は殘虐性を帶ぶる者、惡辣極まる者、横暴なる權力を働かす者と云ふ内地人觀を全半島人の日本人に對する第一印象の概念的惡評は到底抜く可くもない。海外發展の先輩としての功績はこの惡影響を今日の半島統治にも波及せしめて居ると謂ふことは、その責任重大、日本人、内地人に對する惡感のみを受けつがされた私共後輩内地人こそいい迷惑である。國家としての有形無形の損失又偉大。日本人の本性はこんな連中に代表されてはこちらが困ちまうぞ。

今日も猶この餘弊は、内地人全部の頭腦に沁み込み渡りて、誤りたる朝鮮人に對する優越感、侮蔑感となつて居ることだ。今時戰勝國民でもあるまいに、新施政以來滿二十年を経過したる時、心からの内鮮融和が生まれぬ一半の責任は、實にこの内地人の出稼根性的心性にある。徒に後の祭りとしてこれを看過してはならぬ問題だ。舊式なる封建思想的態度を以て半島人に接する内地人があるならば世の中の遷り變りも知らぬ眞拔者たる譏りを免れる事が出来ぬ。海外發展の第一歩たる美名に隠れて半島人に與へたる惡果をば、私共内地青年が拾はねばならぬ如く運命づけられて居ることは割の悪い話、これは敢て内鮮人間の感情問題のみではあるまい。

我が日本の東洋政策の行き詰り、國內諸問題の滯滞と腐敗墮落、國內的の建て直しの時機に遭遇した昭和維新の日本青年は、働き甲斐のある責任はもつが、それと共にこんなすべてに打開を要す可き

危急の日本帝國を殘して現代に曝け出して呉れた私共の先輩が、今少しこの事態に先んじて國家的に改善す可き諸多の問題に忠實であつて欲しかつたと其責任をも尋ねてみたいと思ふ。それだけ昭和の青年は次の時代の内鮮全國民のために、よりよき日本を殘し、よりよき内鮮關係を残して置く、よいお膳立てをしておく事が國民的後輩に對する昭和内鮮青年の使命ではないかと思ふ。朝鮮半島に今雄飛して居る内鮮人は澤山あらう。實業家も個人として又團體の力として多からう。此等の人々もとり國家的の見地からも半島の産業開發に努力して居るのだらう。それには當然個人の利害關係は伴つて居る。官吏が總督府の事務を取扱ふ。公吏が役所の文書を整理する。各々生活を或程度に保證されて居る。生活の對照だ。官公吏が仕事をするのが當然の職務であり事業家が産業文化の發達に寄與するこれも當然の結果だ。平凡の事だ。役目だ。しかるに朝鮮半島が今日に到る迄、日韓併合の東洋平和永遠の策が實現されるまでには、どれだけ兩國の志士が鬼氣迫る白刃の中に活躍した事であらう。日清、日露の兩戰役に戦場の露と消えた將士も又この日韓併合の土臺を堅めた犠牲者の一人一人であつたのだ。苦慘の體驗を捧げ、一身一個の生活の對照の職業意識からでなく、私情、私事のかなぐりを棄てて翻然笑つて死地に就いた内鮮兩民族の志士達の心情を汲まねばならぬ。今頃の時代に豪奢なる官邸に住し、意氣揚々と官憲の威力を我事のように誇り居る者共も、又政客、政商や成金連が、横

行瀾歩する半島の平和も、悉く私共同の先輩が、その骨を漢山と築き、其血汐を鴨綠江と流したためであつた。骨の山と血の河のためであつた。總督府官吏の榮譽榮達も、内鮮資産階級の王者的生活も、又四十五萬の内山人、一千九百萬の朝鮮人の生活が、半島に於て安固であり泰平の餘澤を受けるのもこの多數犠牲者のあつたためであるからだ。この犠牲者の心に反し、徒らに私利私慾に耽つて内鮮融和の理想を阻害した若干の内山人移住者の如き、又爲政官吏にして汚史、貪官の醜類となり又は政商と合して一黨一派の政黨者流の私腹を肥す行爲を逞うする者の如き天人共に許す可からざる者ではあるまいか。私は今朝鮮人の民性を思ふとき従來の内山人が果して朝鮮人にどんな印象を與へて居るかと思ふことにも想到する必要があつた。しからば、朝鮮人の民性は將來、全く向上發展の可能性なき者なりや否や、民族の感激性を失脚して、怠惰となり、緩慢となり氣力を逸したのであらうか。それについては本書各項目の全般を通じて幾分なりとも推知し得る範圍の記述はして置いたのであるが、それはただ今後の朝鮮青年の自重と内鮮融和の實體の擴大によつてのみ實現し得ると思ふ。ただその障害となる最大の原因は、長い間半島に於ける地理的國情と、惡政の限りをつくした國政、頹廢、腐敗墮落したる官場、その陰謀、猜疑、誹謗、暗闘を繰り返し、その國土は惠まれずして貧弱なる自然的地形に支配され乍ら、常に事大思想

を以て外威に媚びなければならぬ状況であつた。従つて眞に朝鮮半島は獨立國家として統一されたることなく、國民經濟發達の萌芽さへも認められなかつた。常に外威の準屬國又は半屬邦たる地位に置かれてあつたので、半島民族の歴史も文化もその遺跡も全く別個なる諸豪族が半島各所にその勢力を争ふた血なまぐさきを誇るに過ぎないのだ。半島の人民は結局、この惡政のもとにあつては、自然に任せて、偷安と、姑息に陥り、虐政に反抗して民族の生活を擁護する氣力すら根柢を失ひ、山は禿け、河は涸れ、堤防も崩れたけれども、黙々と大自然の推移に任せて何千何百年、朝鮮民族の精神的基調となつて居る孔孟、程朱等の道義的社會構成の學問も、藝術も、支那の形式と支那の文化に中毒したのみで朝鮮民族の特有性は遂に近世迄生れ出でなかつた。遂にその長所美點を世界に誇る可き何物も生み得なかつた。

日本人は大和魂と謂ふ、櫻咲く母國、富士が嶺聳ゆる祖國と謂ふ。果してこの日出づる東海の帝國が民族の傳統的精神を世界の進運に適應しつつ、大和民族の感激性を失脚せずに内鮮一體となりて東洋文化の淵源を益々向上せしむる氣力があるのか。日本内地人はすでに國民的感激性を捨てて居るのに氣がつかぬのではないか。

犯罪傾向の特質

△「どうですね、法律上から御觀察になつて、何か朝鮮人の犯罪に顯はれた特殊性と云ふようなものが認められませうか。」

J「内鮮人は互ひに人情風俗が違ひますので、内地人と朝鮮人とが共謀すると云ふ犯罪は少なう御座いますなあ。」

△「うまくばつが合はないんですね、ハ、ハ、ハ、竊盜だつて内鮮人相互が、その生活様式や民度等が違ひませうから、家財道具をかすめても内鮮共通の品物は少なうございますからね。」

J「それが又面白いです。泥棒でも俺は内地人だと云ふ自尊心がありましたして、鮮人の家へ忍びこむのは潔しとせぬなど法廷で豪語するのがあります。朝鮮人は朝鮮人の家へ、内地人は内地人の家へ忍び込むのが普通でして竊盜の心理にも民族的には中々味はつてみる可き點がありますなあ。」

△「竊盜が内鮮共謀をやられちや困りますねアハ、ハ、」

J「朝鮮人はよく内地人の家へ忍びこみますが、それが又内鮮共通の品物、例令鮮人の小盗兒ですと内地人の家からは大抵毛布、洋傘、時計等を盗みます。内地人だけしか使用せぬ物品をとりましても

自家の實用にならず、又すぐに足がつかます。』

△「この間刑務所を見學しました時、女囚が大分居りましたが、女囚の殺人罪だと申しますが、そんな顔もして居りませんでしたかね、女の人殺しはたしかに内地より多いようすなあ。』

J「あれも朝鮮舊來の社會制度の弊害でしてなあ、御存じの通り朝鮮は早婚でございませう。主婚者は兩者の父母の意志によつて、即ち父母が主婚の當事者のように勝手にきめてしまひますので、若い者同志は何も知らないのです。近頃はこれでも大分早婚の悪習は減じたのですが、從來は非常に極端でしたから、印度と共に世界の早婚國民でしたから、生まれぬ前に親同志が約束したり、五つか七つに夫婦約束してみたり、それで相手が死んだなら一生寡婦としてその處女未亡人が獨りを慎しまねばならなかつたのです。十四の妻に九つの夫、十四五歳の夫が二十歳の妻と同棲して心身の衰弱を來たしてしまふが年長じて男が二十四五歳となれば女は既に容色衰へて若い妾に夫の愛情を奪はれて孤閨に泣くと云ふ工合、朝鮮の早婚はどれだけ民族の氣力を失墜せしめたか知れませぬ、そしてこの間に於て從來の夫婦間の意志の衝突による殺傷沙汰は、婦が夫を迫害する場合が多うございませぬ。』

△「そうですね、朝鮮の結婚は、絶対に離婚を認めなかつたようすですね。離婚を法律で禁止したこと、李朝時代にはあつたようぢやありませんか。儒學の影響は、道義的にみて反つて朝鮮半島を墮落させ

せましたな、あまり朝鮮人はその形式ばかりを尊んだから弊害のみに禍なされてね。』

J「それでも日韓併合後は、日本の法律や、制度が採用されますし、文化的開發につれまして、婚姻や離婚についても日本の法律が適用されてきましたので女子の本夫殺しの犯罪は激減してきました。』

△「朝鮮婦人が殺人の犯罪手段は主に何を用ひて居りますか。』

J「就眠中、アヒサン、又は苛性曹達を口に入れ、或は沸騰した油を耳の中へ注ぎ込むと謂ふので、凶器で斬ると謂ふのはあまりありません。』

△「朝鮮の家族制度は、婚姻習慣の改善を中心として、又新時代の風潮につれまして、どう變化してゆくものでせうか。そしてこの過渡時代には婦人の本夫に對する犯罪及訴訟行爲がどう反映して來るかは又興味ある事柄ですね。つまり昔は夫は自由に離婚が出来るが妻からは絶対に離婚は出来なかつたと云ふんですか。しかし男子專制の現代でも大分婦人の法律上に於て占むる地位が漸次男女平等と云ふ傾向に來て居りますなあ。男子にも貞操の義務があると云ふ大審院の判例も生まれますし、姦通罪も婦人に對して片手落ちであつた現行法規が、女の側からも夫の姦通を訴へることが出来ること云ふように變つてくるらしいですね、法律上の男女平等は從來の家長中心主義の家族制度が、資本主義經濟組織の發達によつて壞崩してゆくことを如實に示してくるようすですね。』

J『併し現在朝鮮では、妻からの離婚訴訟は、悪意の遺棄及び三年以上の行衛不明又は強盜等の重大犯罪を其要素とする事は内地と變つては居りません。』

刑法上の殺人罪は内地に於ては男子の犯人百人について女子二十人の割合、凡そ世界では平均全殺人数の一割二分が女であるが、朝鮮は男子七十五人に對し女子六十六人、男百人の殺人罪に比して女八十八人。その中でも即ち六割三分の亭主殺しがふくまれてある、亭主殺しが多いから朝鮮婦人の殺人罪の率が多いのだ。これは甚だ注目す可きことではないか。

△『よく南朝鮮、北朝鮮と區別されるようですが、あれは概して京城を中心としての事ですか。』

J『まあ、そうとも云ひますね、全朝鮮でしたら南朝鮮地方は知能犯が多く、北朝鮮地方は、窃盜、強盜が多いようです。犯罪の件数からみしても、南朝鮮が五なら、北朝鮮は四の割合です。又裏朝鮮、表朝鮮とて日本海岸と黄海沿岸側とを區別してみますれば、略その犯罪件数は同数ですなあ、朝鮮半島を南、中、北と三等分してみませば、その割合は二四、二七、二二と云ふ順序でして、文化の發達して居る土地が最も犯罪が多いのは止むを得ません。』

△『半島に於ける犯罪の發生が、日本とは特別に異なる社會的原因に支配せらるる事もあるようですなあ、天然の資源は少なし、又人爲的にも産業が振はず、それに人口が稠密ときて居るんですから。そ

れに日韓併合前途の政治の腐敗で民心の萎縮とその沈滞の度は今日も頗る甚だしいようですからね。私共があちこちと旅行してみましても、富の程度、一般人の生活程度は、内地と比較しまして著しく低いようですね、火田民の生活も覗きましたが、半島の西北部の高山地帯だけでも百二十萬人から居るそうぢやありませんか、あれは皆赤貧洗ふが如しの程度を通り越して、あれが人間の生活かと思はせる程ですなあ、いや内地だつてね大變ですよ、どん底生活は火田民と同じですよ。貧しい者が多いのは犯罪の多い結果を招きませうが、火田民など、咸鏡南道だけで二十五萬人、江原道が二十萬人、平安南道が十一萬人、黄海道が六萬人だつて平壤の役人が言つて居りましたがね、新義州なども營林署管内だけで十一萬人の火田民があるそうだが重大なる社會問題ですね、何でも全鮮では乞食に類する極貧者が四五十萬人あると云ふから、犯罪を豫防すると云ふ消極的の事情よりも、國家の問題として、人道上から適當なる對策が必要ぢやありませんか。半島はとに角金もち少ないし貧乏人は多いし、一般人民の富の程度は低いし困つたもんですなあ。』

△『私は不逞鮮人つて言葉は嫌ひですが、不逞内地人、不逞主義者。不逞學生なんて言つたらきりがありませぬ。しかしあれは一體どう云ふ犯罪にあたるんでせうか。』

J『政令違反と云ふ朝鮮の特別法令がありますわ、朝鮮の獨立運動なんて云ふのはこの部類になるの

です。』

△『しかしあの不逞團は、まだ此邊を徘徊しますか。彼等は良民を強迫しますけれども、あれは強盜でせうな。近頃ちや彼等は生活の方便で獨立論の美辭を使つても、鮮内ぢや商賣にはならんそうです。實際問題として、今頃日本帝國の範圍内から獨立しようなど考へて居る者があるんですかね、獨立する實力がないことはわかりきつた話、獨立したいと云つても肝腎の鮮人で心から賛成する者はありませんまい。又そろあの惡政をやられちや困ると思つて居りますし、夢のような事に對して應援しなくなつてきましたね。朝鮮人全體の幸福のために、もつと實際問題を取り扱つて民族の文化を向上させると云ふ氣が起きぬものでせうか、それでは飯の種が減りますかハ、ハ、』

J『朝鮮に侵入します不逞團は、多く刑法第〇〇〇條の一個の行爲にして數個の罪を犯したるもの云々の適用を受けまして、獨立するから資金を出せと云ふことは、即ち政令違反と強盜に關する二つの條文に照らされて處斷されるわけです。』

△『朝鮮半島も、文化の發達と共に、文書の偽造や詐欺等が累進的に増加してくるようですね、この統計表をみますと、傷害罪は市場のある都會地や遊興場に多いものですね、このJ『ごらん下さい。この地方は、比較的經濟が發達して居りますから、猥褻、姦淫、重婚罪などが多

うございませうが。』

△『半島の文化的環境と、犯罪の傾向など刑事政策上からも面白そうな研究ができそうですねアハ、、、政令違反等に對しても嚴罰主義に傾いて居られるようですね。』

J『獨逸の共和政治維持法などは凄いもんですね、反政府的の群衆運動などあれば文句なしに機關銃でやられます。伊太利のムツソリニ一の強硬政策、ロシア共産黨の反政府運動に對しての極端なる斷壓、一言半句の批評すら許して居りませんね、日本はこれからみれば一番寛大ですよ。隨分ポリシエビキとメンシビキの社會運動が内地でも行はれるぢやありませんか。無産政黨の左右兩傾も結局はロシアの過激派と五十歩、百歩で單なる運動方法として政治行動をやつて居るのですからね。近頃流行の學校騒動はまるで、労働爭議と同じですね』

陸接國境にのぞむ

◎ 國境警備問題

朝鮮馬賊の實狀——その根本對策——國境交通と授産
——警備の苦心誰か知る——

◎ 新義州と鴨綠江

北鮮關門——輸移出額——六千九十一萬三千圓の貿易
額——林業政策の解決を要す——朝鮮を誤る内地人の
煽動家——

◎ 國境の土に接吻す

國を離れて日本を思ふ——朝鮮半島は大陸の尖端だ——
——ロシヤも支那も半島のつながりだ

陸接國境にのぞむ

國境警備問題

私は今鴨綠江の蜿蜒たる流れに臨みつつ、筏節の情調を味ふ前に、當然國境警備の重任につける我同胞が現實の非常なる苦心にも涙ぐまねばならなかつた。朝鮮の治安維持については、最近かの獨立運動は全く鎮靜に歸し、兇暴手段を以て良民を脅迫し、金品を強奪する所謂不逞の徒の出没は減少したとは申せ、近來は又民族運動と社會主義運動とが共同戦線として連絡をとり、巧妙なる手段をもつて青年學生を蠢動せしめ、種々の社會問題、社會事業研究會等々の美名に隠れて潛行艇式策謀が多くなつてきた。第三國の力をかりて日本の統治から離判しようとして企てたり、ロシア共産黨の指圖に據つて民族的反抗意識の注入から事毎に、政治上又は社會上の不平を挑發して人心の平靜を亂さうとする不良の徒輩も涌いて來た。爲政者としても、直接治安の維持に任ずる者も、如何にして平常これらの徒が乗せんとする人心動搖の端を未然に防ぎ、不合理的手段によつて一舉に半島の政治的又は經濟的解放を獲得せんと試みる不逞團を、多數半島人の幸福のため、そして内鮮の共昌、共榮主義により、

半島民族の最大幸福を齎すため適宜の處置をはかる事は緊急迫る問題であらう。國境警備問題もその重大なる一部分である。これは鴨綠江と圖滿江との二大河によつて、行政的不安夥しい支那及ロシアの領土と直接境を接する所に、特別の心勞が必要であつた。支那の間島及び露領西伯利亞は、優に渡渉し得る河流であつて、對岸は外國の領土主權が嚴存し、それを楯として不逞鮮人馬賊、鮮人土匪團が國境を渡つて平和なる半島農民を脅威し、それが又獨立運動の美名を藉りて強盜團を組織し來る時、四時この對敵警戒の任にあたる者は戰時状態と等しく墮濛により、孤立無援の小人數を以て一定區域の監視にあたり、情況急變すれば妻も銃とつて應戦しなければならぬ程の物凄さが今もつづいて居るのだ。その不逞團による事故は甚だ減少したとは申せ、國境の警備を撤去するわけにはゆかぬ。

この警戒區所は、内地なら下關から栃木縣の黒磯に至る迄の大距離で、約三百三十六里、この間を僅の警官が警備して居るのであるから、朝鮮馬賊を絶對に鮮内へ浸入させぬと云ふことは出来ぬ。要所には陸軍守備隊が分屯して居るが、これとて僅小の兵力、警戒兵を行列させて置くわけにもゆかぬ。河岸の展望は長白山脈の峻峻もあり、渡渉が樂に出来る箇所が多い。それについては警備の狀況を詳細に記述するよりも、あの人口に喧傳された丸山さんの國境警備の歌を示す方が、充分にその氣分

がわかると思ふ。

「此處は朝鮮北端の、二百里餘りの鴨綠江、渡れば廣漠南滿洲。極寒零下三十餘度、卯月の半に雪消えず、夏は水沸く百と餘度。勤むる我々同胞の、安き夢だに結び得ぬ、警備の辛苦誰か知る。川を渡りて襲ひ来る、不逞の輩の不意撃ちに、妻も銃とり應戦す。虎は死して皮留む、人は死してぞ名を残す、國境警備のそがために。」

現在どれ程の鮮人土匪が對岸に居るのだらうか、その數は頗る明確を缺くけれども、武力團體としては、戰線統一運動が熟し、朝鮮の獨立を期さうとして居るが、同士討を演じたり、思想上の相異があつたり、彼等が生活上の地盤とする在滿鮮人(大多數は農民)も時運の進展によつて變化がきた。十年前の大正八九年頃迄は、鮮農は盲目的に武力をもつ獨立運動に服従してきたけれどもその永年拂つた犠牲について懷疑を抱き、大層打算的に物事を考へてきた。それは獨立武力團體が、朝鮮の國境地帯を荒せば、きつと朝鮮總督府側から支那の地方官憲へ談判に来る。そしてその不逞團の取締りについで嚴重抗義だ。支那側でも最初から直接自國民に危害を加へるのでもないから、いい加減な處置をとつて来て居る。彼等の協定など空文だ。相手は協定と實行は別問題に考へてる。又たとひ奉天の中央當局は日本の抗義通り自國の地方官憲へ不逞鮮人團の横行禁止を命令はしても、支那の行政官や

軍憲も適當に不逞團から收賂をとつて居るので討伐などやる氣がない。討伐する能力のないものもある。そして時に應じては逆用したい位の連中であるから今日も猶、北滿一帶には新民府、吉林以南西間島地方には正義府、長白山附近の安圖、撫松、揖安方面には參議部、その武力は總計一千百名位だが各所に散在して居るのでその地盤本據地の戸數は六七萬戸を算して自治的に租税などを集め、しきりに滿蒙在住の鮮農から軍資金を強要して、生活の資として居るわけだ。自縄自縛の不逞輩は何と目先の見えぬことだ。實際上彼等少數の武力團體が朝鮮を襲ふても、忌はしい掠奪や射殺事件を起したつてどうするつもりなのか。それは全然問題にならぬ程の一些事であり、その微力は到底彼等が所期する朝鮮の獨立を招くなどは夢にもできぬ。線香煙火的の兇暴手段をやつて果して彼等の幸福を招くことができようか。翻つて支那官憲から非常なる壓迫を受けて居る在滿の鮮農が、この獨立團に好意を示したのは昔のことであつて、今日では多年の經濟的困窮のために、空想的なる政治運動等よりも、現實の生活苦をお互ひが救済することが急務となつて來た。可憐なる無辜の鮮農は、千や二千の武裝團を組織して鮮内に侵入した所で、結局は何も得る所はないと云ふ打算的と云ふのか、感情的、昂奮的頭腦が常識的、平靜的に落ち著いて來た。ここに於ては武力團自身もやがて考へねばならぬ時機に遭遇したのである。分裂して居つた各思想團體、武力團體が結合して、滿蒙に於ける平和なる鮮農の産

業的發展に自覺し、獨立運動から自治運動に方向轉換しようとするのが最近一般の形勢となつた。在滿百五十萬人その大多數の鮮農は政治も思想も無頓著。唯一途に吃飯問題に悩む今日、此上とも獨立運動業者からいぢめて貰ひたくない。獨立團連中が鮮内に侵入して騒げば又々迷惑するのは良民ばかり、支那官憲の取締に名を藉りて鮮農放逐をやるので困るから、國境地帯を荒すのはつまらぬ事ぢやないかとこつ者が多くなつてきた。不逞團自身は、この在滿鮮人が平穩無事に其土に安んじ、農耕に従事してゆける氣分を自らせばめて苦しましむる理由が何處にあらうか。若干の武力は何の飾りもならぬので、内鮮融和が圓熟したる今日、小兒病的發嗟の土匪的行爲は、朝鮮人自らを愛する結果も生み難い、全く兒戯に等しい行爲ではないか。しかし彼等は今更解散も出來ず山寨に立籠る馬賊と同じく、時勢を知らず、親の心子知らず、眞の鮮人の幸福を破壊しつつ、無益の暴行も敢て社會的に反響を生まず、反つて多數良民に物質的、精神的苦勞をかけて居るのがわかりきつても、飽迄あつさり胸襟が開けないと見える。國境警備は此等の盲目的武力團に對して朝夕河岸をはさんで警戒して居る役目なんだ。事故は大正八九年、十一、二年頃迄は頻々たるものであつたが、近來は鮮人自身の共鳴を得ぬので一ヶ年二三年問題が起る位のもの、しかし對岸支那領の行政不安、不秩序に乗じて四時武力團を養成しつゝある三百。四百の團結があると云ふ事は、治安の維持上日本として

は安閑たるを得ぬ。これしきの物の數にもならぬ小數團體に對する國家の犠牲は甚大であるが、根本的解決策はまだ生まれて來ぬようだ。暉春事件の如く支那側の諒解を得て大討伐をやつてしまふのか、支那側に依頼して徹底的手段を講じてもらふのか、又彼等を適宜に抱擁し産業的方面に安固の地位を與へるのか。それは各々困難なる事情があるともみえて行はれもせず今猶嚴重なる國境警備はつづけて居る。戰場に馳驅する勇士もとより國民はすべて感謝しその崇高たる犠牲に對しては國家はその勞を敬するであらう。これは獨り軍人には限らない。生命を的の淋しい國境警備の警官とその家族、任務のために、不逞の徒のために犠牲となつて死んだ百數十名の警官諸君、いや其他全鮮の警官、全鮮の官公吏諸君の、すべては内鮮兩民族のために多大の努力を注いで任務の達成につとめる以上は、日本國民は悉く感謝の涙を以て敬意を表さねばならぬのだ。不逞鮮人が國境地帯を犯すと云ふ事について、私は再考しなければならなかつた。それはこの困難を極むる國境警備は、徹底的に威力に據つて防壓することが出来るであらうか。たとひ支那領に逃亡し、そしてそこに二重國籍的生活、土匪的生活を營むと雖もそれは多大の費用と、非常の決心を以てすれば絶滅すること又易々たる事と私は信ずる。けれどもそれは決して萬全の策ではない。第一國庫の費用問題である。外交問題にも關聯してくる。又その根本原因たる不逞團が事實上何を要求し、何が故にその道を誤りつつあるかと云ふこと

に想致して欲しいと考へる。私は國境警備に多大の費用を要し、在外鮮人の撫育、殊に滿洲鮮人の思想的、政治的運動の取締りに過大の經費を支出せる日本國家は、それらの一切の費用を今少し生産的の事業に轉換せしめて、吃飯問題を解決してやる事が第一だ。飽食となれば自然に天下は泰平にきまつて居る。鴨綠江、圖滿江附近に住む鮮人の生計問題を積極的に指導し、在滿鮮人にもよく片手落ちのないよう、支那官憲と日本官憲とのどちらの保護も受け悪い氣の毒な移住鮮人が、安心して生きてゆけるように、支那當局と談合裡に在滿鮮人問題に伏在し又は關聯する外交、經濟、國籍、思想等の諸問題の現實的解決に國力を傾注して可なりである。鮮内と在外この二つの問題に不熱心にしてどうして國境警備の不必要時代が招かれようぞ。勞して功少ない警備にあくせくして奔命に疲れる前に、斷然大局からみてその根本の經濟問題、外交問題を解決して鮮人の魂を救済してやる事が、そして日常の吃飯問題に安心を與へてやる事が國境及支那領に於ける不逞の徒を善良に方向轉換せしむる唯一の方策であると思ふのである。

要は所謂不逞の徒をも抱擁力を大にして、生活の定安を與へ統治の實蹟顯著なるを知らしめ、又國境地帯に住む朝鮮住民に仕事を授くる事ではあるまいか。火田民の如きは今日猶草根木皮を食し一族一ヶ年の費用が五十圓あれば生きてゆけると云ふどん底生活であり、朝鮮の貧民階級は内地とは全

く其程度が違ふ深刻なる低い生活ぶりなのである。

警備素より必要であるが、國境附近に相應はしい産業の開發策をはかり人民に生業を與ふことは即ち不逞の徒の馬を射る事にもなるのである。私は近來總督府當局者が鐵道網を立案ししかもその既定計畫として確定されたる國境に沿ふ咸鏡線、惠山線、圖們線其他の諸鐵道が實現されつつあることを喜ぶ。しかもその完成年次をば、半島南部地方の諸豫定線を一時延期しても可急的に完成す可き政策をとり、速に北は會寧から南新義州迄半島國境、橫斷幹線を開通せしめて、最も文化に恵まれざる此地方をば開拓す可き血脈を求め度いのである。全般的にみて半島の全土は、内地の本州に匹敵する地域にあり乍ら其鐵道は内地の約二割に過ぎないのであるから産業、經濟と相俟つて猶充分に交通の發達を期せねばならぬ。

徒に燒石に水的の警備費支出の擴張を講ずるよりも、鐵道交通の開發と相應じて漸次如何なる産業が適當なりや、如何にして不逞の徒の横暴を最も賢明なる方策を以て根本的に驅逐す可きやを研究してみる必要があると考へる。交通の完備がその警備に與へた好影響の如きは、新義州のT氏が鴨綠江の淺瀬を航行するに適當なるプロペラー汽船を考案したことも一つの話柄だ。しかも吃水が一尺以内の客船で、一時間十二哩以上走ると云ふ快速、このプロペラ船の發明に據つて從來中江鎮から下航

する高瀬船が十二三日もかかった所を四日間に短縮し、遼江は天候に支配されて二十日も三十日もかかった所を一週間以内でいづれも正確に定期に航行をつづけて居る。経済的にはこの輪船公司はうまくいつて居らぬが、しかし日本の国旗を翻して鴨綠江を上下するこの汽船のあるために奥地の文化開發の上に、又警備方面の上に非常な國家的貢獻をなして居る。そのために安心して上流地方に發展も出來且つ對岸支那側に對してはどれだけ肩身が廣いか知れんと上流邊域に住む内地人が私に實話を傳へたことがあつた。今はこの航路は總督府の指定補助航路になつたようだが……。

この二隻の溯航船がもたらした効果にもみらるる如く、一度國境地帯に鐵道の完備を見んか、それは文化の上に、警備の上に劃時代的の變化を與ふるや必然、その經濟的好影響は火をみるよりも明かではないか。しからばここに於て如何にして國境産業の開發をはかる可きかと云ふ問題に當面して來た。

新義州と鴨綠江

新義州は京城を北西に距る三百八哩餘、京城からは約十一時間半でぶつ飛んでしまふ。人口二萬六千三百四十二(内地人六、六七七、朝鮮人一)人。昭和製鋼所が出來ると謂ふ多獅島もすぐ近くだ。

朝鮮南端の釜山から縦貫鐵道の幹線五百九十哩、直通ならば二十二時間で北端であるこの新義州に到著が出来る。もとは極く淋しい渡守の棲家であつただけだが、明治三十七八年戰役に臨時鐵道監理出張所が設けられ、次いで税關や營林廠(現營林署)が置かれ四十三年開港場となり府廳が定められて忽ち一大都會を形成したのである。古來國境の都は新義州から北東四里三十町義州が肝要の地として知られて居つたのであるが、交通の關係上新義州が其お株を奪つて今日の盛大をなしたのであつた。義州の統軍亭からは對岸支那領の九連城、虎山、安東を一時にすることが出来る。そして我が將士が日清、日露兩戰役の砲兵陣地を定めた形勝の地に統軍亭もあるが、併し先に義州にあつたその平安北道々廳も今は新義州に移されて赤煉瓦の堂々たる北鮮關門の官廳たるに耻ぢぬ體裁を備へてきた。市街は道路も廣く家屋も新しい。將來商工業的に有望な土地柄であり貿易品としては、米穀木材、牛皮、生牛を輸移出し、石炭、木材、粟等を輸入して居る。この土地は對岸の安東と相接し丁度相互で一つの都市のような感じを與へるが、この河流の一つで支那と日本と云ふ國境なのだ。

鴨 綠 江

李朝 張 城

『鴨綠江頭萬項波。』

沙禽水鳥濤風靜。

今朝亦載星使過。

岸草汀花雨露多。

桂棹乘流輕似羽。 鳳池龍沼相逢久。

雲山人望翠如螺。 回首其如憾慨何。

東洋一と云ふ有名な鴨綠江は、本流だけが二百一里九町、ここに架けてある鐵橋は長さ三千九十八呎、橋桁が十二連、中央にある三百呎の橋桁が一日四回開閉されて其時間に船の上下を便にする仕組み、鐵橋にはいつも我鐵道守備兵が堅く警戒して居る。
『朝鮮と支那と境の鴨綠江、流す筏はよけれども、雪や氷に鎖されて、明日はまた新義州につきかねる。』

○水や空、流れ盡きせぬ鴨綠の、波を枕の筏舟、杉、松、紅松、落葉松や、待つに甲斐ある權のぬし。
○朝鮮と支那と境のあの鴨綠江、架けし鐵橋は東洋一、十字に開けば、眞帆片帆、行き交ふヂヤンクの賑々しさ。』

鴨綠江の生命は林業である。名物鴨綠江節の筏流しの壯觀は揚子江のそれには遠く及ばぬけれども筏を組んでその上にバラック建の家を構へ鶏なども飼ひ乍ら悠々と流れを下るさまは大陸情調の一つに數へなければなるまい。國境地帯の警備状況は四時油斷ができぬ。鐵道交通の敷設と相俟つて如何なる處置を施す可きか。『鴨綠の流れは清し月冴えぬ。バイをふくみて益荒夫が、討ち入る彼方に犬の

聲、其處に撃ち出す敵の彈丸。』と謂ふ不安も伴ふのだ。が、經濟的開發さへ出來得れば不逞の徒の策動は結局なくなると思はれる。それは國境方面上流の林業開發を積極的に經營することだ。
全鮮の林野總面積は約一千六百四十七萬町歩、全土の約七割四分である。(國有九百七十七萬町歩) 民有七百三十萬町歩) しかし廣漠たるこの林野も到る處秃山赫丘のみ多くて公山無主の方針から濫伐暴探の限りをつくして居るばかりであつた。だから朝鮮は雨降れば濁流氾濫し、旱天となれば灌水涸渇するのである。ただ例外は若干の陵墓附屬地の他この鴨綠江、豆滿江兩流域のみが約二百四十萬町歩、營林廠の管轄である。

話は少しくどくなるが一貫尺、縮は十二立方尺あつてそれが約十億尺貫縮あるから、この國境地帯を中心として年々八百萬貫縮を採取しても猶約二十年をもつ道理、採取と共に植林を適當に施せば林政計畫上國家的にも重大な役割をこの鴨綠江が果して呉れるわけだ。尺貫縮とは所流流水のこのとで一尺貫縮から百分の五十だけ利用材積があるから、一ヶ年八百萬尺貫縮からは約四百萬尺貫縮が採れる。併し實際問題としては運搬に困難であり、又は搬出不能の程度の場所もあるわけだから其の伐採量の概算のみをもつてしては、市場の相場を斷定することは勿論不可能であらう。けれども私は今新義州營林廠の統計を手にしてみれば、近年迄は漸く一ヶ年百萬貫縮しか採用して居らなかつ

た。猶七百萬尺貫締と云ふものが容易に採れるのではないか。少くともそれに近い採取が可能なのであらう。營林署の蓄材が十億萬尺貫締あつて對岸安東に於ける日支合辦會社の鴨綠江探木公司の蓄材が僅かに五億尺貫締であり乍ら、しかも年々三百萬尺貫締を採取するから近年迄朝鮮の營林廠側は比率が八分の一と云ふ怠けぶりがあつたのだ。其原因は果して奈邊に存するののか。今日營林廠が年額百萬尺貫締の採木をするためには、國境地帯の朝鮮人が其家族を合して五萬人生活を營んで居るのだから、それが對岸の探木公司程能率を擧げる事が出来れば、優に二十萬人の貧窮した鮮人の生活を安定せしむることが出来る。しかも近來アメリカから毎年數千萬圓の米材を輸入して居る我日本が、國家大局の上からこの鴨綠江一帶に對する林業政策に深い思を注ぐならば、國產獎勵と自給自足の原則にも合致し、併せて朝鮮統治にも重大な好影響を與へることになると思ふ。これを新義州の役人をつかまへて論じたのはまだ營林廠と云ふ名稱であつた頃だ。其後訪れた時は營林廠は營林署となつて、朝鮮國有林經營には山林部の下に三十六の營林署を設け、その下に更に百四十二の森林保護區が設けられて數年前とは林政機關も一變した。民有林の改善は各地方廳が實施し、近來は國有林野増進施設に、民有林改善施設に面目漸く一新せんとしつつある傾向を發見して私は嬉しかつた。舊韓國時代はその林野の保護、殖林計畫は全く顧みられず、その稅政は火田民と稱して四十度位

の傾斜地の山林に迄火を放ち、それを耕地として肥料も施さずに耕作し、又次の土地に火田を營んで放浪すると云ふ遊牧の民のような極貧者の自由割據をも默許してあつたので、國家百年の大計たる林業政策、農業と密接の關係ある林野の荒廢を來し、民力疲憊の一因をつくつて居ることを知らなかつた。私は今新義州唯一の名物たる材木をみた。そして製材工場の煙突から黒煙が立ちのぼる光景を眺めた。それと共に鴨綠江岸のジャンク船が無數に白帆をあげて上下する鷗の飛び交ふ靜かな國際河川をみた。當然この河の上流に埋もれてある國富無限の林野に關してその開發方法とそれが國境地帯の經濟と治安に必然の影響を招くことに思ひ致さねばならなかつた。朝鮮半島に於ける國有林の要存豫定林野面積五百餘萬町歩に對しては、其根本的の森林經營が積極的に更新され、しかも近來は全鮮を通じて年伐量が三百五十萬尺締を超過し、鮮内需用の大部分を占め、その收入も併合當時は百四十萬圓程度のもものが五倍の七百萬圓に及んで居ることは二十年の進歩としては著しい。私は朝鮮名物禿山が鬱蒼たる林相を呈し、滿目荒涼たる半島の國土をして綠山のうるほみをつけたいと願ふこと切であつた。

私は此夜も朝鮮宿に泊つた。BさんとFさんから往訪を受けた。そして談偶々朝鮮問題に移り井

(サバル)に山盛りになされた薬食、乾肴と雑菜と沈菜、私の膳部をみた内地の人は驚いて居つた。よく我慢が出来ますなあと言はぬばかりに。そして濁酒(マツカリ)の盃は交はされて土地名産白魚の筏焼がひろげられた。翌朝の献立は湯飯に醬肉、特別に煎骨は美味しかった。

B 『この前東京から〇〇と云ふ代議士がこちらに見えました。日本の民衆政治家と云ふ看板でせうそれが朝鮮は内地より田舎なものですから皆々珍らしがつて入場料一圓を惜しみもせず何の土地も大入満員でした。北鮮地方から國境の此處まで旅をし乍ら金もうけに來たのでして、大分利益があつたそうです。その男は盛に總督政治の悪口を叫びますので、内地人の聴衆は悲憤してその會場内に居たたまらず、それに反し朝鮮人は大はしやぎ、日本の有力なる政治家、憲政の神様が、總督府の壓迫政治だと云ふことを證明して呉れると云ふので、朝鮮人間の人氣は益々熾りましてね……』

F 『そうでしたね、しかも臨場の警官は何故か沈黙して居りますし、〇〇は益々つけあがつて到る處日本の統治政策を罵倒しました。新義州では内地人間で、ああ云ふ實情を知らず朝鮮人の言葉だけ聞いて、非國民的講演を職業的にやつて居る奴は制裁しようと言話があつたんですがね……』

△『煽動政治家は世間に多いです。政治家ばかりではありません、社會運動家などはそれが一つの自己宣傳の廣告になるのですから。民衆政治家も宜しいですが、自分の一舉手、一投足を深く慎しむ

度いものですね、單純なる感情からくる淺薄な同情、半島の實情に疎い人々が形式的にみたその一端から出發する斷定、皆内鮮融和の理想をぶち壊す事を知らぬようぢや年は老つても小僧ですよ、ワハ、……』

B 『京城邊の總督府の官吏ですら、朝鮮統治について誤まつた批評を發表して居ります。過般も或論説に、一寸朝鮮を覗いた程度の常識しかない駈け出しの教員が、引例した統計を違つた!! 机上の空理を弄んでインタナショナル式の國家の生存否定や、基督教主義の誤つた人道主義でね、學者だ、論説家だと云ふ連中が内地にもたくさんありますね、朝鮮人の口から日本の統治政策の批評でもやれば、びくびくして居り乍ら内地人の無定見なる、しかも國家の統治政策の根本に反意を示す程の論説も學問の研究と云ふ逃口上がある者には一切の公表お構ひなしですあ。政府の方針、總督府の心もちなど私ども朝鮮に住んで居る内地人には全くわけのわからぬ事が多いですよ。』

F 『〇〇などが朝鮮までやつて來て、朝鮮人のために日本の軍備は縮小す可し、日本は帝國主義である、侵略主義の軍隊は民衆を壓迫するものだ。軍閥を打破しろそんなことを朝鮮人に向つて何の必要があつて宣傳するんでせうか、折角一圓の入場料を稼ぎに來たのですから、人寄せの方法としてはよいかも知れませんが、日本の國內の狀況には無理解な鮮人に、誤解しやすい政治論を吐くなど没常

識です。又ね、その〇〇は眞赤になつて内地に於ける學校教練を反對して居りました。當時の朝鮮では内地と異なつた事情にありますが、教練實施については誰も實際問題としては考へて居らなかつたんです。それが口を極めて軍閥の方便だなんて毒舌を吐いたものです。又朝鮮統治方法が悪いとか、日本の政治は特權政治だから、自由主義をとり入れよとか、要するに軍人は悪いもの。日本の政府のやり方は悪いと云ふ結論でして、朝鮮人を煽てあけるものですから、そして日本の一切をぶちけなすやり口ですから、朝鮮人は〇〇先生〇〇先生と云ふて大層喜んで居りました。』

△「何ね、内地だつてそうでしたよ。學生の團體などもね、今日は國家主義の團體に入り、明日は社會主義研究會の會員と云ふ風にさ、裏表の使ひ分けは自稱學者や學徒には平氣ですよ。官費で國體變革の實際運動の緒を操つて居る學者もあつたそうだし、國家の恩給を戴いて左傾の主腦部に配をふる連中も多いそうですよ。大學の先生で或學校では學校教練設置の反對演説をやつて、他の學校では贊成團體の指導者をつとめて世の物笑ひになつた人もありますし、學生の演説會にもこう云ふ種類の輕佻な連中が大多數でしたぜ。軍事教育は殺人教育だと申した大學教授がりましたが、學校教練の本質が奈邊にあるかを知らなかつた自己の不明をさらけだして居ります。蕃地に旅行する時ピストルを携行してゆくのは、最初から人を殺しにゆくのではありませんからね、青年士氣を鼓舞し、

國民精神の涵養に資し、學生の心身を鍛練して團體的訓練から國家の中堅たる可き者の素質を向上させる事に役立てば、こんなによいことはありませんよ、一つの人格教育ですから、それが又當然の結果として國防能力が増進されるならば一舉兩得ぢやありませんか、國境警備に従ふ私共の同胞諸君が不逞の徒からモーゼル銃にねらはれて、應戦出來ぬ空手ぢやしようがありませんわいワハ、ハ、ハ、』

F「そうですね、机上空理の連中は、少し生命のあぶない國境視察に、武裝警官の護衛もつけず歩かせてみたいですよ。まるで私共がとにかく國家の第一線にたつて、お國のためだと思つて居るお上の役目を、總督府官吏は一切朝鮮人を壓迫するために居る者だ、守備駐屯の軍人など餘計のお世話だと言はぬ許りの雜言ぢや全く私共生命を捨てて居る者の仕事の張り合ひがなくなりますよ。』

B「民衆政治家だ、内地の評論家だなんて偏狹な名士連中に限つてブルジョアの旅行ですよ。平民主義だと申したつてね、絶対にこんな朝鮮宿には宿泊しませんから。民衆の空氣を知るためには、民衆と共に歩くだけの日常の行動が必要ですよ。最小の質素な生活、殊に朝鮮のピンデエに嚙まれて粟飯を食ふことです。大抵の連中は驛から自動車でホテルと云ふ順序です。そしてその視察場所が上すべりのきまりきつた場所を、一定のグループの人間から、泣言や宣傳を聞き嚙つて、早速内地に歸つては總督政治の批判ぢや、朝鮮人はこうぢやと原稿料を稼がれるのです。ああ云ふ人達は、日本國

民としての眞面目な考へがあるのかどうかを疑ひますよ。』

F 『何！ 内地の朝鮮通と云ふ連中や、見物人は相場がきまつて居りませぬ。朝鮮の眞底をみて呉れませぬからね。〇〇ばかりぢやありません。まるで詐欺みたいな偽善者ばかりです。利権漁りの政客、政商ときたら國家も朝鮮統治の將來も眼中にないのですからね。』

△ 『困つたもんですなあ、支那の土豪劣紳と貪官汚吏よりひどい者が多くなりました。政客の中に泥棒も生れ政商の中にすりもあつたと云ふでせう。學者は偽君子と鄙夫が多いでせう。……日本にも國をアメリカやロシアに賣る奴がでてきましたからね。憂ふ可きものですよ……』

私は内地人の訪客去つた後、靜かに温突に坐して佛心に耽つた。一切の男子は己が父、一切の女人は己が母である。この心は菩提心だ。善根心だ、即ち佛の慈悲だ。この心を以て内鮮人が相交ればよいのだと念じた。

李完用が旅愁の一節を聯想して口吟めば、

『旅人到處每多難。』

揚柳枝長垂地拂。

世事書中心憂々。

幸得奇緣酒豈慳。

榮松花發覆庭斑。

鄉愁枕上自鏗々。

回憶年來曾所感。

從知木石尙非頑。』

私は三界唯一心。心外無別法。を繰り返して石床に俯した。室の一隅に腰江(ヨカン)がある。尿壺である。昔内地人が朝鮮に渡つてこの尿壺を花瓶と思つて内地に携行し床の間に飾つたと云ふ話がある。成程男子用は白色の瀬戸物であるが婦人用には花模様をついたのが多い。花瓶のようだ。鮮人はこれを室内の一隅、又は枕頭に備へて就寢する風習がある。これも又朝鮮宿の一景物だ。

國境の土に接吻す

人生は五十と云ふ、唯五十年が百年、千年生くるとも醉世夢死せば木石に如かず、二十年で死すとも人生の意義を體得して確信の鐵壁貧乏動ぎもせざれば即ち萬年の生も又如かず『一念萬年、萬年一念』である。即ち死生超脱すれば大觀に到るの心境を求むるのだ。

人生何れの日とてか眞實ならざる、凡て貴重なる生の營みの一日である。どんな生活をして居ても心茲に在れば即ち立命の基礎成りて人生の事凡て透徹。精神生活は人としての糧だ！

私は今感激の旅を釜山から新義州迄すすめてきた。これから北滿及内蒙古に漫遊的旅杖を運ぼうとして居る。いづれの土地もそうであるがその民族の特質を考察するためには最も大自然の迫害多い時



期滿鮮なら嚴寒が適當であると思ふ。鴨綠江に面して對岸支那領の鎮江山が手にとるように見える。それは冬であつた。張りつめた厚い氷の上を橋に搖られてこの大河をよぎつた事があつた。零點下四十五度の寒さの日、防寒着にまるく包まつた私はこの河一つで日本とお別れだと云ふ感懐がどきつと胸に迫つてきた。私は國を離れる時二度は一度よりも、三度は二度よりも一回毎に日本を思ふ認識が強められて來るのである。日本人であるといふ光榮を感じるのである。そして國際河川の河流の中央迄は日本の水だ。私は暫く橋をとどめて山鹿素行の中朝事實の序説の一句を高吟したのである。私は氷上の冷たい氷に接吻した。國土への別れだ。日本への接吻だ。

『恒觀蒼海之無窮者不知其大常居原野之無畦者不識其廣是久而狂也豈唯海野乎』

日本人は日本を離れなければ日本人たる眞の自覺が涌かないのか知れない。海の廣きを常に眺むる漁夫が海の偉大に驚かぬと同じだ。美はしい日の丸の國旗になつかしむのは國土を離れてからだ。滿鮮の旅は此意味に於ても日本青年學生に一度はさせたい旅路である。

私は離國の情は時折味はつて居るが最も印象の深いのは曾て軍に送ふてシベリアの曠野に轉戦した時、先づその運送船が幾百名の將士の運命を載せて北陸敦賀の港を離れる時であつた。『祖國をたつ、御機嫌よう』

の電報を父と兄とそして實姉に出した朝である。實姉は「お國のために勇ましく立て」と前日祝電を弟によこしたのだ。

見送る人々の群、忙しそうな心持を咬るようなあの出帆間際のウインチの軌る音、人足の懸聲、煙突の黒煙、解纜時間の切迫を報ずる銅羅の響、右往左往する人々の挨拶、悲壯な萬歳の叫び。

將士が北に向つて萬里遠征の途に就き去るとき、見送る人々の顔が見えなくなり、棧橋や家並が見えなくなりやがて山は黒く、青く雲の如く暮靄に消ゆる如く見えなくなつた時、私共は始めて我に返つたのである。今更乍ら故國の風物、人、草、木。たつた一晚泊つた港の永祥寺などが名殘惜しまれてならなかつた。眼に露をうるほはせたのは私許りではない。戰士の感激なんだ。

『蹴破東露人道敵。』

浪哈海外馬如龍。

丈夫亦是非無淚。

泣指雲間一點峰。』

ジャンジャツクルツソオが啓蒙時代の先驅者として民約論を書き國事に奔走したが、時に利あらず生國フランスを愛するが故に瑞西に亡命せんとして國境に驕馬を驅る。馬車は瑞西の山を望んで國境を越えんとするや暫し車を止め低回去るに忍びず祖國の土に接吻したと云ふ。而して壯士一度去りて復還らず、ルツソオ終に又祖國を見なかつた。その頃私は勿論再び祖國の土を踏むことが出來ぬと決

心した。東郷丸はこの數百千の各々の擔ひ切れぬ程の將士が祖國を去るの感慨を載せて北に去つた。果して既に私の戦友の多くはツンドラを血に染めて今西伯利亞に永遠に眠つて居る。鬼籍に入り得る運命をもつて國を去る時は、實に祖國の土に接吻する位ぢや追付かなかつたのである。

歴史學者は『北は南を制す』と云つたが人間の生活は其適應條件の多少、就中食物の豊富が何よりの條件で變つてゆく事實を看過した。食物の生産量、收穫量から見れば働かずして自然の結實を獲る熱帯が一番安全であらう。唯人益々多ければ生産資料は缺乏し生活難を起して生活の基礎を脅威する。茲で人は熱帯から温帯に、温帯から寒帯に南から北へ、更に北へと新天地を拓いて行つたに過ぎない。朝鮮はその國境はロシアと支那に接壤して居る。シベリア三界は、その住民の多くは帝政時代の犯罪追放者の群と、此歐露の敗殘者で占めて居た。そのシベリアの曠野には我等朝鮮の同胞が百萬人も出かけて居る。滿蒙は今日の安東縣からその亞細亞大陸の一端を展開して居る。朝鮮は實に亞細亞に連らなる半島であつて、大陸の尖端だ。

日本内地人の朝鮮觀も島國にはあらざる大陸に連なる半島を聯想しなければならぬ。内地と大陸を連絡するもの、それは過去に於ける日本上代文化が朝鮮を仲繼として仰いだ恩恵のみではない。日本帝國の存立は實に亞細亞に連らなる朝鮮半島と相抱く環境のみによつてその力は維持

される。朝鮮はロシアと支那との國境地帯であると云ふことを再び認識して欲しいのである。國を離れるの情を味ふて再び對岸安東の鴨綠河畔に佇み今來し日本を顧みつつ母國の青年と學生に獻じてその第一便に曰く、…日本を思ふことしきりなりとして葉書に左の如く記す。

『○東海の濱神さびし、

正氣の花ぞ吹雪けん、

○仁の御玉を戴きて、

決斷の勇は御劍の、

○萬塚の櫻芳しく、

我皇國を浦安と、

○祖國は今や君を待つ、

白雪よりもいと清き、

國を離れて大陸に旅する心もちは又格別だ。

『一統亞歐應有人。

浩歌若過龍興地。

五千載の誠款は、

久遠に輝く大八洲、

致格の御鏡照り添へん、

萬世不拔の大基、

益荒夫の胸高鳴りて、

彌榮えます大君に、

炎よりもいと熱き、

大和心われにあり。』

そして鐵橋一つ渡ればもうすつかり洋行氣分になる。

不妨國論動逸巡。

爲我弔來鐵木眞。』

對岸安東縣たいがんあんとうけんに立たてばもうわが踏ふむ土つちは日本にほんの土つちでない外國とらこなんだ。

大陸に連らなりて

日華共昌の正しき道を示す——留日中華學生は如何
に日本の山水と社會を見るか——春雨に彩りて——
南海の風情——煙の都に佇む——温泉にひたる——
婦人觀と政治について——眞心の友情に變りなし——
——我等は東洋を呼ぶ！

『時光只解催人老不信多情長恨離亭滴淚
春彩酒易醒梧桐昨夜西風急淡月朧明何
好夢頻驚何處高樓雁一聲』

52

大陸に連らなりて

日華共昌の正しき道を示す

日本には幾莫とも知れぬ所謂支那通がある。支那通とは、支那を素通りしたと謂ふ意味ではなく支那事情に精通して居るわけなそうだ。今日日本の學界並に社會に於て支那學及び支那論が流行ツ兒になつてきた。それが本質的にどれ程の根底をもつて居るのかと見當がつかぬと謂ふ話だ。一寸上海や香港に上陸して租界支那又は外國化し歐風化したる支那を見物して支那を見て來たと謂ふ者があり満鐵の車窓から滿蒙の玄關を覗いて一躍天晴れ支那通に昇進した者もある。甚だしいのになると英米人等の支那論の翻案と翻譯をして上海や北平の英字新聞を種にきまつた連中から來る通信を土臺にしてよくも臆面もなく支那時局など御批評出來る自稱學者や評論家も多いそうだ。だから支那人から慌て者の日本學者として賣名ぶりを笑はれて居るのに氣がつかないのだ。又は志士氣取りで盲目滅法の不謹慎の言辭や態度を弄んで、時には少數の資本家や政商政黨等の傀儡となり、或は役者のけたの違ふ支那宣傳子の口車の代辯をつとめる非國民的間抜け男もあると謂ふ。國家主義も支那論も彼等

の吃飯問題——飯の種であつたのか。かくして日本の對支觀念が益々兩國和平の上に深い溝渠を築きつつあることは邦家のためにも又東洋の將來に對しても誠に憂ふ可き結果のみ醸成するのである。支那に於ける各實力派の應援團の演ずる支那論が、日本の東京に於てしかも言論や文書に政府に對し國民に對して行はれたのは、昔の南北兩派のみに限らない。

世界に於て支那を最もよく知れるのは我日本であらねばならぬ筈だのに燈臺もと暗しの譏りを受け日支共存共昌を絶叫しつつ共滅共亡の道を辿るのかとも思はせらるる點が多い。唇齒輔車、同文同種は云ふだけ野暮、今更日支親善の押賣りでもあるまい。支那に對する眼を何處につけて置くのか、それは悠々五千載大陸四億の同胞の血潮のたぎりを見出すことにあるのでばないか。

『支那は戦争ばかりして困つたものでな一體支那はどうなるのでせう。』
とはよく話題に上る言葉である。

『支那所ぢやありません、一體日本をどうなさるつもりなのです。日本こそ反つて緊要迫る問題が山積し、心配せにやならん危険をはらんで居るのではありますまいか』
と友邦として支那が一日も早く完全な政治的統一が行はれ、列國と平等なる立場にあつて、毫末も指彈を受けず、中華の名にあらずして事實上の中華の美はしい歩を進めて貰ひ度いのは隣家の火事所

53

ではなく、日本人の何人もが願ふ點であらう。併し乍ら徒らに走馬燈のような支那舊軍閥の興廢にのみ度膽を抜かれ目先の變つたニウースばかりを氣にして世界に君臨する其獨特の民族的社會生活自治的大集團が超國家的に飛躍する所以を顧みない。支那の史家をして語らしむれば、三大亂世として春秋戰國の五百二十五年間、六朝時代から隋に及んだ四百六十年間更に百八十一年間の五代の亂があつたと云ふ。十年や二十年の内争などを氣にしても仕様がなれないとは一例に過ぎないので、領域だけでも日本の二十四五倍、根本的に人情、風俗、歴史、傳統及習慣の違ふ支那を矢鱈に日本の島國的形式にあてはめてみて其方程式から割り出して等しくなければいけないと云ふ料簡が支那を誤まつてみる重大なる原因の一つではないかと思ふ。道德律にしても、商習慣にしても、法律に對する觀念にしても全く異なつて居るので、自惚れは何處の國民も同様、故に日本の國家觀念や國民道德を以て支那人を攻めて笑はれるのは支那に常識のない所以だ。又古典文學からみた又日本的にきめこんだ支那觀では駄目だ。内鮮人相互の無理解もこれと同じ筆法だ。

朝鮮と境を接ししかも日本と密接なる歴史的政治經濟關係に置かれて居る滿蒙地帯にしても、先づ日本人の滿蒙觀を改めなければならぬ。支那人の日本觀にも充分達眼の士がなければならぬ。日支關係の諸問題は、兩者が相尊敬し、相信

頼し、各々主客を轉倒して兩者の立場を考慮し、理解して後に始めて所謂「開誠布公」の賢明なる方途を發見し、東洋の極樂土も生まれるのではないか。

日本人は一體新支那の何處を眺めて居るのか、又滿蒙の將來についてどの點をみつめて居るのか、そして支那を通じて自國を顧み、そこに日支共存共榮の基調が奈邊にあるかに氣がつかぬのか、喧嘩腰の應酬や、買冠りや、又一片の外交的辭令では線香花火である。よく日本人は大亞細亞主義と云ふが、孫文などもこの意見をもつて居つた。しかしそこに聊か立場が異なつて居るけれども、終局的理想には合致して居つたのだが。孫文は流石に先覺だ。日本嚴存せざれば支那は白人の武力に分割されただらうと。

日華兩國の文明的交渉は、既に史實の明白なる時代のみにても三千年を閲し、今更乍ら中日親善ちや、共存共昌を叫ばなければならぬとは試に情ない次第であると思ふ。世界の平和は人類最高の理想である。それは先づ隣人を愛し同胞と共に親しむことから其一步を進めねばならぬ。隣人を愛するとは儒教の仁、佛教の慈悲、基督教の愛、皆これ惻隱の情の發露する表現上の差異に過ぎない。これ即ち日本建國の大精神と一致する所以であつて、萬世不拔の大基を底津盤根にたて給ふた神々の心は渾然融和したる樂土を正氣のいぶきによつて求め給ひしに他ならなかつた。日華兩國の悠久なる赤裸々の抱擁、人間對人間の交り、これを先づ君と我との個人の間になまらずして民族の間に育くまれよう

管がない。堯舜禹湯文武周公と理想を過去に求めず現代世界に求めよう。

中日親善は不自然なる環境に設立す可きものにあらずして、又何等かの効果をもたらず可き前提の下に企畫さる可きものにあらずして、自然に湧き出づる滾々たる泉の水の如きものでなければならぬ。其處に始めて兩者の圓滿なる交渉もあるであらう。友邦の眞情も心からお互ひが感じ合ふのであらう。日本文化は過去に於て誠に中國に負ふ所甚だ多かつた。文化の恩人であつた。又社會萬般の歴史的過程と民族的傳統に於ても文字通りの兄弟であつたのだ。今は果してどうであるか。

併し日本には今猶支那を劣等視して同情は何時しか相手に好意的の侮蔑を與ふる親善論者もあるそつだ。富豪貴紳の寄附金を掻き集めて廣く東亞の青年と提携せんなど稱して支那見物が目的の團體もあつたそつだ。しかしこれも決して全部の趣旨が悪いと云ふのではない。其行動が果して最善の方法なりやと申す迄である。其場限りの支那好みなど遊戯的であつて偽善だ。口舌の學者が己の心を瞞着して賣名と自己宣傳と裏切りをなす者が多いがそれは丁度職業的支那浪人と五十歩百歩、親善看板業者の會合と招待は決して支那人の心に感激を與へるものではない。獨りよがり終つてしまふ。一切の巧利的心情を捨ててこそ始めて日支の友誼を共に談ずる資格を備へてくるのではないか。日本人は思想的に歐米人の奴隷になつて居る者が多い。新支那の青年にも甚だこの種の人物が多い

ことを私は悲しく思ふ。支那を知らない支那青年士女の多いことを悲しむのだ。

それは天に唾する心だ。日本人は自らが有色人種であり黄色人種であることをはちて居るやに見受けらるる社會の一斷面がある。支那の若い男女も西洋化してどうするつもりか。

淺間しい沙汰の限りだ。我日本人が小英國、小露國に似て非なる模倣と直譯と驕慢と事大思想、白人世界の走狗になつては、曾て日露戦争によつて始めて有色人種の選手として萬丈の氣焰を吐いたのも水泡に歸し、期待に反し、失墜してしまつては東洋がどうなると思ふ。歐米大いに學ぶ可し、しかし日本を知らずして世界はわからぬ。朝鮮や臺灣の新附同胞を抱擁するの雅量なくして新日本がわかるか。支那を知らずしてロシアを論じ、フランスを語つては足が大地に踏みこたへて居らぬぢやないか。白人文明に羨望して小型の白人系日本人を作る妄念を排除し、東洋に還り日本人たる意識を明確にするの熱情がなければ、到底日華の親善などは思ひも寄らぬ。自らを知らずして隣人を愛し得ない。私は日華親善は先づ日本人たるの正しき認識にたちかへり、自國を愛すると同様に隣邦支那を愛し、國際正義觀念の確立と、人道的信念による不義不正の斷乎たる排除を忘れてはいけなと思ふ。何故に日本が支那から排斥されて居るか、何故に滿蒙がびつたりと日支相抱く氣分になつて居らぬのか。何故日本は大陸亞細亞に行き詰りを來たして居るか、此原因を探求しなければ日本としては由

々しい難局に遭遇するだらう。これは凡ての日本人が考慮せなければならぬ問題である。突發的に支那に起る問題もとり圓滿に徹底的に解決せねばならぬが、過去二千年更に久遠に培ふ可き日支の文明的交渉とは別問題、人類福祉増進の道に兩國青年が相交る事に變りのあらう筈がない。友情には國境なく學術には民族のけじめはないぢやないか。

亞細亞は何時になつたら人道上の美酒を平等に飲めやうか、そしてまばゆい東亞の光りによつて冷たく厚い氷の下にとざされて居る多數亞細亞人の呻吟の聲を如何にして自由の恵みとして解決する事が出来ようか。日華兩民族の和平と共昌こそ人類の極樂土を先づ東洋の一角から現出せしむる所以なのである。我等が膝を交へて東洋を語る所以また茲にあるのだ。

留日中華學生は如何に日本の山水と社會を見るか

年々歳々春來り秋去つて支那留學生の日本に學ぶ者常に三千名に達し、清朝末期から今日迄の全體日本留學出身者は、その數十數萬と稱せられ、しかも悉く黎明支那新舊各方面の樞要なる機務に參與せざるはなく、日支の文明的交渉は、學術と友情に國境なしとの意味に於て、益々濃厚になりつつある事は、獨り東洋平和の爲めに祝福す可きのみならず、人類の理想に向つて隣邦と共に、其文化的

使命を達成す可き過渡的階段として喜悅に耐へざる所である。我國の内地には今約二萬五千人の外國人が居るが、其中の約七割は支那人であり、臺灣及朝鮮に於ける外國人の九割は又支那人である。都合現在全日本には十萬人からの支那人が居る。内地には三千人の支那留學生と共に來往繁きこれ等の隣邦人士が如何に日本を見て行くであらうか。其等の人々が日本の善惡長短共に充分に理解し、公平に判斷し、赤裸々に其眼に映じたものが幾分でもあり得るならば誠に嬉しいのであるが、大多數の支那學生はよく日本社會の特質と真相を掴み得ずして歸國する事を甚だ残念に思ふと共に、同様の意味から日本の支那通や大多數の支那旅行經驗者達が、租界や居留地の支那、外國化したるモダン支那と又一定のグループのお座なりの談話を拜聴し來りて、直ちに輕卒なる支那論が斷定されるために、常に兩國の間に誤解の上塗りをなしつつある事をも亦悲しむのである。歐米人の日本見學が「お菊さん」や「きもの」許りではないが、ガイシャガールとヨシワラのみ造詣が深く、頗る單純な頭で無遠慮に日本印象記を發表する事には、我等は少なからざる不満と侮辱を感じるものであつて、少くとも日支兩國人は相互に此點については充分に考慮し度いと考へるのである。

「日人到中國漫遊皆只中國民性之表面而未入其內部實際中國人之眞性質與日本人遊記中所說相反對甚多因此此故兩國時有誤解」とは申すが、支那人の日本觀もこれと五十歩百歩、いや實の所五十歩五十

5
3

歩である。低級俗悪なる神田、早稲田、三田、本郷邊のカフェー文化と陋巷下宿屋の無智にして不人情なる待遇のみが日本の全部ではない。支那社會の暗黒凄慘なる半面のみを罵つて、四千年前に世界に誇る可き優秀なる文化を有したりし中夏支那をも見ねばならぬと謂ふのだ。日本には又日本民族のみが誇りとする其文明と國民道德即ち日本及日本人研究の基礎概念を、適當の方法と便宜によりて學業の餘暇充分に研鑽する事こそ支那留學生が日本留學生生活を最も楽しく興味多く且つ意義あらしむる所以ではあるまいかと思ふ。常に我等は一切の政治外交問題の利害關係を超越して、學友の一人として諸君と相語り、相談じ「我門應當努力於人類最高理念的實現」を期し、「願日支有志聯合起來共維持亞東和平」の券圍氣を望むのである。「互愛互助」は兩國青年が相交る心であり、「世界大同」を「正大光明」に進展せしむ可き楔ではないか。

春雨に彩りて

山河青黛にして秀麗清勝は日本の山水であり、山連亘八百里豪放にして雄大なるは支那大陸の景色であらう。春雨煙る東海道車窓から望む異國情調又床しい何物かがあつたらう。留學生豊かな詩囊を示して曰く、

○啓行一絶

朝來小雨復絲々。 檢點行囊怕已遲。
心急只嫌身乏翅。 欣然仍得一車馳。

○車中口占

雨灑征塵三月好。 風吹旅客一心清。
眼前生意春無限。 喜得山陰道上行。

○車中所見

春來陽氣旺。 滿地菜花黃。
惟見勞農苦。 頓教異客傷。
辛勤無暇憩。 寒暑憶親嘗。
收穫田中穀。 可憐自啜糠。

京都の風情は東京でビルヂングと安つほい文化住宅に中毒した者に見せてやり度い落著きがあり、從容迫らざるゆとりと雅致に富んで居る、あの清妙を極めた京人形のあどけなきこよなき様を口々に賞めつつ田樂を味ひ乍ら清水寺に詣でては、

5
3

「日本人はよく名所古跡を大切にすることから感心です」と謂ふ。
 幾多優秀にして善美を盡したる文物が、數次の兵燹や掠奪や行政の不良なる結果、春風秋雨幾百星霜荒廢せしもの甚だ多いのは、いつも支那青年の残念がる點である。私は南北支那を通じて一番支那特有の風致を發揮して居るのは南方の杭州、蘇州等より北京の景色を愛する。一體に北支那の景色は荒削りだ。遠くからの眺めはよいが、近寄ると頽廢もして居るし、周圍や大自然を背景にする對照が出来なくなるから日本人には非常につまらないのだ。支那の景色は古文や詩書でもひもどき乍ら遠く離れて望む可きものであると云ふのが私の前提。

茫茫古鞬鞞。

千里一鞭輕。

欲問興亡迹。

邊域滿月清。

あの澄み切つた大陸の空は青磁色で一沫の雲片もない宇宙の底まで透き通るような快晴で、そして北京は森の都だから大きな楊柳と槐樹が多い。宮殿や樓閣が浮城の如く燦然たるその黄金色の蔭が陽光に輝いて居る。北京内城の城壁が四丈の高さ六丈の幅をもつて長蛇の如く灰色に眠り更に外城の南面を抱き駱駝數十頭の隙商が遠く蒙古路から都さしてくる。羊群を二三百頭づつ追つてくる牧童、

その姿をも抱いて居る古城、或は遙かの連山から又遠くの谿谷に没し、山頂をかすめて延長實に二千數百キロメートルの大城壁、しかもこれが二千三百年から千五百年前の築造、城壁の火烽臺にたつて胡服馬上の猛者を偲びつつ萬里の長城に中秋の月光を浴びる心地、敢て北のみとは申さぬ。あの南京下關の江邊に佇んで、朝霞に煙る對岸の浦口が、丁度蜃氣樓のように三千里の揚子江に浮いて居る有様、大空をひたすは、水か、雲か、長江は其流域に二億の大衆を養ひつつ、古き文明をはらみつつ洋々として注ぐ、音もなく、そして靜かに流れ流れて止むことなき大自然である。この大陸に育まれて来た遠來の支那學生は今何を考へ乍ら日本の春雨を偲んで居るのか。今しとすと降りしきる雨中を京娘がかさす蛇の目傘に柳の糸が戯むれる様を彼等はみつめて居る。

『先生日本の氣分もいいですねい。』『先生ッ失はれたる私の國のものが日本に来て始めて發見したのが澤山ありますよ。』『いやお國の大陸情調を私は思ひ出してるのですよ。ワハ……ア』

○雨中遊清水寺

懸崖結壁勢凌空。

萬綠屏遮細雨蒙。

福地惟容福者住。

此懷疑似有仙翁。

○客邸感懷

5
3

莫道當年杜牧之。 人生潦倒說傷時。
花殘月缺眼前恨。 衣敝囊空客裡悲。

○京都故宮

蒼松一碧映長空。

古物巍然氣象隆。

擬似祖邦明故闕。

猶留當日帝王風。

なだらかな曲線を畫く京の山々。眞白い一條の加茂の清流、路傍の一石一木、悉く日本歴史に床しい記念物の總合の洛陽、清楚なる二條離宮を眺めては、思は悠々たる長江の畔、南京朝陽門内の明の故宮を聯想して涙ぐむのであらう。今南京の紫金山には中山陵が明の孝陵と相並んで碧瑠璃色に輝く偉大なる殿堂が聳えて居る。明の太祖朱元璋が異民族である元を亡ぼした孝陵の隣りに、同じく漢民族出身の孫文が、さびれた孝陵を尻眼にかけて、壯重極まる數里に及ぶ中山道路、山の中腹高く大理石に圍まれた王者にまさる陵墓、終生詰襟服で質素の老書生式であつた孫文は今地下で何を感じて居るのであらうか。孫文は支那のレーニンと誰かが謂ふ。

支那學生はどうも日本人の皇室に關する尊敬の念はどうしても不明らしい。一君萬民上御一人を中心とする先祖以來の大家族たる日本國家の根本的特質——その内容である日本人精神の本質を探つて

みようと云ふ研究心が少ない。

支那は所謂禪讓放伐で有徳の君子を天の代理人として民選するので、天子は絶對權をもたなかつた。天の代理人たる者不徳なれば、易姓革命は合法的なりとて腕力あるものがこれに交代して來た。帝力我に於て何かあらん。出でては耕し入つては食ふ天下我れ我れを生かすのみ」と、そして今は共和政體であるから猶更わかりにくいのだらう。日本人が「君奸臣を用ひて我に聞かず我は君が御手討に死して尙地下に七生報國を期せん」は感激に終始せる武士道の魂であつた。我祖先我等が遠き昔の生みの本原として祖先を崇拜し、一切を皇室に歸一隨順するの心即ち皇室は國民の祖宗として我等の宗家として尊敬し國民は悉く皇室より分派せる家族の一員としての觀念が常に五千年の日本歴史を貫徹して將來に及ぶ傳統である。しかも歴代の天皇は國民を我が赤子として限りなき仁慈の大御心を以て育み給ふのである。外人が日本國家及社會組織或は日本のあらゆる特質研究の第一歩は、日本國民道徳の眞緒的原動力を究明する所なくば、爾後の一切の日本の文化も制度も皆目わかり兼ねるであらう。

「四方の海皆はらからと思ふ世に、など波風の立ち騒ぐらん」とは四海同胞の大御心であらせられ「罪あらば我をとがめよ、あまつ神

5
3

民は我身の生みし子なれば
とは皇室の國民に對する父子の情愛と拜察す可く國民が忠君愛國の眞心は次の歌詞である。

「海ゆかば水く屍 山ゆかば草むす屍
大君の邊にこそ死なめ、のどには死なじ」

南海の風情

○參觀京都絲織廠

愁來無計可療貧。不厭穿梭感苦辛。
如此世情堪一嘆。織網那是著網人。

雨散晴日霽。車行似水流。
倚窓觀不厭。低頭忽沈憂。
身世悲萍梗。天涯誰歎儔。
人悉趨繁華。而我獨間遊。

曾て滿洲大連から日本女學生の一團が母國見學に來た時、下關上陸の第一印象は、道路の汚い事

遙瞻白雲處。激戰正未休。
可憐熱血兒。屍骨成山丘。
恨彼奸與究。甘爲正義讐。
殃民而害國。冥頑笨如牛。
徒以反赤計。脫口不知羞。
卽知爲虎悵。其罪萬古留。
望中松與柏。勁立古岸頭。
非若桃與柳。善媚不禁秋。
世態猶多變。賢者來易求。
不幸生此時。於我手何尤。
低頭堅氣節。莫與宵小謀。
立志何妨大。安問酬不酬。
矯首塵寰外。風來突颯々。

5
3

と日本人の人力車夫の居る事に驚きましたと私に告げた事があつた。東三省出身の一留學生人力車上の感に曰く、

身坐黄包车。

口中談人道。

雖然是權宜。

爭耐心不好。

成程滿洲の日本人は一人も車夫をやらぬ。種々の原因で治安の維持が最もよい滿洲は、まさに東洋の極樂土だ。そして今支那本部の植民地となつて昨年度は百萬人からの新移住者があつた。それだけ一入労働供給力が多い。そして賃銀も安いし強健であり且つ生活費も頗る簡單、極めて少額で済むのだ。天下無敵の無数の自由労働群、これを相手に日本人が労働では到底競争の出来ぬは勿論だ。又或る廣東から来た一留學生が「日本は狭いと聞いては居たが、下關から東京迄町續きぢやないか」と。確かに御説の通り島國は大入滿員であつて、生産資源と領域の上に於ては、アメリカ、イギリス、ロシア、支那等は非常なるブルジョアジーではないか。私共は人口食糧問題に喘ぎ乍ら短氣で愚直過ぎる國民ですよと笑つた事もあつた。奈良の大佛は威名四海に普して木造建築物では世界の珍寶とされる法隆寺よりも大佛様の方が支那學生には人氣がある。

奈良大佛久馳名。

數丈金身巨室盈。

多少焚香求拜客。

可能萬事託神明。

笑然鄉愚太倒願。

那知禍福在心田。

果真拜佛能如願。

我亦買香不惜錢。

嘆來到處有人妖。

巫習風糜醜能饒。

黃領黃巾黃鼠似。

無分男女鬧囂々。

偶像依隨年復年。

清閑生計却安然。

無邊佛法果何用。

只爲淫僧而斂錢。

けれども神社佛閣につきものの袖すがりの行列には大分閉口したらしく、〇〇講中の善男善女が愚夫愚婦のように大舉して參詣する様を異様に感じたそうだ。支那の寺廟が「有求必應」と限つた譯でもあるまいが、孔孟の道は封建思想として破棄されようとして居るのは日本と同様、五福太來の現實主義たる道教が、支那の田舎に最も盛んであるが「福利到來長壽子孫繁榮、安樂、發財」これだけの利き目があれば娘々廟以上。併し乍ら日本佛教も既成宗教の形骸を大伽藍に秘めて死兒を抱くに等しい傳統の情勢に辛うじて餘命をつなぐに等しいものでもあらうに……。

5
3

日本神道など民衆生活に適合し難い高踏主義浮世離れをして居る。けれども今印度に佛教なく支那に孔孟も老莊もない時、獨り日本のみか猶世界の佛教國であり、所謂孔子の理想とする有道の國家として實現しつつあることに驚異を感じねばならぬ。國民生活の上に儒教が實現されつつあるのは支那よりも日本であると云ふことに、文明の抱擁力が、生命があることに着眼せなければなるまい。

○奈良觀鹿

此刻遊奈良。

首見多麋鹿。

群臥芳草地。

畢竟爲誰逐。

今更乍ら我等は、京都奈良の都市計畫をみて往昔如何に支那の文化が日本に輸入され、そして我等の祖先がそれによつて啓發されたかを見る。過去に於て支那は誠に日本の友邦として、又先賢として日本にもたらしたる影響は甚だ多いので感謝す可き恩人である。それと共に我日本が支那及朝鮮を経由して吸収したる文明は、日本民族の精神に相應しく同化されこれを我等のものとするためには、日本固有の創造的氣分の中に注ぎ込んで、其長所をとらへる事に腐心した。和魂漢才も和魂洋才も又これの意味からであつた。そして外來の文化が侵入してくると、其處に思想的の鬭争が必然的に起つたけれども、最後には何時の間にか日本精神に據つて改造されたる日本文化となつて變形を生じて來た。

佛教の傳來したる時をみても、又遣唐使、遣隋使等の日本留學生が支那に學びたる時も、支那の古き諸制度を採用したる時も、日本の本質を失ひ度くないと云ふ觀念が、それに伴ふて批判的に淳化されて居つた。山崎闇齋が孔孟の道は孔孟の軍日本を侵せば、吾孔孟を軾する事が即ち孔孟の眞の道なりと叫んだ。徳川時代朱子學が、林大學頭等の官僚によつて萬能を來さんとする時、翕然として本居加茂等の國學者が出現した。維新の大業も尊王攘夷が導火線となつて、武家政治に反對し、世界の大勢を察知して歐米の文明を吸収するにつとめた。けれども日本人が、唯國際生活の生存のためには、自らのもつ美はしい傳統と習慣を捨てて、歐米の物質文化を鵜呑みにせねばならぬ程悲壯な決心が當時切迫して居つたのである。

白人世界の強迫が日本の開國交易を促進せしめたものの、誠に累卵の危急に瀕して居つたので、如何に志士が白刃の間を潛つて國事に奔走し、名利を求めず犠牲的に死を選んだかに想到し度い。支那學生諸君は明治維新前後から憲法發布條約改正迄の日本文明史と政治史はぜひ研究の必要があらうと思ふ。よく支那人は中華と謂ふ。中華文明の士と誇るけれども、靜に考ふれば必ずしも中華の點許りではないことは餘りにも明白だ。幾多改善されねばならぬ點が多いので、自惚れは禁物である。口舌の美よりも内容の充實が賢明だ。我日本の如きも遍狹なる國粹主義者、哀れむ可き左翼小兒病者、共

5
3

に支那の政匪、學匪、共匪と同様で、天に唾する輩ぢや。又東洋人の負け惜しみと申すか、西洋の物質文化に對抗して、東洋にのみ精神文化ありと叫ぶけれども、物質文化を生む蔭には偉大なる精神文化の力が存在して居ることに留意し度いと思ふ。現代の國際生活の上には、頗る畑違ひの感ある東洋文化、これを如何にして渾然融和して亞細亞民族のために、又新らしき人類永遠の平和を生む美はしき精神文明を肇造する事こそ日支青年の使途ではあるまいか。

私は今過去に於て日本文化の恩人であり、現在又唇齒輔車の間柄である隣邦から、常に多數の留學生を迎へて居る事は、何だか日本人としては長年の借金を返却して居るような心地がする。男女の支那留學生諸君も貸した金をとるつもりで、大威張りで氣樂にゆつくりと日本に暮らして貰ひ度いと思ふのは、敢て私許りの希望ではない。友あり遠方より來る又樂しからずやで「丈夫會應有知己」で心と心の交りにある。日華兩國青年學徒の琴線の純情相觸れ會ふ所、其處に妙なる友情の曲は奏でられ、近き將來に於て中日親善の語の不必要なる時代が招來され、しかも頽廢し混濁した物質文明社會の上に、東洋の道義的靈光が人類永遠の平和として輝き且つ蘇生するであらうことを私は祈り度い。

煙の都に佇む

○大阪 市

黒煙繚繞氣陰森。

巨厦重々總萬金。

欲問島邦經濟處。

原來此處是中心。

○參觀大阪毎日新聞社

大毎新聞早有名。

風行一紙冠東瀛。

機聲軋々人如織。

蟹字和文兩並營。

○車行墜道口占

峰巒斯續幾索回。

人在車中如走雷、

休怕橫嚴當道立。

行將塞處作山開。

大阪は日本の對支貿易の本場經濟都市である。大阪製品は粗製濫造と江蘇省出身の學生が云ふたが私も昨年上海土産としてレットルだけ支那商品、實は大阪製のいかかはしい土産を買はされてきた。商業道德の點に於ては、支那は全く敬服す可き團體の力や總商會、同業又は同郷等の結束によつて其信用を固く維持して決して失墜する事はない。總商會の如きは、社會的にも經濟上にも誠に貧弱で存在價値の少ない日本の商工會議所など足もとにも及べない。それは多年支那が政治的生活に於

5
3

て政府に依據する事が出来たので、各人が自衛的に團結した一つのあらはれであらうけれども、信用取引第一主義の點は、日本に多い不徳貿易商人と比べて誠に推賞し見上げた者と稱することに吝かならざるものである。

或る女子の留學生が「日本は法治國の悲哀があります」と謂ふたことがあつたが、これは一つの面白い見方であると思ふ。惟ふに過去何千年の間、大多數の支那民衆は、古來自力本願の生存を餘儀なくせねばならなかつた。法の力と謂ふものは、自己生存を反つて阻害する事が多かつた。自己の力によりて、大自然の迫害と戦ひ、腐敗したる貴族と官僚と政匪、又は讀書子の干渉を如何にして避く可きかが一つの努力であつた。それに反して日本は一から十までお役所の力に頼らなければ生きてゆけぬ。それだけ中央政府又は統治機關、行政官吏に信頼し得たのであつた。けれども今日、日本在留の支那學生が止むを得ぬ事以外は自國の公使や領事に頼ることもなく、自分の事は自分で處理する習慣を過分にもつて居る。支那では場所によつては裁判などに訴へても、金力、權力、情實によつて敗訴のみならず無實の重罪を反對に着た事すらあつた司法制度に頼らぬと同様の意味ではあるまい。いやそれは訓練され洗練されたる民族だからである。在外の日本居留民達が、如何に支那が常に物情騷然として行政上の不安があるとは申せ、領事館や在外官吏の衣の袖にばかりすがりついて居る。

日本人はたしかに支那人から見れば窮窟過ぎる人種だと合點するのだらう。滿洲の邦人などまるで箱庭育ちだからなあ。其點支那の人は偉いもんだ。

我等は支那人の法に對する一つの思想は、法の力は絶對自己生存の害をせぬか否かにきまるので、即ち國家の保護に馴れ過ぎて、國家なくしては一日も生きてゆけぬ者と、支那のように超然として、自分の責任は凡て自分にある——そして最後に没法子だとくる者とは、國際的經濟生活を營む上にはいづれが是か非か幸福の結果を生むかわかり兼ねる。しかし漢民族の偉大なる發展力の根本が奈邊に存するかについては種々論議はあらんも、日本人として學ぶ可く感銘す可き點が多いのである。特に現代日本人は、アメリカ式の輕佻なる浮萍の如き文化生活に憧れて、どうしたならば日本人らしくなく、紅毛人らしく見えるだらうかと腐心する者が非常にふえて來た。思想的に歐米の奴隸生活に甘じて可なりと謂ふ男や女が多くなつてきた。新支那にも過分にこの醜き流れがあるぢやないか。

○神戸華人街

匆匆走入華人街。

氣象陟移心意佳。

怎禁依々難遽舍。

無端惹動故鄉懷。

日本料理に馴れて居る中華學生も、お鮎しだけは中々食へないと見える。中華も支那も同じ事、日

5
3

本人は中華と呼ばず支那と謂ふがこれも長年の習慣で中華の新人が怒る程のことでもないのだ。二千年も前から交友關係の國だらう。殊に支那の呼稱は縦に永く考へ易いので、又一般日本人も中華ではわからぬ、親しみにくいので支那、支那で通してしまふ。私も支那を連發するがこのわけからだよワハハア……。淡泊な吸物と見て美しい眺めよい和食よりも、世界一の支那料理が内容も風味も一番口にあうとは最もの話だ。私が二度目に露西亞に行つた時、三ヶ月ぶりてハルビンに戻り味噌汁をたて續けに五杯飲んだが、嗜好は變らない。本當に日本食が懐かしかつた。だつて日本料理は眺めるものでせう。西洋料理は食べるものでせう。支那料理は眺めてそして食べるものですよ。支那料理は廉價にして豊富、しかも美味とは王さんや張さんのお國自慢の學説ではなく、私は無條件に賛意を表したと云ふ理由だ。

○神戸舟發

舍却火車又上船。 千波萬浪水連天。
望中渺々無他物。 惟有濤聲撼客眠。

温泉にひたる

○舟中所見

孤島翻々傍船飛。 春來不覺力輕微。
天涯爲室海爲寓。 惟問疲時何處歸。
○舟中偶感 五々三々笑語同。
男歡女樂一舟中。 孤懷獨對夕陽紅。
誰是他邦漂泊者。

○途中偶感

水陸頻征正弗休。 同學相伴竟忘愁。
風前花似飄零客。 雨後山如出浴牛。
情趣多來感亦甚。 春光老去恨難留。
雄心常比宗元幹。 荏苒年華未盡酬。

別府は日光や箱根と共に日本觀光中最も印象深い所だと謂ふ。土地に好感をもつのは敢て景色のみではなく、旅館の氣分が大分手傳つて居るらしい。併し金銭的には随分功利主義の者もあるが、ずい日本人よりはよからうと申す者だ。日本人は露骨なる金銭上の事を會話するのは下卑たようにも

5
3

考へて居る。しかし支那人は無遠慮な時には日本人からみれば、相手の人格でも傷つけるように感ずる事でも平気で友人の代表が會計した勘定書を、帳場へ又再調にでかける者もあると云ふ氣持は、全體の人ではないが、日本人なら喧嘩になる所を双方とも普通らしかつたのは不思議であらう。

○下寓別府○○旅舍自嘲

別府有名一旅寓。東西風格滋情趣。
逃亡人士今何在。笑我此來也小住。

○遊別府地獄自題紀念品

踏平蒼海逞豪遊。異池風光一眼收。
不意今朝入地獄。此身可却萬重愁。

○別府砂浴

別府有名屬濱濱。殊情異趣總奇珍。
白煙噴起成濃霧。黃土控來埋活人。
長涉他邦非避世。乍臨此處可忘秦。
韶華易去如流水。那得偷閑葬我泉。

○擬贈枝光化學工業公司

漫遊瀛島上。此刻到枝光。
極感友情厚。永留口齒芳。

○參觀八幡製鐵所

難開別府到枝光。特下車觀一鐵場。
煙突如林雲漫々。機聲聒耳氣洋々。
萬工操作休閑少。百輛奔馳運載忙。
惟見爐中紅烈々。應從來處細推詳。

何故に日本が經濟資源の貧弱なるに不拘、かくの如く産業が旺盛なりやと反問するのであつた。そして今日、日本が西歐の物質文化を巧妙に吸收したるために、世界の強國になつたのではありませんかと聞く。全く日本の陸軍、海軍などは徹底的に列強の新式兵法から、訓練、服装、兵器の萬端に致るまでこれを輸入した。そして日本の精神によつてこれを研究し、これを適當に取捨して世界の最も優秀なる軍隊の素質を醸成したので、其昔陸軍などは最もモダンボーイの尖端をきつた新人揃ひ舶來萬能であつた。しかしよく西歐文物をも消化し得る力をもつと云ふことを示して呉れたのである。現

代支那は、農業經濟から商工業經濟に轉換せんとしつつある時、企業技術と國內資本の缺乏を何れから求めようかと議論が沸騰した。どうしても先決問題は内争の中止から政治の中心を確立し、教育を普及しなければ、民國の蒼生を如何せんと悲憤するのである。要は人物の問題、支那も日本も偉人が出で、志士が蹶起しなければ駄目だと云ふ結論に到着したのであつた。

○博 多 驛

地老翻新點綴奢。 滿街密佈彩燈華。
倦遊客子思歸舍。 獨自狂夫不憶家。

人生は意氣に感ず功名誰か復た論ぜん、と黃酒の乾盃はなさずとも、熱血溢るる隣邦の學徒は卓をたたき、齒を食ひしばつて激越我に迫るもの如く膝を交へて亞東の理想を、共に談ずれば一學生美聲を以て吟じ出した。

雲想衣裳花想容。 春風拂檻露奧濃。
苦非群玉山頭現。 會向瑤臺月下逢。

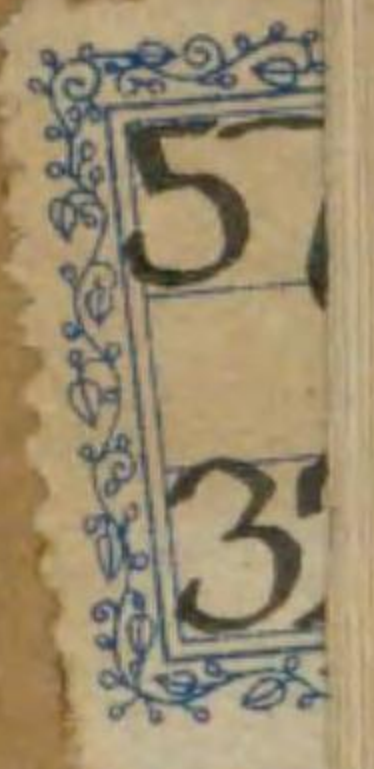
人生に理想なければ死屍に等しく、青年に熱血なければ青年の資格なしと語る所、笑ふ所日支人の區別はない。理想すら夢すらも書き得ざる人間はいとも哀れなりと衆議一決。

○夜 望 下 關

輕車越過萬重山。 灯火煌々望下關。
心繫當年失敗恥。 一舟渡到水兔灣。

婦人觀と政治について

美人觀は何處も變りがないと見える、中華青年は等しく日本婦人は家庭向で質素服従の美德があるから重寶だと云ふ。支那の家庭は複雑であるから常に一家熱闘と云ふ譯で、權謀術數と喧嘩の絶え間がない。これは支那社會組織の傳統である大家族家長中心主義の結果であつた抱合的家庭組織の招いた弊害である。田舎の豪家など殊に甚しい。又男女平權とて家庭に於ては社會階級にもよるが、主人主政よりも女子の支配力と云ふか、女子尊重と申すか、確に日本婦人よりは鼻息が暴く又大切がられる。其處で更に婦人の貞操尊重觀念に及んだが、日本の婦人が全般的にみて低からうと云ふ事であつた。併し近頃の支那婦人も上海や天津など飛切りのモガのはしりと、知識階級特に男女共學の支那學校では自由戀愛も流行し、それは恰も長い穴居のような舊慣から急激に女性解放運動とまで漕ぎつけたので、纏足から放足に移つたように手際よくゆかなかつた。大分手違ひも生じたらしい。



日本の或る少女歌劇をみた留學生の感に曰く、

燦爛輝毫遮半霄。 張紅結綠綉情調。
此間誰是搖錢樹。 彼美人兮舞柳腰。
穀擊肩摩聲得々。 時妝巧扮鬧囂々。
看來眞個昇平象。 一刻遨遊百慮消。

支那の女は入浴にも素足を包むと云ふ程、足が大切、纏足の陋習は都會の新人は學ばないが、日本婦人が全く遠慮なく素足を露出すると驚いて居る。湯上りの銀杏返しに白い脛を風になぶらせて駒下駄をひつかけける圖などは、支那青年大分恐縮し乍ら珍らしい。

女子留學生が日本に來て最初に困るのは、生活環境の激變と食物の不馴れだと云ふが、婦人の日常生活上其他身の廻りにについても、日本婦人と全く異なる習慣と事情があるから氣の毒だ。けれども支那婦人は日本娘のように物事におどおどしない。事に處して落著きがある。日本婦人など單身外遊や留學してこの支那婦人だけの度胸と判斷力があるだらうか社會的に馴れて居らぬので甚だ疑問だ。自己批判の能力は日本娘より深くて強い。だから平凡なありふれた眞違ひはめつたに起さない。訓練の賜だ。日本に來る女子留學生中には夫婦者が甚だ多い。夫婦共稼ぎでなくつて共學びだ。これ

も國情の相異の一つ。中華の女學生は大膽で率直だ。日本娘のはにかみは少ない。

○車中望桃花有感

十日豪遊此日歸。 桃花夾路覺春肥。
花開花落年年有。 人去人來事々非。
夢裡生涯時不住。 客中零落淚偷揮。
浮雲流水眼前過。 惆悵無言盼夕暉。

○歸途即事

小別日都路幾千。 今朝轆々已言旋。
滿郊春色春猶早。 好夢醒時醒又眠。
芳樹無人花目笑。 青山到處鳥空宣。
煙迷僻徑蜂迷路。 檢點詩材八俚編。

○至日本貴衆兩院傍聽偶感

高談闊論總風生。 擬互屋飛閣座驚。
帝室棟梁倚老火。 朋黨界限劃分明。

5
3

休言政見難容合。

只爲私權不惜爭。

貴衆無非一丘貉。

全馮三寸嗜輸贏。

日本の政黨政治又支那人の謂ふ法治國民の悲哀かも知れない。公明なる政治、正しき國民生活の基礎としての立憲政治の本質に照らして耻しい思ひをして居るのは、政客、政商ではなくて日本の國民である。支那は今形式はともあれ完全なる事實上の中央統治機關があるのか、どうか、各地方の行政は我等も幾度か自ら其圈内に往來したので充分に知悉し得る。かの正規軍も土匪も馬賊も所によつては一丘の貉、支那の政治は一般民衆と没交渉、敬遠してかかり相ひにならねばよい位が關の山である田舎が多い。殊に治安維持が全く零。私が護照や地方軍憲の證明書、紹介状を五六枚もち乍ら、往復共に馬賊に見舞はれて丸裸にされたは兩三年前のこと。北京界限でも内蒙古でも白晝の出來事であつた。幸に私は人質になる程の値打のない男だから、そして護衛兵も逸早く我先にと逃げたので生命は助かつたが……。日本内地は、支那學生が一人で田舎を旅行しても決して生命に別條はない。田舎程親切で危険はない。官憲には信頼が出来る。この點は支那人がいつも謂ふ所だ。水滸傳等の今日ももてはやされるのは、横暴ばかり働いて居つた官僚に對する支那民衆心理の共鳴する所をうまくとらへた譯である。日本社會も最近綱紀頹廢し道德的人格生活をけがす者が續出した。又高等遊民の群が

口舌のみを以て支那の讀書子のように國家の寄生虫が年々殖えてくる。浮華輕佻、淫風滔々又矯激の思想が瀰漫してきた。支那も如何に「地大物博」と誇つても其人心を改革するの策に出でなければ、百年河清をまつに等しいかも知れない。我等は「與其濁富寧此清貧」で俯仰天地に愧ぢざる大丈夫の志す道に進まねばならぬ。

支那人は、支那人の心で日本人をみず、日本人の心地を以て日本の奥底まで眼光が透徹せねばならぬ。日本人も日本人としての觀念を以て道德並に政治を支那に向つて批判する所に誤りが生ずる。相互主客を願倒して深慮する雅量が肝要だ。

真心の友情に變りなし

「情同管鮑義若廉蘭」と謂ふが世情は變つて來た。しかし惻隱之交心人皆有之だ。日支人相互は善隣の誼にあるのだ。

自來同種復同文。
立雪程門已數載。

一水中分一棄通。
而今惟恨別匆匆。

夾路櫻花燦若霞。相邀相看到師家。
如斯權會幾回得。偏日離筵轉復嗟。

有志和平重睦隣。者番親去見情眞。

翻賓爲主無他贈。惟願高懷自此伸。

長い日本留學生活中に於て、一番樂しかつたのは皆様とピクニックをした時ですとは、先日、在遼寧の王さんからの便りであつた。

山西の趙さんからも又なつかしい便りがあつた。日本の生活を思ひますと、「滿堂琳瑯」の論文を送つてくれたが「不勝羨慕」、王さん趙さんが「在京時多時關顧」よりも私自身は却つて涙ぐむのである。

昭和五年の初夏であつた。郊外散歩の時即吟して曰く「先生ッ私の所懐です。」と。

○洗足池放掉

初夏池塘異樣裝。淡梳濃沫勝尋常。
渾然妙景懷吳越。大好時光憶滄浪。

梅雨欲留歸客晚。薰風暖送玉人香。
此日同舟應記憶。將來重會太平洋。

異地風光異眼收。嫩晴天色更清優。
山高水濶渾宇宙。菜黃麥綠滿田疇。

笑我今作客中客。忘却身如海上鷗。
惟念師情擬古道。行將判袂又偕遊。

他邦異俗詳指教。各區勝境共深求。
昌言中日親善者。似此方不愧口頭。

嗟乎彩雲難常聚。白衣蒼狗總添愁。
悠悠離懷何處托。爲捧俚歌紀念留。

春武藏野郊外三樂園に遊んだことがあつた。箱根に、日光に、そして又下宿の二階に。
秋多摩河原に憩ふたこともあつた。百の親善の講話よりも一回のピクニックに心の融合は深められ
る。形式に馳せ自己宣傳と職業的意識から出發する親善業者は日本の上下階級を通じて甚だ多い。又

57
31

何等か爲にせんと豫期したる卑窟なる交際、淺間しい他人排擠の學者やブローカー的教職員や誰やらの代辯者なども日本の學校や學生に數多い。

恥づ可く又悲しむ可き事柄だ。犠牲的の心根が最初にして最後だ。又何かと云へばすぐに疑念のみさしはさみ、好意を曲解してみたり、一切無報酬的に友情を以て多大の勞力と時間を費して盡せば、つけあがつて支那人は日本では歡待される權利でもあるかのように威張り散らし圖々しくも過大の要求すら強調する世間知らずの無智な支那學生もあるそつだ。今少しお互ひが心からうちとけて日本留學の生活を懐しい思ひ出となし、且つ安心して氣輕にしかも眞面目なる學徒としての目的を達成して歸國するよう一層の便宜もはかり指導機關の運用も期せねばなるまい。又留學生自らは相當努力と緊張味が必要ではあると考へてみた。

過日遠來の學徒を送るの催しがあつた時、

勵節當師萬竿竹。

清心須肖一池水。

聖賢助業尋常事。

桓問功夫到來會。

私は悲しかつた。中華學生が山河海波を隔てて幾千里東海日本に遊學する其事既に心淋しい何物か

が滯いて居つた事であらう。三年、五年と相交つた李さん、王さん、靳さん、劉さん、などと別れるのは悲しい限りである。もう再會の機は容易にあり得ない。あの廣い支那に歸つてしまふんだもの。私は弟や妹を遠い極地に送るような寂寞を感じるのは、毎年三月から四月の頃である。幸あれかしと祈り乍らも今年も又弟妹と袂をわかつ時が迫つて來たのだ。

春光早已滿乾坤。

萬里晴江帶暖奔。

三十六鱗々漸長。

掀翻波浪上龍門。

相繼いで

春風和靄滿乾坤。

桃李爭開似雪奔。

濟々一堂惟惜別。

從前猶復戀師門。

小陽春色敷大坤。

明治新潮萬馬奔。

壯士東來多似鯽。

堪嘉桃李在公門。

別れに臨んでしたためられたる彼の一句は、

負笈離郷汗漫遊。 東瀛漂泊日悠々。
陽關到處總無色。 一曲離歌一片愁。

併し支那人は忘恩だと日本人の先輩からよく聞かされるが、これも義理人情は日本人の考へ方とは違ふからだ。世話をしたら手紙でも國から寄こすと思つたら當がはづれる。それは誠に少ない。それで情がないかと申せばそうでもない。それにつけても私は、あの頃の留學生は歸國してどうしたかと時々思ひ出しては涙ぐむのである。

我等は東洋を呼ぶ!!

何! 支那が世界に誇るものは皆昔のものばかりだつて。それも日に年にすたれてゆくのか。支那文明の推移が又往年の唐時代の如き燦然たる文化を生み出す力があるのだろうか。この感想は直接支那現存の文物を如實にみるものの、等しく煩悶する點である。
國民革命の過程に於て、小兒病的の飛沫が、各地方の孔子廟を破壊したり、且つは帝陵を發掘し寶物を叩き賣り甚しきは舊文明の一切を捨てて以て、封建時代の遺物を除去せざれば革命ならずとして得々たる輩の今に甚だ多きは即ち支那民族のみがもつ世界に誇る珠玉をも、地に棄つるに等しいの

である。私はそれを我事のように口惜しくも齒がゆく感じ乍ら、古い支那學の文献の一切迄も拒否又は敬遠される輕佻なる世潮をば、新支那のために甚だ悲しんだのであつた。日本も今支那と等しく自らの誇りである日本精神に關する何々を破壊しつつあるのか。そして又果して歐米から學んだ物質文化の若干を除去して、獨創的に何程支那に誇るものがあるのか、地大物博の領域や經濟資源の差異のみではあるまい。學問的にも、藝術的にも、日本の創造文化を自惚れ出来る理であらうか。成程其規模に於て箱庭式であるが日本は山紫水明さ。けれども日本は又確かに過去に於ては輸入したる印度文明、支那文明、西歐文明この三大文明を最短期間に吸収し、消化したよ。併し將來に於て其等を一丸として日本固有の文明を加へて眞に東西文明を調和し、支那と共に新時代の東洋文化を再建する所の力が、果して今の日本民族の血汐の中にあるであらうか。日本は既に民族的老境に入つたのか。これは君等自身の判断に任せる。支那文明も唐の時代が最高調でない。前清の康熙、乾隆時代でもない。これからなんだ。

自由平等と云ふ思想が——、世界の太勢が、遂に國民政府と云ふものをでつち上げてしまつたのさ。比較的國民革命が、順風に帆を孕んだのも、實は主として時代が解決したのさ。私共は、友邦たる支那が、一日も早く内政的に自ら深く省み、革命の過渡時代と云ふ象牙の塔を抜け出して建設的苦惱を

除去し、其偉業を達成する事を希望するのは、日本人として當然の事だ。餘り焦り過ぎて信義を失するが如きは支那のためには絶対に禁物だ。そしてその事は愚劣だ。しかし、もつれあひでね！ 止むを得ぬ内情もあらうさ。

けれども日貨排斥や居留民いぢめは大國民らしくないぜ。何、日本だつて對内外交があるつて……ははあ……今少しお互ひがね、内外の大局を達観し、日支兩國の東洋に於て占むる地位に想到するのだね、何！ 日支兩國の國民相互は曾て不親善の經驗をもたないつて……、お互にこうしてね、友あり遠方より来る又樂しからずやさ。殊に吾人の友情と學術には國境はないよ。おい君！ 戀愛にも國境はないかも知れんぜワハ……。

共存共榮とか、同文同種なんて文句は、親に孝行するのは善いか悪いかを論ずるような、極めて明白な事柄さ。こんな會話が交はされることも屢々である。

私は何時も若き新支那の青年子女諸仁が、今一應の東洋文化に對する深遠なる再吟味を渴望するであつた。それと共に日支兩國の正しき熱情ある抱擁なくんば東洋の平和は永久に求められないと云ふことを知り度いのであつた。實に支那を知らずして支那人なく、東洋を離れて支那はない。それと共に日本を忘れて日本はないのだ。新支那と新日本の青年が相提携せずしては東洋もなく、東洋を忘

れて世界もない事をお互ひが強く認識したいのだ。

諸君は先づ正しき日本人の心を研究し、我等眞實の支那を學び、相互に尊敬し、信頼して兩國の共存共榮が自然に生れ出づる時を祈らう。「天下同仁」の大義も「振新東亞」の理想も人類の平和郷もこの心ありて始めて先づ貴方と私との間に——支那と日本との間に生れるのであらう。

そしてそこに我等の視野は！ 我等の眼光は常に二つの眼界展望を備へて来る。その一つはお互ひが支那人として又は日本人としてのそれであり他の一つは共通した東洋人としてのそれである。しかも我等は先づ東洋を愛する亞細亞人であると共に、廣く人類福祉を増進する國際人であらねばならぬ。其處にお互ひは有道の日華人としての強い誇りと重大なる責任を感じる。將に時代は一九三〇年の尖端だ。朝鮮は實にこの大陸連雲の地帯なることを認識せねばならぬ。朝鮮を理解するには當然支那大の陸を知らねばならぬ。それは大陸に連なる半島だからだ。我等は朝鮮を踏む。そして滿蒙をよぎる。東洋に行く。かくて我等は高らかに……朗らかに東洋の新文明に呼びかけよう。

57
32

57
32

萬里閣書房發行

昭和五年九月十一日印刷
昭和五年九月十五日再版
昭和五年九月二十六日六版

新朝鮮風土記 奧付

定價 二圓五十錢

製復許不



發行所

東京日本橋東京驛東口角
振替東京七七二一〇

萬里閣書房

著者 師尾源藏

發行者 小竹即一

印刷所 共同印刷株式會社

製本所 共同印刷製本部

萬里閣書房發行書目録

後藤朝太郎著	支那行脚記	總布木版七度刷裝 四六判四七〇頁	定價 二・九〇 送料 一・四〇
坂正臣校閱	明治大正勅題歌集	紫羽二重表紙上製 四六判三八三頁	定價 二・三〇 送料 一・二〇
永井柳太郎序	帝國議會雄辯史	香皮クロス上製 四六判六〇六頁	定價 二・八〇 送料 一・四〇
鳥居龍藏著	滿蒙の探查	總布ホブリン裝 四六判五五〇頁	定價 三・五〇 送料 一・四〇
鳥居幸子著	小さき家の装ひ	總布金箔入上製 四六判二七八頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
後藤朝太郎著	阿片室	鳥ノ子木版七度刷裝 四六判五〇〇頁	定價 二・五〇 送料 一・二〇
生方敏郎著	食後談笑	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判六四〇頁	定價 二・九〇 送料 一・四〇
清澤冽著	黒潮に聽く	總クロス金文字入 四六判六〇〇頁	定價 二・八〇 送料 一・二〇
メイ・牛山著	近代美容法	總クロス上製 四六判三三六頁	定價 一・八〇 送料 一・二〇
東京日日編 社會部	戊辰物語	鳥ノ子木版十度刷裝 四六判三六二頁	定價 二・〇〇 送料 一・〇〇

萬里閣書房發行書目録

工學博士 伊東忠太著	木片集	鳥ノ子木版六度刷裝 四六判五八〇頁	定價 三・〇〇 送料 一・四〇
山路愛山著	山路愛山選集 第一卷 現代金權史	香皮クロス金字入 四六判七三六頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
山路愛山著	山路愛山選集 第二卷	香皮クロス金字入 四六判七二六頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
山路愛山著	山路愛山選集 第三卷 孔子論	香皮クロス金字入 四六判七五四頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
法學博士 信夫惇平著	明治秘話 二大外交の真相	總クロス金文字入 四六判五二八頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
柳原白蓮著	筑紫集	鳥ノ子木版廿度刷裝 四六判五四〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
櫻井大路著 高木乘著	人相の秘鍵	總クロス金文字入 四六判四四四頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
子母澤寛著	新選組始末記	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判四三四頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
酒井勝軍著	橄欖山上疑問の錦旗	總クロス金文字入 四六判四四四頁	定價 二・〇〇 送料 一・四〇
理學博士 石川千代松著	人間	總布木版五度刷裝 四六判五三〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇

萬里閣書房發行書目録

宮田孝次郎著	酒井勝軍著	武井武雄著	江原小彌太著	小野賢一郎著	後藤朝太郎著	河原萬吉著	高村光雲著	門脇陽一郎著	米澤順子著
珍味 飯と漬物嘗物三種	神州天子國	武井武雄手藝圖案集	命經	陶器を中心	秘談 青龍の刀	日本情痴集 望町餘會篇	光雲懷古談	戯曲 坊ちゃん	長篇小説 毒花
總布木版 數度刷裝 四六判二六〇頁	鳥ノ子木版 六度刷裝 四六判五六二頁	總布金箔入上製 キク判二二〇頁	總布木版 數度刷裝 四六判五七〇頁	鳥ノ子木版 八度刷裝 四六判四三四頁	總布木版 數度刷裝 四六判四六〇頁	總布木版 數度刷裝 四六判五五四頁	總布木版 數度刷裝 四六判七三〇頁	總布 數度刷裝 四六判三八〇頁	總布 數度刷裝 四六判五〇八頁
定價 一・〇〇 送料	定價 二・五〇 送料 一・四〇	定價 二・五〇 送料 一・四〇	定價 二・五〇 送料 一・四〇	定價 三・〇〇 送料 一・四〇	定價 二・三〇 送料 一・四〇	定價 二・〇〇 送料 一・四〇	定價 三・五〇 送料 一・六〇	定價 一・五〇 送料 一・二〇	定價 一・八〇 送料 一・四〇

萬里閣書房發行書目録

理學博士 石川千代松著	江原小彌太著	後藤朝太郎著	醫學博士 岡田道一著	子母澤寛著	眞山青果著	東京府農會技師 宮田孝次郎著	法學博士 尾佐竹猛著	篠田鐵造著	室井きさ子著
人間不滅	完成作 新約(上卷)	支那 眠れる獅子	スポーツ衛生	新選組遺聞	戯曲 乃木將軍	野菜の栽培調理(上)	夷狄の國へ <small>幕末遣外使節物語</small>	増補 幕末百話	母性愛日記
總布木版 數度刷裝 四六版五四一頁	總布木版 數度刷裝 四六版六三八頁	鳥ノ子木版 數度刷裝 四六版五八六頁	總布木版 數度刷裝 四六版二三七頁	總布木版 數度刷裝 四六版四〇六頁	總布木版 數度刷裝 四六版四〇八頁	總布木版 數度刷裝 四六版五一四頁	總布木版 數度刷裝 四六版三八四頁	總布木版 數度刷裝 四六版五〇九頁	總布木版 數度刷裝 四六版三八〇頁
定價 二・五〇 送料 一・四〇	定價 二・八〇 送料 一・四〇	定價 二・五〇 送料 一・四〇	定價 一・〇〇 送料 八〇	定價 二・〇〇 送料 一・四〇	定價 一・八〇 送料 一・二〇	定價 二・〇〇 送料 一・二〇	定價 一・八〇 送料 一・〇〇	定價 二・〇〇 送料 一・二〇	定價 一・八〇 送料 一・〇〇

57
32

萬里閣書房發行書目録

飯塚茂著	南洋の雄姿	總クロース金文字入 四六版六三〇頁	定價 三・〇〇 送料 一・六〇
東野善一郎著	天誅組天誅録	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版三三〇頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
河野桐谷編	漫談 江戸は過ぎる	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版五四〇頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
醫學博士 岡田道一著	受驗生の健腦法	總クロース金文字入 四六版二二三頁	定價 一・〇〇 送料 一・〇〇
東京府農會技師 宮田孝次郎著	野菜の栽培調理(下)	總布木版數度刷裝 四六版三九五頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
星野竹里著	貯金王 牧野 ニコノ、成功譚	總クロース金文字入 四六版四二二頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
東日新聞記者 和田邦坊著	漫畫 探訪	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版三五二頁	定價 一・五〇 送料 一・二〇
横山貞雄著	人間大倉喜八郎	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版三七七頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
東日新聞社編輯長 小野賢一郎著	明治大正昭和 記者生活二十年の記録	總布木版數度刷裝 四六版五九八頁	定價 二・八〇 送料 一・六〇
柳宗悅著	工藝美論	鳥ノ子木版輕裝 四六版一一〇頁	定價 一・五〇 送料 一・六〇

萬里閣書房發行書目録

新山虎治著	肚の人川村竹治	總クロース金文字入 四六版四二〇頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
福富織部著	臍 (へそ)	總布木版數度刷裝 四六版三九〇頁	定價 一・八〇 送料 一・二〇
高岡辰子著	照葉始末書	鳥ノ子木版數度刷裝 四六版四三二頁	定價 一・八〇 送料 一・二〇
有馬純清著	心靈界の驚異	總クロース 四六版三八一頁	定價 一・五〇 送料 一・〇〇
山内侯爵家史編纂部 平尾道雄著	海援隊始末	總布木版數度刷裝 四六版四〇九頁	定價 二・〇〇 送料 一・二〇
農學士 原澄次著	應用優生學	總布木版數度刷裝 四六版六二〇頁	定價 二・八〇 送料 一・二〇
東京朝日新聞記者 田原春次著	アメリカ大學案内	總布木版數度刷裝 四六版三〇一頁	定價 一・八〇 送料 一・〇〇
伯國大使館一等書記官 野田良治著	調査三十年 大アマゾニヤ	總布木版數度刷裝 四六版四四七頁	定價 二・六〇 送料 一・二〇
海軍少佐 石丸藤太著	倫敦軍縮會議へ	總布オフセット刷裝 四六版五七二頁	定價 二・五〇 送料 一・四〇
九重左近著	江戸近世舞踊史	總クロース金文字入 菊版 五九〇頁	定價 五・五〇 送料 一・八〇

57
32

萬里閣書房發行書目録

波多野承五郎著	食味の眞髓を探る	總布木版數度刷裝 四六判三八八頁	定價一・八〇 送料一・四〇
宮武辰夫著	アラスに原始藝術を探る	總布木版數度刷裝 四六判三〇〇頁	定價三・五〇 送料一・六〇
政友會總裁 犬養毅 著述	箭は弦を離れたり	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判一四四頁	定價〇・四〇 送料一・四〇
澤田謙著	モルガン	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三五八頁	定價一・五〇 送料一・〇〇
大泉黒石著	讀心術	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判二九八頁	定價一・八〇 送料一・二〇
經濟學博士 太田正孝著	人情亡國論	總布箱入上製 四六判三四六頁	定價一・五〇 送料一・二〇
長野朗著	自由支那へ	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三四〇頁	定價一・五〇 送料一・二〇
岡田健文著	心靈不滅	總布木版數度刷裝 四六判五六五頁	定價二・五〇 送料一・四〇
農學士 江越信胤著	産業より觀たる新ブラジル	總クロース上製 四六判九六七頁	定價四・五〇 送料二・〇〇
佐藤太平著	日本民族戀愛史	總布木版數度刷裝 四六判五九八頁	定價二・六〇 送料一・四〇

萬里閣書房發行書目録

ウインストン・チャーチル著 西村二郎譯	大戰後日譚	總クロース上製 四六判七二八頁	定價三・〇〇 送料一・六〇
早稻田中學校敎諭 門倉秀幸著	代數學解き方のコツ	總皮金文字入 三五判四〇〇頁	定價一・五〇 送料一・八〇
波多野承五郎著	隨筆東海道	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三九四頁	定價一・八〇 送料一・四〇
淺野中學校敎諭 石田吉貞著	國文解き方のコツ	總皮金文字入 三五判四〇〇頁	定價一・八〇 送料一・〇〇
大毎東亞通信部 副部長 村田孜郎著	支那の左翼戰線	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三二八頁	定價一・五〇 送料一・二〇
佐藤進一著	不老仙人列傳	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判五〇〇頁	定價二・三〇 送料一・六〇
早稻田大學敎授 川邊喜三郎譯著	政戰哲學	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判二七〇頁	定價一・三〇 送料一・〇〇
口村信郎著	王宮秘聞 ローマ法王	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判六三四頁	定價一・八〇 送料一・二〇
馬郡健次郎著	熱血宰相	鳥ノ子木版五度刷裝 四六判三一二頁	定價一・二〇 送料一・二〇
リリアン・ムツニリエ著 榎義衛譯	女性に與ふる社會主義の修正	鳥ノ子木版特製 四六判二八〇頁	定價一・八〇 送料一・〇〇

57
32

萬里閣書房發行書目録

澤野中學校教諭 石田吉貞著	海軍少佐 石丸藤太著	林禮子著	齋藤秀三郎著 鯨岡政治編纂	濱田成雄著	エルンスト・クレンエザア著 清田龍之助譯	東京文芸科大學教授 竹友藻風著	馬郡健次郎著	大每京城支局長 長永義正著	布利秋著
國文法解き方のコツ	軍縮に目醒る	改訂 火焰を蹴る	前置詞及動詞の講義	南阿開拓セシル・ローツ の偉人	一九〇二年度	英文學論攷	ヂヤヅの歐羅巴	グロテスク支那	日本没落か？
總ナメシ皮金文字 三五判二〇〇頁	總クローヌ上製 四六判三九七頁	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判四二二頁	總クローヌ上製 菊判六〇八頁	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三〇三頁	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判四七二頁	總クローヌ特製 菊判三二〇頁	鳥ノ子木版八度刷裝 四六判四四〇頁	鳥ノ子木版數度刷裝 四六判二八三頁	鳥ノ子木版五度刷裝 四六判四〇四頁
定價一・〇八 送料	定價一・六〇 送料	定價一・五〇 送料	定價五・五〇 送料	定價一・二〇 送料	定價一・五〇 送料	定價三・〇八 送料	定價一・二八 送料	定價一・五〇 送料	定價一・八〇 送料

萬里閣書房發行書目録

池田林儀著	醫學博士 戸田一外著	ドクトル・オプ・ フロロフワイ 有馬純清著	池田林儀著	伊藤松雄著	明治大學教授 師尾源藏著	井上紅梅著	大每京城支局長 長永義正著	海軍少佐 石丸藤太譯	高木乘著
女の畑を覗く	船醫風景	唯物論を破る	新興ドイツ魂	半男半女物語	新朝鮮風土記	酒・阿片・麻雀	カムチャツカ大觀	太平洋 攻防 世界第二大戰	指紋の神秘
鳥ノ子木版數度刷裝 四六判三五八頁	總布木版數度刷裝 四六判四七〇頁	總クローヌ特製 四六判二六三頁	總クローヌ特製 四六判四七九頁	近刊	近刊	近刊	近刊	近刊	近刊
定價一・五〇 送料	定價二・〇〇 送料	定價一・五〇 送料	定價二・〇〇 送料	定價二・〇〇 送料	定價一・五〇 送料	定價一・五〇 送料	定價一・五〇 送料	定價一・五〇 送料	定價一・五〇 送料

57
32

57
32

578
323

